

新聞紙ニ對シ一年以内ニ二回以上前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ其ノ新聞紙ヲ本法施行ノ地域内ニ輸入又ハ移入スルヲ禁止スルコトヲ得

第二十五條 前項第二項ニ依ル禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル新聞紙及第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十六條 本法ニ依リ差押ヘタル新聞紙ニシテ二年以上其ノ差押ヲ解除セラレサルトキハ差押ヲ執行シタル行政官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第二十七條 陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙ニ對シ命令ヲ以テ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二十八條 第二條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行人又ハ編輯人ト爲リタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第三條ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ第四條第一項第一號第四號乃至第六號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 第四條第一項第二號又ハ第三號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條 第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死亡シ又ハ第三條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者其ノ他ノ場合ニ於テハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實ヲ以テセサルトキハ發行人編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十四條 第十二條第一項、第二項、第十六條ニ違反シ又ハ第二十二條ニ依ル差止ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第十七條第一項、第二項、又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
前項ノ罪ハ私事ニ係ル場合ニ於テ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十六條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十七條 第二十一條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十八條 第二十三條ニ依ル禁止若ハ差止ノ命令、第二十四條ニ依ル禁止命令、第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シタルトキハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

ルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十三條第一項、第二十四條第一項、第二十五條ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十七條ニ依ル禁止又ハ制限ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セムトスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第四十條乃至第四十二條ニ依リ處罰スル場合ニ於テ裁判所ハ其ノ新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得
第四十四條 本法ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス
第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ告訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁

判所ニ於テ惡意ニ出テス専ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

附 則

新聞紙條例ハ之ヲ廢止ス
本法施行前ヨリ發行スル新聞紙ニシテ本法ノ規定ニ依リ保證金ニ關額ヲ生スルニ至リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ三年間其ノ填補ヲ猶豫ス
第二十六條ノ規定ハ本法施行前ノ差押ニ係ル新聞紙ニ之ヲ準用ス

新聞紙法ニ關スル願届書式

(第一號書式)

新聞紙發行届 (第一回發行年月日ヨリ十日前三屆書ニ通)

- 一 題號 何々
- 二 掲載事項ノ種類 何々
- 三 時事ニ關スル事項掲載ノ有無 (有、無)
- 四 發行時期 日刊又ハ毎月何回 (何日若クハ不定)
- 五 第一回發行年月日 何年何月何日
- 六 發行所所在地及名稱

七 印刷所所在地及名稱
 八 持主氏名、原籍、居住地、生年月日
 九 發行人 同上
 十 編輯人 同上
 十一 印刷人 同上
 右ハ新聞紙法ニ據リ發行致候間(管轄廳ニ保證金何圓納置候條)此段及御届候也
 年 月 日

内務大臣

宛 發行人 氏 名 印
 宛 持主 氏 名 印

(第二號書式)

新聞紙改題届 (變更十日
 届書二通)
 一 現在ノ題號
 二 變更ノ題號
 右 年 月 日ヨリ改題致候間此段御届申上候也
 年 月 日

内務大臣

宛 發行人 氏 名 印
 宛 住所 氏 名 印

(第三號書式)

何新聞紙記載ノ種類變更届 (變更十日
 届書二通)

一 現在ノ記事ノ種類
 一 變更ノ記事ノ種類
 右 年 月 日ヨリ變更致候間此段御届申上候也
 (保證金ヲ納メス發行シタルモノヲ變更シテ保
 證金ヲ要スルモノト爲サントスル例左ノ如シ)
 右 年 月 日ヨリ變更致候ニ付保證金何圓(若ハ有價證
 廳へ納置候間此段御届申上候也
 年 月 日

内務大臣

宛 發行人 氏 名 印
 宛 編輯人 氏 名 印
 宛 印刷人 氏 名 印

(第四號書式)

何新聞紙發行人變更届 (變更前又ハ變更後七
 日以内 届書二通)
 現在發行人 氏 名
 原籍及居住ノ地
 新 發行人 氏 名
 右ノ通り 年 月 日ヨリ變更致候間此段御届申上候也
 現在發行人 氏 名
 新 發行人 氏 名

内務大臣

宛 新 發行人 氏 名 印
 宛 現在發行人 氏 名 印

(第四號 同 乙)

何新聞紙發行人變更届 (變更前又ハ變更後
 七日以内 届書二通)
 舊 發行人 氏 名
 原籍及居住ノ地
 新 發行人 氏 名
 右舊發行人何誰 年 月 日死亡(法律上資格ヲ失ヒ)候ニ付
 (何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引續發行致候處) 年 月 日ヨ
 リ右ノ通り變更致候間此段御届申上候也
 年 月 日

内務大臣

宛 舊 發行人 氏 名
 宛 假 發行人 氏 名 印
 宛 新 發行人 氏 名 印
 宛 原籍及居住ノ地 氏 名 印

(第五號書式)

何新聞紙編輯人(印刷人)變更届
 舊編輯人(舊印刷人) 氏 名
 原籍及居住ノ地

(第六號書式)

何新聞紙發行時期變更届 (變更前又ハ變更後
 七日以内 届書二通)
 一 舊發行ノ時期
 一 新發行ノ時期
 右ノ通り 年 月 日ヨリ變更致候間此段御届申上候也
 年 月 日

内務大臣

宛 發行人 氏 名 印

(第七號書式)

何新聞紙發行所(印刷所)變更届
 一 舊發行所(舊印刷所)所在及名稱
 一 新發行所(新印刷所)所在及名稱

右之通り 年 月 日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年 月 日

内務大臣 宛 發行人 氏 名 宛

教科用圖書檢定規則

(明治二十年五月七日文部省令第二號) (大正十五年省令第三十五號改正)

第一條 教科用圖書ノ檢定ハ師範教育令中學校令高等女學校令小學校令及教則ノ旨趣ニ合シ教科用ニ適スルコトヲ認定スルモノトス本規則ニ於テ教科用圖書ト稱スルハ師範學校中學校高等女學校ニ關シテハ生徒用圖書トシ小學校ニ關シテハ教師用圖書及兒童用圖書トス

前項ノ教師用圖書トハ教授スヘキ事項教授上ノ注意及應用ニ關スル事項等ヲ記載シタル圖書又ハ該圖書ニ附屬シテ兒童ニ示スヲ目的トスル掛圖類ヲ云フ

第二條 圖書ノ發行者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得外國ニ於テ發行シタル圖書ハ左ノ各號ノ一ニ當ルモノニ限り發行者ニ於テ其圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得

一 師範學校中學校又ハ高等女學校ニ於ケル英語獨語佛語ノ教科用ヲ目的トスルモノ

二 小學校ニ於ケル英語ノ教科用ヲ目的トスルモノ

第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ第一條第二項ノ掛圖類ハ二部ノ定價其ノ他ハ二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定願書ニ添ヘ文部省ニ納ムヘシ但檢定ヲ得タル後定價ヲ增加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ

定價ノ記載セサル圖書ハ檢定セス

第四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中瑣少ノ修正ヲ加フレハ檢定ヲ與フルコトヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ其廉價ヲ檢定出願者ニ指示スルコトアルヘシ

檢定用與ヘタル圖書中修正ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ其ノ廉價ヲ發行者ニ指示シテ修正セシムルコトアルヘシ

發行者前項ノ指示ニ從ハサルトキハ其ノ圖書ノ檢定ノ效力ヲ取消スコトアルヘシ

第五條 檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱、冊數定價、目的トスル學校並學科ノ種類發行ノ年月日並該圖書ニ記載スル所ノ著譯者及發行者ノ住所姓名等ヲ廣告スヘシ

第六條 檢定ノ效力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス

第七條 第五條ニ依リ廣告シタル定價、發行ノ年月日並著譯者及發行者ノ住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中其記載方ヲ變更シ

タルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル冊數ヲ變更シタルトキハ更ニ官報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ效力該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條 檢定出願者ニシテ檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ知ラントスルトキハ指令到達ノ日ヨリ六十日以内ニ願出ツヘシ

第九條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ヲ納ムヘシ但第條ノ指示ヲ受ケテ修正ヲ加フル場合ハ此限ニアラス

第十條 圖書ノ發行者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ變更アルニ會スルトキハ其事項ノ廣告ヲ文部省ニ請フヘシ

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後ハ其願下ヲナストキ又ハ其他何等ノ事由アリトモ既ニ納メタル手数料ハ之ヲ還附セサルモノトス

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖書ヲ増減若クハ校訂シ又ハ枚數行數字體畫數ヲ變更シ又ハ檢定願書ニ添ヘ差出シタル圖書ニ比シ紙質印刷ヲ粗惡ニシ又ハ註解附録序跋ヲ加除若クハ變更スル場合ヲ包含スルモノトス

第十三條 第四條ニ依リ圖書中修正スヘキ廉價指定シタルトキハ一箇年以内ニ其廉價修正シテ該圖書ノ檢定ヲ追願スヘシ此期限内ニ修正追願セサルトキハ該圖書ハ檢定ヲ與ヘス

第十四條 檢定ヲ得タル圖書ハ每冊表紙又ハ扉ニ年月日文部省檢定濟何學校何學科用ノ文字ヲ記載スヘシ但小學校教科用圖書ニ在リテハ仍兒童教師用ノ別ヲ附記スヘシ

第十五條 檢定ヲ得サル圖書若クハ第六條第七條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定濟其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ發行シ又ハ情ヲ知りテ其ノ圖書ヲ受託販賣スルコトヲ得ス

第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ二十五圓以内ノ罰金又ハ二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第十七條 圖書ハ其全部揃ヒタルモノニアラサレハ檢定セス

第十八條 第六條第七條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定濟其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ發行シタルトキハ其檢定ノ效力ヲ取消スコトアルヘシ

第十九條 第二條第二項ニ依リ檢定ヲ請フ者ニシテ帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ檢定ニ關スル一切ノ事項ヲ代理セシメンカ爲ニ帝國內ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ

第二十二條 檢定ヲ得タル圖書ノ發行者ハ次學年ノ始ヨリ起算シ五箇年其ノ圖書ノ供給ヲ止ムルコトヲ得ス但特別ノ事情アル場合ニ於テ文部省ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ規定セル期間滿了後其ノ圖書ノ供給ヲ止メントスルトキハ發行並ニ檢定濟年月日ヲ具シ其ノ前年九月末日迄ニ文部

省ニ届出ツヘシ

第二十三條 第十四條若クハ第十五條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケス若クハ届出ヲ了セスシテ圖書ノ供給ヲ止メタル者ノ發行ニ係ル圖書ニ對シテハ檢定ヲ行ハサルコトアルヘシ

第二十四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ甲號書式ニ依リ第十三條ニ依リ追願スル者ハ乙號書式ニ依リ又檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ丙號書式ニ依リ願出ツヘシ

教科書檢定ニ關スル願届書式

(甲號書式) 檢定願

圖書ノ名稱	卷冊ノ記號員數	著譯者ノ住所氏名	發行者ノ住所氏名	發行ノ年月日	目的トスル學校並種類
-------	---------	----------	----------	--------	------------

右ノ圖書御檢定相成度該圖書……部及手數料金相添此段相願候也

年月日

住所

氏名

文部大臣

宛

(乙號書式) 檢定追願

圖書ノ名稱	卷冊ノ記號員數	著譯者ノ住所氏名	發行者ノ住所氏名	修正發行ノ年月日	目的トスル學校並種類
-------	---------	----------	----------	----------	------------

右ハ年月日附檢定願出候處年月日ノ御旨示ニ基キ今般修正發行致候間尙御檢定相成度該圖書……部相添ヘ此段相願候也

年月日

住所

氏名

(丙號書式) 修正檢定願

圖書ノ名稱	卷冊ノ記號員數	著譯者及發行者ノ住所氏名	修正發行ノ年月日	目的トスル學校並種類	修正事項ノ要領
-------	---------	--------------	----------	------------	---------

右ハ年月日檢定済ノ處修正發行致候間御檢定相成度該圖書……部及手數料金……相添ヘ此段相願候也

年月日

住所

氏名

文部大臣

宛

軍隊教育用圖書檢閱規則

(大正七年一月陸軍省令第二號)

第一條 軍隊教育ノ目的ヲ以テ陸軍官憲ニ於テ發行シタル圖書圖書ノ翻刻物ハ陸軍官憲ノ檢閱ヲ受ケタルモノニ限り軍隊ニ使用セシム

第二條 本規則ニ依リ檢閱スヘキ圖書圖書ノ名目ハ之ヲ告示ス第三條 第一條ノ圖書圖書ヲ翻刻スル者ハ其ノ翻刻物ノ檢閱ヲ陸軍官憲ニ出願スルコトヲ得

前項ノ檢閱ハ東京府下ニ在リテハ陸軍省、其ノ他ノ地ニ在リテハ所在地附近ノ軍隊ニ於テ之ヲ行フ

第四條 翻刻物ニハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
一 翻刻物ノ體裁ハ概ネ陸軍官憲ニ於テ發行シタルモノト同一ナルコト

出版關係法規

二 翻刻物ハ其ノ色別、梯尺、文字ノ大小字體、圖書(冊數枚數行數及每行ノ字數ハ陸軍官憲ニ於テ發行ノモノト異ナルヘカラス

三 翻刻物ハ紙質脆弱又ハ粗惡ナルヘカラス且印刷鮮明ニシテ製本鞏固ナルコト

翻刻物中伸製縮製又ハ數種ヲ合本トスル必要アル場合ニハ見本ヲ添ヘ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 翻刻物ヲ檢閱シ前條ノ條件ヲ具備シタルモノナルトキハ出願人ニ檢閱済證ヲ交付ス

第六條 檢閱済證ニハ其ノ表紙アルモノハ題名ノ右肩ニ其ノ他ノモノニ在リテハ見易キ位置ニ「(大正)何年何月何日、(改版)シタルモノニ在リテハ第何版」陸軍省(陸軍某隊)檢閱済ト記載スヘシ

第七條 檢閱済ノ翻刻物ヲ改版シタルトキハ左ニ交付シタル檢閱済證ハ其ノ效力ヲ失フ

第八條 檢閱ヲ受ケサル圖書圖書ノ翻刻物ニ第六條ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令施行前ノ規定ニ依ル檢閱済ノ翻刻物ニ限り本規則第六條及第八條ノ規定ヲ適用セス

文部省圖書推薦規程

(昭和五年九月一日)
文部省令第二十二號

- 第一條 社會教育ニ裨益アリト認めラルル圖書ニシテ特ニ優良ナルモノハ本令ニヨリ之ヲ推薦ス
- 第二條 推薦ヲ受ケタル圖書ニハ文部省推薦ノ文字ヲ記入スルコトヲ得之ヲ記入ナシ場合ニハ推薦ヲ受ケタル年月日ヲ明記スルコトヲ要ス
- 前項ノ記入ナシタル圖書ニ修正ヲ加ヘタルトキハ其ノ發行者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ文部大臣ニ届出ツヘシ
- 第三條 推薦シタル圖書ニシテ修正其ノ他ノ事由ニヨリ必要アリト認めルトキハ推薦ヲ取消スコトアルヘシ
- 第四條 推薦シタル圖書ノ名稱冊數定價發行ノ年月日並著作者及發行者ノ住所氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス推薦ヲ取消シタルトキ亦同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

文部省圖書認定規程

(大正十五年一月九日)
文部省令第二號

- 第一條 社會教育ニ裨益アリト認めラルル圖書ハ本令ニ依リ之ヲ認定ス
- 第二條 圖書ノ著作者又ハ發行者ニ於テ圖書ノ認定ヲ受ケントスルトキハ其ノ圖書二部及手数料ヲ添ヘ別紙様式ノ認定願書ヲ文部大臣ニ差出スヘシ
- 第三條 手数料ハ圖書一部ニ付其ノ圖書三部ノ定價ニ等シキ金額トス出願ノ際文部大臣官房會計課ニ納付スヘシ
- (文部大臣ニ於テ必要ト認めルトキハ手数料ヲ免除スルコトアルヘシ既納ノ手数料ハ之ヲ還付セス)
- 第四條 認定ヲ受ケタル圖書ニハ文部省認定ノ文字ヲ記入スルコトヲ得
- 第五條 認定ノ效力ハ認定ヲ受ケタル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス但シ修正ニ付文部大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス
- 第六條 認定ヲ與ヘタル圖書ニシテ修正ヲ要スルモノアリト認めタルトキハ期間ヲ定メ之ヲ修正セシムルコトアルヘシ

(様式) 圖書認定願

圖書ノ名稱	冊數	著作者ノ住所氏名	發行者ノ住所氏名	發行ノ年月日	定價
-------	----	----------	----------	--------	----

右ノ圖書御認定相成度該圖書二部及手数料金……相添此段及御願候也

年 月 日

住 所

氏 名

文部大臣 宛 名 印

- 第七條 認定ヲ受ケタル者本令ノ規定ニ違背シタルトキ又ハ文部大臣ニ於テ必要ト認めルトキハ當該圖書ノ認定ヲ取消スコトヲ得
- 第八條 認定シタル圖書ノ名稱、冊數、定價、發行ノ年月日並著作者及發行者ノ住所、氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス
- (前條ノ規定ニ依リ認定シタルトキ亦同シ)

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年文部省令第二十二號通俗圖書認定規程ハ之ヲ廢止ス從前ノ規程ニヨリ認定シ又ハ認定ヲ申請シタル圖書ハ本令ニ依リ之ヲ認定シ又ハ認定ヲ申請シタルモノト看做ス

出版法ニ據リ刻版印本を差押へタルトキ取扱處分法

(明治二十九年二月五日) 内務省訓令第二號

府 縣 (東京府ヲ除ク)

新聞紙例第二十條及第十九條ニ據リ新聞紙若クハ刻版及印本ヲ差押へタルトキハ當該官廳ニ於テ嚴密ニ封印ヲ施シ發行人若クハ發行者及刻版所有者ヲシテ看守セシムルコトヲ得若シ發行人若クハ發行者及刻版所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ警察官立合ノ上其ノ新聞紙若クハ刻版及印本ヲ破棄セシムルモ妨ナシ但明治二十一年一月訓令第四五號訓令第二號中第五及第四項ハ自今消滅シタルモノト心得ヘシ

差押出版物ノ分割還付ニ關スル件

(昭和二年八月十一日示達) 追加昭和四年六月七日示達

一、分割還付セラルヘキ出版物及條件

(一) 主トシテ學術、文藝、美術等ニ關スル記事ヲ掲載シ且社

地方長官ハ必要ト認ムルトキハ還付費用ノ豫定額ヲ前納セシムルコトヲ得

四、注意事項

將來本示達ニ依リ分割還付ヲ實施スルニ當リ禁止處分アリタル旨ヲ廣告又ハ宣傳ニ利用シ又ハ利用セシメタルニ於テハ爾後特典ニ與リ得サルコト

五、再出版ノ監督

還付ヲ受ケタル出版物ヲ用ヒ其儘又ハ加工シテ再發行スルトキハ出版法又ハ新聞紙法ニ依リ納本ヲ要スルハ勿論ナリト雖モ題名(普通出版物ノ場合ニ限ル)發行日付號數表裝其他ヲ適宜變更シ一見シテ禁止出版物ト之ヲ區別シ易カラシメ再頒布前差押官廳ノ検査ヲ受クルコト、但シ改裝其ノ他ノ爲ニ取纏メタル場合ニ於テハ便宜上發行所所管地方長官ノ検査ヲ受クルコトヲ妨ケス

六、參考上必要部數ノ保留

差押出版物ハ原本ノ儘出版警察ノ參考上必要ナル部數ヲ内務省ニ保留スルコト其部數ハ決定書ヲ以テ之ヲ通知ス

七、新聞紙法ニ依ル週刊以上ノ雜誌

新聞紙法ニ依リ發行スル雜誌ト雖モ週刊以上ノモノハ前各項ニ依リ處理スルコト

(備考) 本件に關しては昭和二年九月一日發行の單行本又は

出版關係法規

會ノ文化ニ貢獻スルモノト認メラルル單行本又ハ週刊以上ノ雜誌及其刻版ニ限ルコト

(2) 無納本若クハ甚シキ納本遲延ノ事實アリタルモノ又ハ發行者ニ於テ差押執行ノ妨害ヲ爲シタルモノニ對シテハ原則トシテ之ヲ許ササルコト

(3) 禁止個所少數少量ニシテ容易ニ檢出削除シ得ルモノニ限ルコト

(4) 差押部數カ相當多數ナル場合ニ限ルコト

(5) 還付ハ禁止命令アリタル日ヨリ一ヶ月以内ニ發行者ヨリ請求アリタル場合ニ限ルコト

二、手續

(1) 還付決定ノ請求ハ發行者發行人又ハ其ノ代理人ヨリ書面ヲ以テ直接内務省ニ對シ之ヲ爲スコト

(2) 還付スヘキヤ否ハ内務省ニ於テ之ヲ決定シ請求者並地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下做之)ニ之ヲ通知スルコト還付ノ實施ハ發行者發行人又ハ其ノ代理人ヨリ還付決定通知書ノ寫ヲ添付シ差押ヲ爲シタル地方長官ニ之ヲ請求スルコト尙削除個所ハ内務省ノ決定ニ依ルコト

三、費用

還付ニ要シタル費用ハ凡テ請求者ノ負擔トスルコト尙差押中ニ生シタル破損等ニ對シテハ責任ヲ負ハサルコト

月刊以上の雜誌より之を實施中の處、昭和六年四月七日更に週刊以上の出版物に對しても分割還付許可相成旨追加せらる

新聞紙法及豫約出版法ニ依ル保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價證券ノ種類

(明治四十三年四月十六日) 内務省令第十五號 改正
(大正十年内務省令第五號)

新聞紙法第十二條第三項及豫約出版法第四條第二項ニ依リ管轄地方官廳ニ納ムヘキ保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價證券ノ種類左ノ如シ

一 國債證券

附 則

明治四十二年五月内務省令第十五號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (大正十年内務省令第五號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前納付シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其效力ヲ有ス

納本ニ就テノ注意

○書籍ヲ出版シ雜誌ヲ發行スル毎ニ左ノ如ク納本スルコトヲ要ス

書籍 (出版法ニ依ル雜誌モ同シ)

内務省警保局圖書課 (出版届ト共ニ) 二部

○新聞紙法ニ據リ發行スルモノハ發行ト同時ニ左記ニ納本ヲ要ス

内務省警保局圖書課 二部

警視廳官房 檢關係 一部

(東京) 地方裁判所 檢事局 一部

(東京) 區裁判所 檢事局 一部

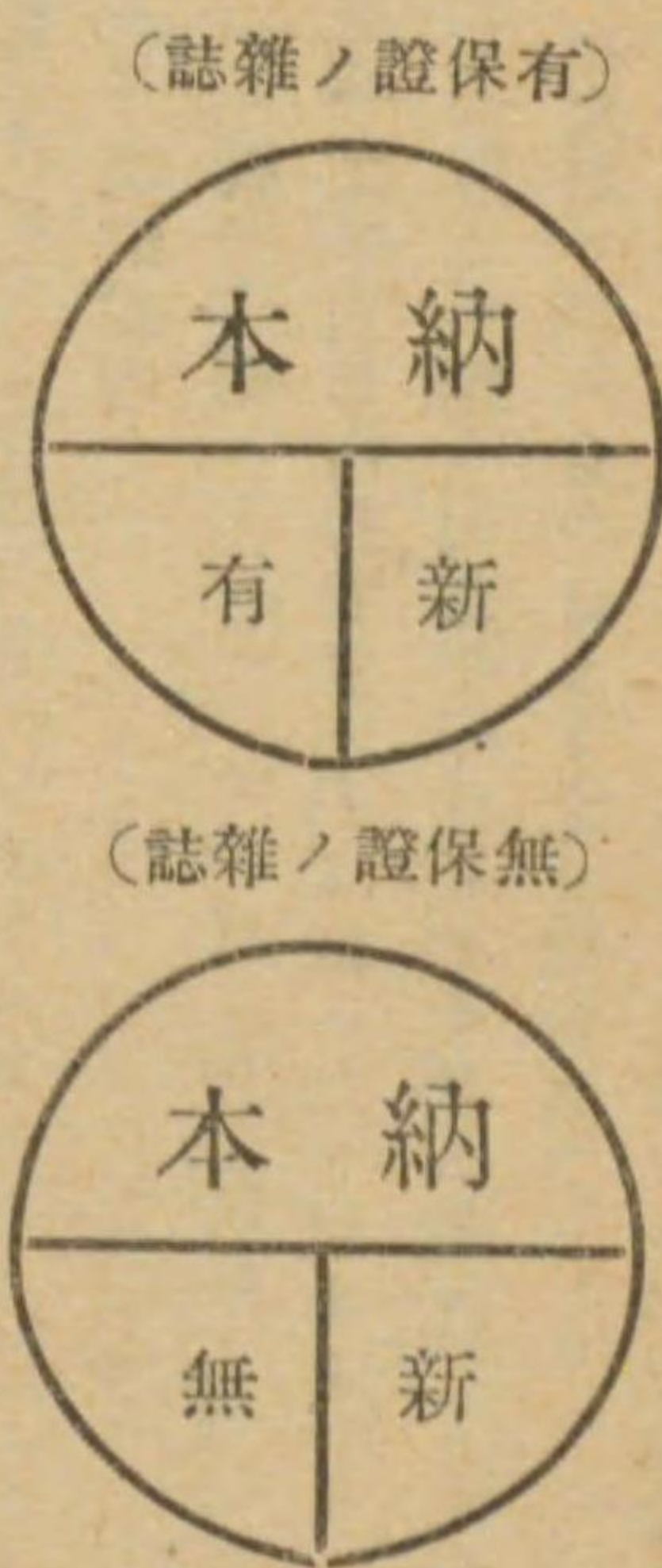
差出郵便局 一部

所轄警察署 一部

○本届出及納本ヲ怠リタルトキハ新聞紙法違反ニ據リ處罰サルルコトアルヘシ

○本屆書ハ警視廳檢關係ヘ提出ヲ要ス

○納本ニハ表面ニ左記ノ印ヲ(直徑曲尺一寸)圓形ノ印)捺捺スルコト



著作權法

(明治三十二年三月四日法律第三十九號)

改正

明治四三年法律第六三號
大正九年法律第六〇號
昭和六年法律第六四號
昭和九年法律第四八號

第一章 著作者ノ權利

第一條 文書演述圖畫建築彫刻模型寫眞演奏歌唱其ノ他文藝學術若ハ美術(音樂ヲ含ム以下之ニ同シ)ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス(明治四三年法律第六三號、大正九年同第六〇號、昭和六年同第六四號ヲ以テ本項中改正)

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

第二條 著作權ハ其ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スルコトヲ得(昭和九年法律第四八號ヲ以テ本條中改正)

第三條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間

及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第四條 著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ期間内ニ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條 官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ヲ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅ス

第八條 冊等ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ツツチ順次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作
者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起
算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ
得ス

- 一 法律命令及官公文書
- 二 新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル雜報及時事ヲ報道スル記事
(明治四十三年法律第六三號、昭和六年同第六四號ヲ以テ
本號中改正)
- 三 公開セル裁判所、議會並政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行又ハ興行者ハ著作權者
ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作權者其ノ實名ノ登
録ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作ノ共
有ニ屬ス

各著作ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中
ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者
ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アル
トキハ此ノ限ニ在ラス
各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其

ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分
ヲ分離シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ
反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作
者ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲クルコトヲ得ス

第十四條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做
シ其ノ編輯物全部ニ付テノ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權
ハ著作者ニ屬ス

第十五條 著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サ
レハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ現ニ其ノ著作權ヲ有スルト否
トニ拘ラス其ノ實名ノ登録ヲ受クルコトヲ得(明治四十三年法
律第六三號ヲ以テ全條改正、昭和六年同第六四號ヲ以テ本項
中改正)

著作者ハ現ニ著作權ヲ有スルト否トニ拘ラス其ノ著作物ノ著
作年月日ノ登録ヲ受クルコトヲ得(昭和九年法律第四八號ヲ
以テ本項追加)

第十六條 登録ハ行政廳之ヲ行フ

登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權
ハ價權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトヲ得但シ著作權者ニ於テ承

諸チ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 他人ノ著作物ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ著作
者ノ生存中ハ著作者カ現ニ其ノ著作權ヲ有スルト否トニ拘ラ
ス其ノ同意ナクシテ著作者ノ氏名稱號ヲ變更若ハ隱匿シ又ハ
其ノ著作物ニ改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘ若ハ其ノ題號ヲ改ムル
コトヲ得ス

他人ノ著作物ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ著作者ノ死後
ハ著作權ノ消滅シタル後ト雖モ其ノ著作物ニ改竄其ノ他ノ變
更ヲ加ヘテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作
者ノ氏名稱號ヲ變更若ハ隱匿スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ第二十條、第二十二條ノ二、第二十二條ノ五
第二項、第二十七條第一項第二項及第三十條第一項第二號乃
至第九號ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス(昭和六年法律第六四號
ヲ以テ全條改正、昭和九年同(第四八號ヲ以テ本項中改正))

第十九條 原著物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附録、
圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲
新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモ
ノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル政治上ノ時事問題ヲ論
議シタル記事(學術上ノ著作物ヲ除ク)ハ特ニ轉載ヲ禁スル
旨ノ明記ナキトキハ其ノ出所ヲ明示シテ之ヲ他ノ新聞紙又ハ

雜誌ニ轉載スルコトヲ得(明治四十三年法律第六三號ヲ以テ本
條中改正、昭和六年同第六四號ヲ以テ全條改正)

第二十條ノ二 時事問題ニ付テノ公開演述ハ著作者ノ氏名、演
述ノ時及場所ヲ明示シテ之ヲ新聞紙又ハ雜誌ニ掲載スルコト
ヲ得但シ同一著作者ノ演述ヲ蒐輯スル場合ハ其ノ著作者ノ許
諾ヲ受クルコトヲ要ス(昭和六年法律第六四號ヲ以テ追加)

第二十一條 翻譯者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ
原著者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラルルコトナシ(明治四三年
法律第六三號ヲ以テ全條改正)

第二十二條 原著物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著
作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十二條ノ二 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ
著作權ハ其ノ著作物ヲ活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ
複製(脚色シテ映畫ト爲ス場合ヲ含ム)シ及興行スルノ權利ヲ
包含ス(昭和六年法律第六四號ヲ以テ追加)

第二十二條ノ三 活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ製作シ
タル著作物ノ著作者ハ文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著
作物ノ著作者トシテ本法ノ保護ヲ享有ス其ノ保護ノ期間ニ付
テハ獨創性ヲ有スルモノニ在リテハ第三條乃至第六條及第九
條ノ規定ヲ適用シ之ヲ缺クモノニ在リテハ第二十三條ノ規定
ヲ適用ス(同上)

第二十二條ノ四 他人ノ著作物ヲ活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ複製(脚色シテ映畫ト爲ス場合ヲ含ム)シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラレルコトナシ(同上)

第二十二條ノ五 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ノ無線電話ニ依ル放送ヲ許諾スルノ權利ヲ包含ス

無線電信法及之ニ基キ發スル命令ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル放送無線電話施設者ハ既ニ發行又ハ興行シタル他人ノ著作物ヲ放送セントスルトキハ著作權者ト協議ヲ爲スコトヲ要ス協議調ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ定ムル相當ノ償金ヲ支拂ヒ其ノ著作物ヲ放送スルコトヲ得
前項ノ償金ノ額ニ付異議アル者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得(同上)

第二十二條ノ六 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ヲ音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ寫調シ及其ノ機器ニ依リ興行スル權利ヲ包含ス(昭和九年法律第四八號ヲ以テ追加)

第二十二條ノ七 音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ他人ノ著作物ヲ適法ニ寫調シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ機器ニ付テノ著作權ヲ有ス(同上)

又ハ興行スルコトヲ得(昭和九年法律第四八號ヲ以テ本項追加)

前項ノ償金ノ額ニ付異議アル者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得(同上)

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

第二章 出版權

(昭和九年法律第四八號ヲ以テ本章追加)

第二十八條ノ二 著作權者ハ其ノ著作物ヲ文書又ハ圖畫トシテ出版スルコトヲ引受クル者ニ對シ出版權ヲ設定スルコトヲ得(昭和九年法律第四八號ヲ以テ追加)

第二十八條ノ三 出版權者ハ設定行爲ノ定ムル所ニ依リ出版權ノ目的タル著作物ヲ原作ノ儘印刷術其ノ他ノ機械的又ハ化學的方法ニ依リ文書又ハ圖畫トシテ複製シ之ヲ發賣頒布スルノ權利ヲ享有ス但シ著作權者タル著作物ノ死亡シタルトキ又ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テ出版權ノ設定アリタル後三年ヲ經過シタルトキハ著作權者ハ著作物ヲ全集其ノ他ノ編輯物ニ輯録シ又ハ全集其ノ他ノ編輯物ノ一部ヲ分離シテ別途ニ之ヲ出版スルコトヲ妨ケス(同上)

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著物ノ著作權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作權ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

著作權者ノ居所不明ナル場合其ノ他命令ノ定ムル事由ニ因リ著作權者ト協議スルコト能ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ定ムル相當ノ償金ヲ供託シテ其ノ著作物ヲ發行

第二十八條ノ四 出版權ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ設定アリタルトキヨリ三年間繼續ス(同上)

第二十八條ノ五 出版權者ハ出版權ノ設定アリタルトキヨリ三月以内ニ著作物ヲ出版スルノ義務ヲ負フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

出版權者カ前項ノ義務ニ違反シタルトキハ著作權者ハ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得(同上)

第二十八條ノ六 出版權者ハ著作物ヲ繼續シテ出版スルノ義務ヲ負フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

出版權者カ前項ノ義務ニ違反シタルトキハ著作權者ハ三月以上ノ期間ヲ定メテ其ノ履行ヲ催告シ其ノ期間内ニ履行ナキトキハ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得(同上)

第二十八條ノ七 著作權者ハ出版權者カ著作物ノ各版ノ複製ヲ完了スルニ至ル迄其ノ著作物ニ正當ノ範圍内ニ於テ修正増減ヲ加フルコトヲ得

出版權者カ著作物ヲ再版スル場合ニ於テハ其ノ都度豫メ著作權者ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス(同上)

第二十八條ノ八 著作權者ハ其ノ著作物ノ出版ヲ廢絶スル爲何時ニテモ損害ヲ賠償シテ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得(同上)

第二十八條ノ九 出版權ハ著作權者ノ同意ヲ得テ其ノ讓渡又ハ

質入ヲ爲スコトヲ得(同上)

第二十八條ノ十 出版權ノ得喪變更及質入ハ其ノ登錄ヲ受ケル

ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條ノ規定ハ出版權ノ登錄ニ付テハ準用ス(同上)

第二十八條ノ十一 出版權ノ侵害ニ付テハ本法中第三十四條及

第三十六條ノ二ノ規定ヲ除クノ外僞作ニ關スル規定ヲ準用ス

(同上)

第三章 僞作

(昭和九年法律第四八號ヲ以テ改正)

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ僞作者トシ本法ニ規定シ

タルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シ

タル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ

僞作ト看做サス

第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラズ

シテ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコ

ト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ

範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿

入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著

作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ

文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作り又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ル

コト

第七 脚本又ハ樂譜ヲ收益ヲ目的トセス且出演者ヲ報酬ヲ受

ケサル興行ノ用ニ供シ又ハ其ノ興行ヲ放送スルコト(昭和

九年法律第四八號ヲ以テ本號追加)

第八 音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ著作物ノ適

法ニ寫調セラレタルモノヲ興行又ハ放送ノ用ニ供スルコト

(同上)

第九 専ラ官廳ノ用ニ供スル爲複製スルコト(同上)

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ僞作物ヲ輸

入スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル

者ハ僞作者ト看做ス

第三十二條ノ二 (明治四三年法律第六三號ヲ以テ追加、昭和

六年同第六四號昭和九年同第四八號ヲ以テ削除)

第三十二條ノ三 (大正九年法律第六〇號ヲ以テ追加、昭和九

年同第四八號ヲ以テ削除)

第三十三條 善意ニシテ且過失ナク僞作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之

カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ボシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ

於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ僞作ニ對

シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對

スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應シテ前條ノ利益

ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 僞作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既

ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作權者トシテ氏名ヲ掲ケタル

者ヲ以テ著作權者ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作權者トシテ氏名

ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ發行權者ト推定ス

未タ發行セサル脚本、樂譜及活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法

ニ依リ製作シタル著作物ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作權者

トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス(昭和

六年法律第六四號ヲ以テ本項中改正)

著作權者ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作

者ト推定ス

第十五條第三項ノ規定ニ依リ著作年月日ノ登錄ヲ受ケタル著

作物ニ在リテハ其ノ年月日ヲ以テ著作ノ年月日ト推定ス(昭

和九年法律第四八號ヲ以テ本項追加)

第三十六條 僞作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルト

キハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又

ハ立テシメスシテ假ニ僞作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止

メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ僞作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申

請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十六條ノ二 第十八條ノ規定ニ違反シタル行爲ヲ爲シタル

者ニ對シテハ著作權者ハ著作權者タルコトヲ確保シ又ハ訂正其ノ

他其ノ聲望名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ請求シ及民法第

三編第五章ノ規程ニ從ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十八條ノ規定ニ違反シタル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ著

作者ノ死後ニ於テハ著作權者ノ親族ニ於テ其ノ著作權者タルコト

ヲ確保シ又ハ訂正其ノ他其ノ聲望名譽ヲ回復スルニ適當ナル

處分ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル民事ノ訴訟ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用

ス(昭和六年法律第六四號ヲ以テ追加)

第三十六條ノ三 本法ノ規定ニ依ル登錄第二十二條ノ五第二項

若ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依ル償金ノ額又ハ著作ニ關ス

ル一般的事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應シ又ハ此等ノ事項ニ付

調査審議スル爲著作權審査會ヲ置ク

著作権審査會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和九年法律第四八號ヲ以テ追加）

第四章 罰 則

（昭和九年法律第四八號ヲ以テ改正）

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條、第二十一條ノ二及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者並第三十條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス（明治四三年法律第六三號、昭和六年同第六四號ヲ以テ本條中改正）

第四十條 著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 （明治四三年法律第六三號ヲ以テ全條改正、昭和六年同第六四號ヲ以テ削除）

第四十二條 虛偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス（明治四三年法律第六三號ヲ以テ本條中改正）

第四十三條 偽作物及専ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限り之ヲ沒收ス

トナ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

附 則 （昭和九年法律第四八號附則）

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十九號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行）

登録稅法第十條第四號ノ二ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ（別掲）

同法ニ左ノ一條ヲ加フ（第十條ノ二別掲）

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待チ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第五章 附 則

（昭和九年法律第四八號ヲ以テ改正）

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年勅令第三百十三號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行）

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫眞版權條令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作権ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲ニ使用スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

著作権法施行規則

（昭和六年七月二十八日）
（内務省令第十八號）

改正 昭和一〇年内務省令第四六號

第一章 著作ニ關スル登録

第一條 著作ニ關スル登録ハ左ニ掲クル事項ニ付之ヲ爲ス（昭和一〇年内務省令第四六號ヲ以テ全條改正）

一 著作権ノ移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅並ニ著作権ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅

二 無名又ハ變名ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ニ關シ著作ノ實名

三 著作ノ年月日

四 出版權及之ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅

第一條ノ二 假登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス（同上）

一 登録ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ

二 前條第一號及第四號ニ掲クル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ但シ其ノ請求權ハ始期付又ハ停止條件付ナルコト其ノ他將來ニ於テ確定スヘキ

モノナルコトヲ妨ケス

第一條ノ三 著作登録簿ハ著作權登録簿及出版權登録簿ノ二種トシ著作權登録簿ニハ第一條第一號乃至第三號ノ事項ヲ登録シ出版權登録簿ニハ第一條第四號ノ事項ヲ登録ス登録簿ノ様式並ニ其ノ記載ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム(同上)

第二條 登録ノ申請ハ登録權利者及登録義務者之ヲ爲スヘシ但シ申請書ニ登録義務者又ハ登録原因ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附シタルトキハ登録權利者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得(同上)

第二條ノ二 登録ノ申請書ハ一件毎ニ一通ヲ作り之ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シ申請人記名捺印スヘシ(同上)

- 一 著作物ノ題號及著作物ヲ組成スル冊(箇)數並ニ登録ノ目的カ著作權以外ノ權利ニ關スル場合ニ在リテハ尙其ノ權利ノ表示
- 二 申請人ノ氏名及住所若シ申請人カ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍
- 三 代理人ニ依リ申請スル場合ニ在リテハ其ノ氏名及住所
- 四 登録原因及其ノ日附
- 五 登録ノ目的
- 六 登録税ノ金額並ニ質權設定ノ登録ノ申請ヲ爲ス場合ニ在

リテハ債權金額(若シ一定ノ債權金額ナキトキハ著作權ノ價格)

七 年月日

第二條ノ三 出版權設定ノ登録ノ申請書ニハ前條ニ掲クル事項ノ外尙左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ(同上)

- 一 出版權設定ノ範圍
- 二 印税及其ノ支拂時期(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)
- 三 出版權ノ存續期間(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)
- 四 著作權法第二十八條ノ三但書ノ特約(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)
- 五 著作權法第二十八條ノ五第一項但書ノ特約(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)
- 六 著作權法第二十八條ノ六第一項但書ノ特約(若シ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ旨)

第二條ノ四 著作權又ハ出版權ノ一部移轉又ハ制限附移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ在リテハ移轉スヘキ權利ノ部分又ハ制限ヲ登録申請書ニ記載スヘシ著作權若ハ出版權又ハ此等ノ目的トスル質權ノ承繼人カ多數ナル場合ニ於テ登録原因ニ持分ノ定アルトキ其ノ持分ニ付亦同シ(同上)

第五條 登録ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル著作物ノ明細書ヲ添附スヘシ(同上)

- 一 著作物ノ題號
 - 二 著作物ノ氏名若シ著作權カ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍
 - 三 既ニ發行又ハ興行シタル著作物ニ關シ登録ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ著作物ヲ初テ發行又ハ興行シタル際顯ハシタル著作物ノ實名又ハ變名(若シ無名著作物ナルトキハ其ノ旨)
 - 四 著作ノ年月日若シ外國人ノ著作シタル著作物ニ關シ登録ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ尙著作物ヲ初テ發行シタル國名
 - 五 著作物ヲ初テ發行又ハ興行シタル年月日(若シ未ダ發行又ハ興行ヲ爲ササルモノナルトキハ其ノ旨)
 - 六 著作物ノ種別及内容又ハ體様若シ著作物ノ體様ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナルトキハ其ノ圖面、寫眞等ヲ添附スヘシ
 - 七 著作物ニ付既ニ登録ヲ受ケタルコトアルトキハ前登録ノ年月日及登録番號
- 第六條 左ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ戸籍又ハ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ登録申請書ニ添附スヘシ
- 一 登録原因カ相續其ノ他ノ一般承繼ナル場合
 - 二 申請人タルヘキ者ノ相繼人其ノ他ノ一般承繼人ニ於テ登

第二條ノ五 信託ノ登録ノ申請書ニハ第二條ノ二ニ掲クル事項ノ外尙左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ(同上)

- 一 委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ氏名及住所若シ委託者、受託者、受益者又ハ信託管理人カ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍
- 二 信託ノ目的
- 三 信託財産ノ管理方法
- 四 信託終了ノ事由
- 五 其ノ他信託ノ條項

第三條 實名ノ登録ノ申請書ニハ第二條ノ二ニ掲クル事項ノ外尙左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ(同上)

- 一 著作權者ノ氏名(若シ著作權者ナキトキハ其ノ旨)
- 二 著作物ノ實名及住所若シ著作權カ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍
- 三 發行者又ハ興行者ノ氏名及住所若シ發行者又ハ興行者カ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍

第四條 著作年月日ノ登録ノ申請書ニハ第二條ノ二ニ掲クル事項ノ外尙左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ(同上)

- 一 著作ノ年月日
- 二 著作權者ノ氏名及住所(若シ著作權者ナキトキハ其ノ旨)

録ヲ申請スル場合

三 登録名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登録ヲ申請スル場合
第七條 登録税法施行規則第四條第一項ノ場合ニ於テ既ニ登記
所又ハ登録官廳ニ於テ登記又ハ登録ヲ受ケタルコトアルトキ
ハ登録申請書ニ其ノ登記所又ハ登録官廳ノ交付シタル登録税
ノ受領證ヲ添附スヘシ

第八條 登録ノ變更、更正若ハ抹消又ハ抹消シタル登録ノ回復
ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利害關係ヲ有スル者アルトキハ
登録申請書ニ其ノ承諾書又ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ
裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第九條 内務大臣ハ登録ヲ完了シタルトキハ官報ニ公告シ且申
請人ニ通知ス(昭和一〇年内務省令第四六號ヲ以テ全條改正)
第十條 登録ヲ完了シタル後其ノ登録ニ付錯誤又ハ遺漏アルコ
トヲ發見シタルトキハ遅滞ナク其ノ旨ヲ登録權利者及登録義
務者ニ通知ス

前項ノ場合ニ於テ登録ノ錯誤又ハ遺漏カ登録官吏ノ過誤ニ出
テタルトキハ登録上利害關係ヲ有スル第三者アル場合ヲ除ク
ノ外遅滞ナク其ノ登録ノ更正ヲ爲シ其ノ旨ヲ登録權利者及登
録義務者ニ通知ス(同上)
第十一條 登録税法施行規則第四條第一項ノ規定ニ依リ登録税
ヲ徵收スル場合ニ於テハ後ニ登記又ハ登録ヲ申請スヘキ登記

所又ハ登録官廳ノ數ニ應シ課税價額ヲ記載シタル登録税ノ受
領證ヲ申請人ニ交付スルモノトス但シ二通以上ノ受領證ヲ交
付スルトキハ各通ニ番號ヲ附ス

第十二條 何人ト雖モ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付シテ登録簿
ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又ハ利害ノ關係アル部分ニ限
リ登録簿若ハ其ノ附屬書類ノ閱覽ヲ申請スルコトヲ得
一 登録簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付
用紙一枚ニ付(一枚ニ滿タサルモノト雖)金三十錢
二 登録簿又ハ其ノ附屬書類ノ閱覽 金三十錢

前項ノ手数料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ納付スヘシ
第十三條 前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ且
記名捺印シタル申請書ヲ内務大臣ニ差出スヘシ
一 著作物ノ題號及著作者ノ氏名
二 登録ノ年月日及登録番號
三 手数料ノ金額
四 申請ノ年月日

第十四條 登録簿ノ抄本ノ交付ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ申
請書ニ抄本ノ交付ヲ申請スル部分ヲ記載スヘシ
第二章 著作權者トノ協議調ハサル著作物ノ放送

(昭和一〇年内務省令第四六號ヲ以テ改正)
第十五條 著作權法第二十二條ノ五項ノ規定ニ依リ放送無

於テハ著作權審査會ニ諮問ス(昭和一〇年内務省令第四六號ヲ
以テ追加)

第十七條 内務大臣カ第十五條ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ爲シ
タルトキハ其ノ旨ヲ著作權者ニ通知ス
前項ノ通知書ニハ著作物ノ題號及著作者ノ氏名、放送ノ日時
及場所並ニ決定シタル償金ノ額ヲ記載スルモノトス

第十八條 第十五條ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ受ケタル後放送
無線電話施設者カ放送ノ日時又ハ場所ヲ變更セントスルトキ
ハ豫メ其ノ旨ヲ内務大臣ニ届出テ且著作權者ニ通知スヘシ
第三章 著作權者ト協議スルコト能ハサル
著作物ノ發行又ハ興行

(昭和一〇年内務省令第四六號ヲ以テ改正)

第十九條 著作權法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ著作物ヲ發
行又ハ興行セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ内
務大臣ニ差出シ裁定ヲ求ムヘシ(昭和一〇年内務省令第四六
號ヲ以テ全條改正)
一 著作物ノ題號及著作者ノ實名又ハ變名(若シ無名著作物
ナルトキハ其ノ旨)

二 著作物ノ種別及内容
三 著作物ノ發行又ハ興行ノ日時及方法
四 著作權者ノ不明ナル事由

線電話施設者カ著作權者トノ協議調ハサル著作物ヲ放送セン
トスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ内務大臣ニ差出
シ裁定ヲ求ムヘシ(昭和一〇年内務省令第四六號ヲ以テ本項中
改正)

一 著作物ノ題號及著作者ノ氏名並ニ外國人ナルトキハ其ノ
國籍
二 著作物ノ種別及内容
三 著作物ノ發行又ハ興行ノ年月日
四 著作權者ノ氏名及住所若シ著作權者カ外國人ナルトキハ
尙其ノ國籍(昭和一〇年内務省令第四六號ヲ以テ本號中改
正)

五 放送ノ日時及場所
六 償金ノ見積金額及其ノ算定基準
七 放送ヲ必要トスル事由
八 著作權者トノ協議調ハサル事由
前項ノ申請書ニハ著作權者ノ意見書ヲ添附スルコトヲ要ス若
シ之ヲ添附スルコト能ハサルトキハ申請書ニ其ノ事由ヲ附記
スヘシ

第十六條 内務大臣カ前條ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ爲ス場合
ニ於テハ償金ニ付テモ之カ決定ヲ爲スモノトス
第十六條ノ二 内務大臣カ第十五條第一項ノ裁定ヲ爲ス場合ニ

第二十條 左ノ各號ニ掲クル事由ニ因リ著作権者ト協議スルコト能ハサルトキハ内務大臣ノ裁定ヲ受ケ著作権法第二十七條第二項ノ規定ニ依リ其ノ著作物ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得(同上)

- 一 著作権者ノ居所不明ナルトキ
- 二 著作ニ關スル登録ナキニ因リ著作権者ノ何人ナリヤヲ確認シ得サルトキ
- 三 著作権者カ帝國內ニ居所ヲ有セス且帝國內ニ於ケル其ノ代理人不明ナルトキ

第二十一條 前條ノ裁定ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ内務大臣ニ差出シ裁定ヲ求ムヘシ(昭和一〇年内務省令第四六號ヲ以テ追加)

- 一 著作物ノ題號及著作者ノ氏名若シ著作者カ外國人ナルトキハ尙其ノ國籍
- 二 著作物ノ種別及内容
- 三 著作物ノ發行又ハ興行ノ日時及方法
- 四 償金ノ見積金額及其ノ算定基準
- 五 著作権者ト協議スルコト能ハサル由

前項ノ申請ヲ爲サントスル者ハ著作権者ト協議スルコト能ハサル事由ヲ書面又ハ口頭ヲ以テ説明スヘシ
第二十二條 内務大臣カ前條第一項ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ爲シタルモノト看做ス

附 則 (昭和一〇年内務省令第四六號附則)

本令ハ昭和十年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ繫屬スル登録ニ關スル處分 手續ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル
前項ノ規定ニ依リ爲シタル登録ニ關スル處分 手續ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

著作権法ノ施行ニ關スル件

(昭和十年七月九日 勅令第九十號)

- 第一條 内務省ニ著作登録簿ヲ備ヘ著作権法及之ニ基キテ發スル命令ニ依ル登録事項ヲ登録ス
- 第二條 著作権法第二十二條ノ五第二項ノ規定ニ依リ著作権者トノ協議調ハサル著作物ヲ放送セントスル場合ハ内務大臣ノ裁定ヲ受クヘシ同法第二十七條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ著作物ヲ發行又ハ興行セントスル場合亦同シ
- 第三條 内務大臣第一條ノ登録ヲ爲シ又ハ前條ノ裁定ヲ爲サントスル場合ニ於テ關係者朝鮮ニ住所ヲ有スルトキハ朝鮮總督

爲ス場合ニ於テハ償金ニ付テモ之カ決定ヲ爲スモノトス(同上)

第二十三條 内務大臣カ第十九條又ハ第二十一條第一項ノ裁定ヲ爲ス場合ニ於テハ著作権審査會ニ諮問ス(同上)

第二十四條 内務大臣カ第二十一條第一項ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ官報ニ公告ス

前項ノ公告ニハ著作物ノ題號及著作者ノ氏名、發行又ハ興行ノ日時及方法、發行又ハ興行セントスル者ノ氏名及住所並ニ決定シタル償金ノ額ヲ記載スルモノトス(同上)

第二十五條 第十九條又ハ第二十一條第一項ノ申請ヲ認ムル旨ノ裁定ヲ受ケタル後申請人カ發行又ハ興行ノ日時又ハ方法ヲ變更セントスルトキハ更ニ内務大臣ノ裁定ヲ受クルコトヲ要ス(同上)

附 則

本令ハ昭和十年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ省令ハ之ヲ廢止ス

明治三十二年内務省令第二十七號(著作権者不明ノ著作物ニ關スル件)

明治四十三年内務省令第二十三號(著作権ニ關スル登録手續) 本令施行ノ際現ニ繫屬スル登録ニ關スル處分及手續ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

ニ、臺灣ニ住所ヲ有スルトキハ臺灣總督ニ豫メ協議スヘシ
第四條 著作登録簿ノ種類及様式、登録手續其ノ他第一條ノ登録ニ關シ必要ナル事項並ニ第二條ノ裁定ニ關スル手續ハ内務大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和十年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

著作権法ノ施行範圍

國內法令 (明治三十二年法律第三十九號) (改正四回)

朝鮮 (明治四十三年勅令第三百三十八號)

臺灣 (明治三十二年勅令第三百一號)

樺太 (昭和三年勅令第九十號)

關東州 (昭和四年勅令第三百二十四號)

同法保護ニ關シ第一條中「著作権ノ效力ハ關東州ニ及フモノトス」又第二條中「著作権法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州ニ在ル者ニ對シ之ヲ適用ス」ト定メ昭和四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國力治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國

(明治四十四年五月廿六日)
勅令 第百六十七號
改正 昭和四年第三百二十五號
昭和十一年第百二十六號

同法保護ニ關シ第一條中「帝國臣民カ帝國ニ於テ享有スル著作權ノ效力ハ帝國力治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ及フモノトス」第二條中著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ帝國力治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ對シ之ヲ適用ス、附則トシテ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス。本令施行前帝國臣民ノ爲シタル行爲ニ付テハ本令施行後ト雖モ仍從前ノ例ニ依ル

著作權審査會官制

(昭和十年七月九日)
勅令 第百九十一號

第一條 著作權審査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ著作權法ノ規定ニ依リ登錄、同法第二十二條ノ五第二項若ハ第二十七條第二

項ノ規定ニ依ル價金ノ額又ハ著作ニ關スル一般的事項ニ付內務大臣ノ諮問ニ應シ又ハ此等ノ事項ニ付調査審議ス
第二條 審査會ハ會長一人及委員二十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
前項定員ノ外必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得
第三條 會長ハ內務大臣ヲ以テ之ニ充ツ
第四條 委員及臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス
委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス
第五條 會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ內務大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス
第六條 審査會ニ幹事ヲ置ク內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
第七條 審査會ニ書記ヲ置ク內務大臣之ヲ命ス
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
附 則
本令ハ昭和十年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

登録稅法 (抄録)

第十條 著作權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 著作權ノ移轉
相續 每一件 金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
- 二 著作權ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五
- 三 前號ノ權利ノ移轉
相續 每一件 金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 四 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登録 每一件 金二圓
- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 四ノ三 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號及第二號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四 (昭和九年法律第四八號ヲ以テ本號追加)
- 四ノ四 著作年月日ノ登録 每一件 金一圓 (同上)
- 四ノ五 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢 (同上)
- 四ノ六 假登録 每一件 金五十錢 (同上)
- 五 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
第十條ノ二 出版權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (昭和九年法律第四八號ヲ以テ追加)

- 一 出版權ノ設定 每一件 金十圓
- 二 出版權ノ移轉
相續 每一件 金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
- 三 出版權ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五
- 四 前號ノ權利ノ移轉
相續 每一件 金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 五 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 七 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢
- 八 假登録 每一件 金五十錢
- 九 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢

登録稅法施行規則 (抄)

(明治三十二年五月十九日 勅令第二百五號)

- 第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録稅ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第二條 登録稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得
- 第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登録若ハ假登録ヲ登記所又ハ登録官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登録稅ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所又ハ登録官廳ニ送付スヘシ
- 第四條 同一債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニ於テ登記所又ハ登録官廳ニ於テ受クル登記又ハ登録ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記又ハ登録ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做シテ登録稅ヲ徵收ス

トキハ先ツ登録稅法第三條ノ五又ハ第三條ノ六ニ該當スルモノ登記又ハ登録ニ付登録稅ヲ徵收ス

著作權ニ關スル登録申請書々式

- (1) 著作權相續登録申請書
 - 著作物ノ題號及著作物ヲ組成スル冊(個)數
 - 何々々 全何冊(個、枚)
 - 著作權ノ相續アリタル年月日
 - 何年何月何日相續
 - 被相續人ノ氏名
 - 何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)
 - 住所 何府縣何郡市何町村何番地
 - 登錄稅ノ金額
 - 金何 圓也

右申請人 某 某

內務大臣宛

(著作權法施行規則第一條第二號ノ書式)

(2) 著作權讓渡(著作權ヲ目的トスル質權設定)

- 登録申請書
 - 著作物ノ題號及著作物ヲ組成スル冊(箇)數
 - 何々々 全何冊(箇、枚)
 - 著作權讓渡(著作權ヲ目的トスル質權設定)アリタル年月日
 - 何年何月何日讓渡(質權設定)
 - 讓渡人(質權設定者)氏名及住所
 - 何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)
 - 住所 何府縣何郡市何町村何番地
 - 讓受人(質權者)氏名及住所
 - 何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)
 - 住所 何府縣何郡市何町村何番地
 - 登錄稅ノ金額(債權金額)
 - 金何圓也 (債權金額ナシ、著作權ノ價格金何圓也)

右申請人

內務大臣宛

(著作權法施行規則第一條第三號ノ書式)

(3) 著作權ヲ目的トスル質權相續登録申請書

- 著作物ノ題號及著作物ヲ組成スル冊(箇)數
- 何々々 全何冊(箇、枚)
- 著作權ヲ目的トスル質權設定登録ノ年月日及登録番號
- 何年何月何日第何號
- 質權ノ相續アリタル年月日
- 何年何月何日相續
- 被相續人ノ氏名
- 何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)
- 相續人氏名住所
- 何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)
- 住所 何府縣何郡市何町村何番地
- 登錄稅ノ金額
- 金何圓也

右申請人

何 某 ㊦

申請候也
年 月 日

內務大臣宛

(著作權法施行規則第一條第四號ノ書式)

(4) 著作權ヲ目的トスル質權讓渡登錄申請書
著作物ノ題號及著作物ヲ組成スル (箇)數
何 々 全何冊(箇、枚)

質權設定登錄年月日及登錄番號
何年何月何日第何號

質權讓渡アリタル年月日
何年何月何日讓渡

質權讓渡人ノ氏名及住所
何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)

住所 何府縣何郡市何町村何番地

質權讓受人氏名及住所
何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)

住所 何府縣何郡市何町村何番地

登錄稅ノ金額
金何圓也

右著作權ヲ目的トスル質權ノ讓渡登錄相成度 (讓渡人ノミノ
トキ讓渡人ノ承諾書ヲ裁判ノ際本「登記簿原本」相添) 此段及

右申請人

讓渡人 何 某 ㊦
讓受人 權 某 ㊦

(著作權法施行規則第一條第五號ノ書式)

(5) 著作權ノ信託登錄申請書
著作物ノ題號及著作物ヲ組成スル冊(箇)數
何 何 全何冊(箇、枚)

著作權ノ信託アルタル年月日
何年何月何日信託

委託者氏名及住所
何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)

住所 何府縣何郡市何町村何番地

受託者氏名及住所
何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)

住所 何府縣何郡市何町村何番地

受益者氏名及住所
何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)

信託管理人氏名及住所
何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)

住所 何府縣何郡市何町村何番地

信託ノ目的
何 々

信託財產ノ管理方法
何 々

信託終了ノ事由
何 々

登錄稅ノ金額
金何圓也

右著作權ノ信託登錄相成度著作物ノ明細書 (受託者ノミノ記
名捺印ナルトキ

ハ委託者ノ承諾書)相添此段及申請候也
何年何月何日

內務大臣宛

(著作權法施行規則第一條第六號ノ書式)

(6) 實名登錄申請書

出版關係法規

右申請人

委託者 何 某 ㊦
受益者 何 某 ㊦

(著作權法施行規則第五條ノ書式)

(7) 著作ノ明細書

著作物ノ題號及著作物ヲ組成スル冊(箇)數
何 々 全何冊(箇、枚)

無名又ハ變名著作物ヲ初テ發行又ハ興行シタル年月日何年何
月何日無名變名(著作)物ヲ發行(興行)

著作權者ノ氏名
何 某(舊作權者ナシ)

著作者ノ實名及住所
何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)

住所 何府縣何郡市何町村何番地

發行者(興行者)ノ氏名及住所
何 某(外國人ナ
ルトキハ 國籍何國)

住所 何府縣何郡市何町村何番地

登錄稅ノ金額
金何圓也

右實名登錄相成度著作物ノ明細書相添此段及申請候也
年 月 日

內務大臣宛

(7) 著作ノ明細書

右申請人

著作者 何 某 ㊦

一 著作物ノ題號
何々

二 著作者ノ氏名
何 某

三 初テ著作物ヲ發行(興行)シタル際顯ハシタル著作者名
何某(變名何々)(無名)(未發行)(未興行)

四 著作ノ年月日
何年何月何日(外國人ノ著作ニ依ルモノナルトキハ初テ發行シタル國何國)

五 著作物ヲ初テ發行(興行)シタル年月日
何年何月何日發行(興行)(未發行)(未興行)

六 著作物ノ種別及内容(體裁)
種別(小説)(脚本)(歌詩)(歌曲)

七 前登錄ノ年月日及登錄番號
何年何月何日附第何號(ナシ)

備考
「著作物ヲ組成スル冊(箇)數」トハ當該著作物カ何冊(又ハ何箇)ナ何テ一體ヲ爲セルモノナリヤノ謂ニシテ例ヘハ複製シタル出版物ノ總冊數ヲ云フニ非ス、故ニ次ノ如キ例ニ依リ記載スヘシ
著作物カ刊行シタル書籍ノ如キモノナルトキ「全何冊」
同 彫刻、模型ノ如キモノナルトキハ「全何箇」

同 脚本ノ如キモノナルトキハ「全何幕何場」
同 映畫ノ如キモノナルトキハ「全何卷」
同 繪畫、圖面ノ如キモノナルトキハ「全何枚」 「全何圖」

著作權ノ一部又ハ制限附讓渡若ハ著作權ノ一部制限附讓渡ノ場合ニ在リテハ左ノ記載例ニ從ヒ夫々「著作權讓渡アリタル年月日」ノ項ニ但書ヲ附スルコト

(イ)但シ右ハ何某ヨリ何某ニ著作權ヲ一部讓渡シ兩者共有ト爲シタルモノナリ

(ロ)但シ右ハ何某ヨリ何某ニ著作權ヲ一部讓渡シ兩者共有ト爲シタルモノニシテ其ノ持分ハ各均等(又ハ何某ハ何分ノ何、何某ハ何分ノ何)トス

(ハ)但シ右ノ制限ヲ附シテ讓渡アリタルモノナリ 日本國內ニ限ル 讓渡ノ日ヨリ向フ何年限リトス

(ニ)但シ右ハ著作權ニ包含セラル、權利中興行權(又ハ翻譯權、放送權等)ノミチ左ノ制限ヲ附シテ讓渡シタルモノナリ

記
興行ノ地域ヲ何府縣トシ且ツ其ノ期間ハ讓渡ノ日ヨリ向フ何年間ニ限ルモノトス
(翻譯セラルヘキ國語ハ日本語ニ限ル)

出版ニ關スル取締諸法令

關東洲及南滿洲鐵道附屬地ニ輸入若ハ移入スル出版物取締規則

(昭和十年五月十六日 關東局令第三十九號)

第一條 滿洲國駐劄特命全權大使ハ本令施行地域外ニ於テ發行スル出版物ニシテ主トシテ本令施行地域内ニ於テ發賣頒布スルヲ目的トスト認ムルモノハ之ヲ告示ス

前項ノ規定ニ依リ告示シタル出版物ヲ本令施行地域内ニ輸入若ハ移入セントストキハ發行人ハ左ノ事項ヲ具シ大使ノ許可ヲ受クヘシ

一 題號

二 掲載事項ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所、印刷所ノ名稱及所在地

五 發行人、編輯人、印刷人ノ原籍、住所、氏名及生年月日

六 輸入若ハ移入開始ノ時期

七 輸入若ハ移入ノ經路及發賣頒布ノ地域

八 取次人ノ住所、氏名、生年月日及職業

出版關係法規

九 取次所ノ名稱及所在地

第二條 發行人前條ノ出版物ヲ輸入シ若ハ移入シタルトキハ發賣頒布前關東局ニ二部ヲ、關東州廳、發賣頒布地所轄警察署及關東地方院檢察局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第三條 本令施行地域内ニ輸入シ若ハ移入スル出版物ノ掲載事項ニシテ公安ヲ紊リ若ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ違反シテ輸入シ、移入シ若ハ發賣頒布シタルトキハ大使ハ其ノ輸入移入、若ハ發賣頒布ヲ禁止シ又ハ之ヲ差押ヘ第一條ノ規定ニ依ル出版物ニ在リテハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル出版物ニシテ一年以上其ノ差押ヲ解除セラレザルトキハ差押ヲ執行シタル官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第五條 第三號ノ規定ニ依リ差押ヘタル出版物ニシテ其ノ差押フヘキ部分ト其ノ他ノ部分トヲ分割シ得ヘキ場合ニ於テ關係者ノ請求アルトキハ之ヲ分割シ差押ヲ要セザル部分ヲ返還スルコトアルヘシ但シ之カ爲必要ナル費用ハ發行人ノ負擔トス

第六條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

第三條ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタル者及情ヲ知りテ其ノ出版物ヲ輸入シ若ハ移入シ又ハ販賣頒布シタル者ハ前項ニ準シ

之ヲ處罰ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

不穩文書臨時取締法(昭和十一年六月十五日)

法律第四十五號

第一條 軍秩ヲ紊亂シ、財界ヲ攪亂シ其ノ他人心ヲ惑亂スル目的ヲ以テ治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏各及住所ノ記載ヲ爲サス若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シ又ハ出版法若ハ新聞紙法ニ依ル納本ヲ爲サザルモノヲ出版シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條 前條ノ事項ヲ掲載シタル文書圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏名及住所ノ記載ヲ爲サス若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シ又ハ出版法若ハ新聞紙法ニ依ル納本ヲ爲ササルモノヲ出版シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但シ印刷者印本引渡前ニ自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第四條 第一條又ハ第二條ニ該當スルモノト認ムル文書圖書ニ付テハ眞實ノ記載ヲ爲シ又ハ成規ノ納本ヲ爲ス迄地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ於テ其ノ頒布ヲ差止め必要アリト認ムルトキハ其ノ印本及複製ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ頒布ヲ差止めラレタル文書圖書ヲ頒布シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍機保護法(抄)(明治三十二年七月十五日)

法律第四百四號

第二條 職務ニ因リ軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ漏洩交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ(有期徒刑)ニ處ス

第三條 偶然ノ原因ニ因リ軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ傳説交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ(輕禁錮)ニ處ス

取引所法(抄)(明治二十六年三月四日)

法律第五號

改正

明治三十二年法律第五十八號
大正十三年法律第三十三號
大正十一年法律第六十號
昭和四年法律第二十九號

第三十二條ノ三 左ノ各號ノ一ノ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

(一號省略)

二 取引所ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者
三 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虛偽ノ相場ヲ記載シタル文書

ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者

金使用規則(抄)(昭和十二年十二月廿八日)

大藏省令第六十號

第二條 金又ハ金箔、金絲、金粉若ハ金液ハ當分ノ内左ノ各號ニ掲ケル用途ニ供スルコトヲ得但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 屏風、襖、額、額縁其ノ他表裝用
- 二 天金、金文字、裝幀其ノ他製本用
- 三 看板、標札其ノ他廣告用
- 四 金文字、金椽、金散シ其ノ他印刷用
- 五 金文字、商標其ノ他標識用

本令ノ公布ハ昭和十二年八月十日法律第五十九號ヲ以テ公布シタル産金法ニ基キタルモノナリ

(參照)

産金法

第十一條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ金ノ價格又ハ金ノ使用ヲ制限其ノ他金ノ使用ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

四、第十一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者

出版關係法規

既ニ繼續出版中ノ豫約出版物又ハ續刊豫定ノ出版物ニシテ既刊ノ部分カ金箔ヲ使用サレテ居リ體裁ヲ統一スル必要アルモノハ省令第二條ノ但書ニアル手續ヲ經テ使用スル事ヲ得

(樣式)

金箔使用製本許可申請書

- 一、申請者ノ住所
- 職業、氏名
- 商 號
- 二、製本ノ種類
- 題 號 全卷中既刊 卷未刊 卷計 册分
- 數 量 瓦
- 體 裁
- 三、製本ニ使用スル金箔ノ數量
- 價 格
- 金ノ品位
- 四、製本ヲ必要トスル事由
- 五、金箔ノ買入先
- 右御許可相成度此段申請候也
- 昭和十三年 月 日

大藏大臣宛

右

由請人 何

某 ㊦

關稅定率法 (抄)

(明治四十三年四月十五日)
法律第五十四號

改正
大正三年法律第八號、第九號
昭和十一年法建第三十八號

第十一條 左ニ掲クル物品ハ輸入ヲ禁ス

(一)、二、四號略)

三 公安又ハ風俗ヲ害スヘキ書籍、圖畫、彫刻物其ノ他ノ物品
(參照)關稅法

第七十四條 輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條ノ二 前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

刑法 (抄)

第七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其ノ他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其ノ事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

刑法施行法 (抄)

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一、著作權法ニ掲ケタル罪

(參照)

刑條第三條本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

(以下略)

治安警察法 (抄)

第十六條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ

郵便法 (抄)

(明治三十三年三月十三日)
法律第五十四號

改正
明治四十年逓信省令第七號
大正五年逓信省令第十七號

第十六條 郵便官署ハ郵便物引受ケノ際郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シタルモノアリト認ムルトキハ差出人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人前項ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ郵便物ノ取扱ヲ拒絕ス

第十六條ノ二 郵便官署ハ其ノ取扱中ニ係ル郵便物ニシテ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シタルモノアリト認ムルトキハ差出人又ハ受取人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 郵便禁制品ノ種類及郵便物ノ容積、重量、包裝等ニ關スル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ物件ヲ沒收ス

於テ文書、圖畫、詩歌ノ揭示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 第十六條ノ禁止ノ命ニ違反シタル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

警察犯處罰令 (抄)

(明治四十一年九月二十)
九日內務省令第十六號

第二條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

十 新聞紙雜誌、其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者

菊御紋並禁裏御用等ノ文字 濫用ヲ禁ス

(明治元年三月二十
八日太政官布告)

- 一 禁裏御用或ハ 禁裏御料又ハ 禁裏御内勝杯ト會符示杭標札等ニ書記シ候儀ハ有之間敷事ニ候處往々見受候ニ付以來吃度相改御用御料ト而已書記イタシ候様被仰出候事但標札ハ姓名相記シ又ハ官名役名等記シ候儀不苦候事
 - 一 提燈又ハ陶器其他賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何ノ儀ニ候以來右之類 御紋ヲ私ニ附ケ候事吃度可禁止旨被 仰出候事但御用ニ付是迄被免ノ分モ一應何出可申事
- 右之通被仰出候條未々迄不洩様可申達事
- 明治四年六月十七日太政官布告
- 菊御紋禁止ノ儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤御紋ニ紛敷品相用候儀モ同様不相成候相改可申事

御肖像ニ關スル取締方

(明治三十一年十二月
二十八日內務省告諭)

- 御肖像ハ左ノ各項ニ準據シテ苟モ心得違ノ次第無之様厚ク注意ヲ加フヘシ右諭告ス
- 第一 天皇皇族ノ御肖像ハ其尊號御稱號ヲ標記シアルト否トナ問ハス御肖像トシテノ外ハ寫出スヘカラス
 - 第二 御肖像ハ總テ粗造ニ流レ不敬ニ涉ルヘカラス
 - 第三 御肖像ハ不敬ニ涉ルヘキ場所ニ掲ケ又ハ陳列スヘカラス
 - 第四 御肖像ハ露店ニ於テ發賣スヘカラス

弘曆者ノ外頒曆取扱ヲ禁ス

(明治三年四月二十
二日太政官布告)

頒曆授時之儀ハ至重ノ典章ニ候處近來種々之類曆世上ニ流布候趣無調事ニ候自今弘曆者之外取扱候儀一切嚴禁被仰出候事

本曆略本曆頒布及一枚摺略曆 出版方

(明治十五年四月十六日
太政官布達第八號)

本曆並略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ
一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得但明治九年十月內務省甲第三十九號布達ハ取

消ス
右布達候事(內務卿連署)

一枚摺曆出版ノ規定

(明治二十三年十月三十一日
部省令第二號 改正明治四十
一年文部省令第二十九號)

- 明治十五年四月太政官第八號布達第二項ニ依リ出版スル所ノ一枚摺略曆ハ自今左ノ規定ニ依ルヘシ
- 一 一枚摺略曆ハ左ニ列記スル事項ニ限り記載スルモノトス年號及紀元ノ年數千支
 - 一 毎月ノ一日
 - 一 日食並其時間
 - 一 大祭祀日並神社例祭大祓
 - 一 日曜表甲子表庚申表己巳表
 - 一 二十四節氣及雜節
 - 一 新月滿月
 - 一 第二號乃至第七號ニ相當スル陽曆日
- 以上ノ事項ハ東京帝國大學ニ於テ編纂スル所ノ曆ニ依ルヘシ但各號規定ノ外本曆略本曆ニ掲載セサル事項ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラス

神社寺院ノ守札及神佛號記載 ノ畫像出版ニ關スル達

(明治十五年十月內
務省乙第五號達)

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其ノ神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相達候事
但從前屆濟ノ分ト雖モ本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

大日本帝國憲法 (抄)

第二章 臣民權利義務

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

未發表ノ著述ノ稿本ニ關スル 民事訴訟法

第五百七十條 左ニ掲ケル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

新聞紙雜誌販賣届出ニ關スル件

(大正六年十二月二十八日) 改正大正八年樺太
樺太廳令第三十號 廳令第四十號

- 第一條 新聞紙雜誌販賣ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ本籍住所氏名生年月日及營業ノ場所並新聞紙雜誌ノ種類ヲ記シ開業三日
前ニ營業地所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第二條 左ノ場合ニ於テハ三日内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 本籍住所氏名ヲ變更シタルトキ
 - 二 營業ノ場所ヲ變更シタルトキ
 - 三 新聞紙雜誌ノ種類ヲ増減シタルトキ
 - 四 休業シタルトキ
 - 五 廢業シタルトキ
- 前項第二號ノ場合ニ於テ營業ノ場所ヲ他ノ警察官署所轄内ニ
移轉シタルトキハ前營業地ノ所轄警察官署ニモ届出ツヘシ
- 第三條 本令ノ届出ヲ爲サス者ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル
者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ新聞紙雜誌販賣營業ヲ爲ス者ハ本令第一條ノ
事項ヲ大正七年一月三十一日迄ニ所轄樺太廳支廳ニ届出ツヘ

出版關係條約

猥褻刊行物ノ流布及取引禁止ニ
關スル國際條約

(昭和十一年五月十六日)
條約第三號

猥褻刊行物ノ流布及取引禁止手段ヲ成ルヘク有效ナラシムルコ
トヲ均シク希望シ千九百十年ニ作成セラレタル條約案ノ審査、
各國ニ依リ提出セラレタル意見書ノ審査並ニ條約ノ最終本文ノ
完成及署名ノ爲メ國際聯盟ノ主宰ノ下ニ千九百二十三年八月三
十一日「ジュネーブ」ノ國際會議ニ於テ各全權委員ハ其全權委
任狀ヲ示シ之レカ良好妥當ナルヲ認メ且ツ本會議ノ最終議定書
及千九百十年五月四日ノ協定ヲ承シタル後左ノ諸規定ヲ協定
セリ (各國委員氏名省略)

第一條 締約國ハ左ノ犯行ノ何レカヲ爲シタル者ヲ發見シ、訴
追及處罰スル爲一切ノ手段ヲ執ルコトニ同意シ從テ左ノ如ク
約ス

左記ハ處罰セラルヘキ犯行タルヘシ
一 營業ノ爲若ハ營業トシテ又ハ頒布若ハ一般ノ展覽ノ爲猥
褻ナル文書、葉書、販賣、繪畫、印刷物、圖畫、ホムス、

尤モ各締約國ハ其ノ法令ニ定メラルル規則ニ從ヒ一事不再理
ノ原則ヲ適用スルノ權利ヲ有スヘシ
第三條 本條約ニ掲ケラルル犯行ニ關スル司法事務囑託ノ發達
ハ左ノ方法ノ何レカニ依リ行ハルヘシ

- 一 司法官憲間ノ直接通信
- 二 被請求國ニ於ケル請求國ノ外交官又ハ領事官ノ仲介、右
外交官又ハ領事官ハ當該司法官憲ニ又ハ被請求國ノ政府ノ
指定スル官憲ニ直接ニ司法事務囑託書ヲ送附スヘク且司法
事務囑託ノ施行ヲ示ス書類ヲ右官憲ヨリ直接ニ受領スヘシ
前記何レノ場合ニ於テモ司法事務囑託書ノ謄本ハ當ニ被請
求國ノ最高官憲ニ送付セララルヘシ
- 三 外交手續
各締約國ハ他ノ各締約國ノ司法事務囑託ニ付自國ノ承認スル
前記ノ送達方法ヲ右締約國ニ通告スヘシ
本條(一)及(二)ノ方法ニ依リ送達ニ關聯シ生スルコトアルヘ
キ一切ノ紛議ハ外交手續ニ依リ處理セララルヘシ
別段ノ協定ナキ限り司法事務囑託書ハ被請求官憲ノ國語又ハ
關係兩國ニ依リ協定セラレタル國語ヲ以テ作成セララルカ又
ハ右兩國語ノ一ヲ以テセル翻譯文ニシテ請求國ノ外交官若ハ
領事官ニ依リ認證セラレタルモノ若ハ被請求國ノ翻譯者ニ依
リ宣誓ノ上認證セラレタルモノヲ添附セララルヘシ

- 徽章、寫眞、活動寫眞用「フィルム」又ハ他ノ猥褻ナル物
件ヲ作製シ又ハ所持スルコト
- 二 前記目的ノ爲前記ノ猥褻ナル物件ノ何レカヲ輸入シ、輸
送シ若ハ輸出シ又ハ輸入セシメ、輸送セシメ若ハ輸出セシ
メ又ハ如何ナル方法ニ依リテ問ハス之ヲ流布スルコト
- 三 前記ノ猥褻ナル物件ノ何レカニ關スル公然ノ又ハ秘密ノ
業務ヲ行ヒ若ハ之ニ參加シ、右物件ヲ如何ナル方法ニ依リ
テ問ハス販賣シ、之ヲ頒布シ、之ヲ一般ニ展覽シ又ハ之カ
貸與ヲ業務トスルコト
- 四 前記ノ處罰セラルヘキ行爲ノ行レカニ從事スル者アルコ
トヲ前記ノ處罰セラルヘキ流布若ハ取引ヲ幫助スルノ目的
ヲ以テ方法ノ如何ヲ問ハス廣告シ若ハ了知セシメ又ハ直接
タルト間接タルトヲ問ハス前記ノ猥褻ナル物件カ如何ナル
方法ニ依リ若ハ何レノ者ヨリ取得セラレ得ルカヲ廣告シ若
ハ了知セシムルコト
- 第二條 第一條ニ掲ケラルル犯行ヲ爲シタル者ハ該犯行カ又ハ
其ノ構成要素ノ何レカカ爲サレタル地域ノ屬スル締約國ノ裁
判所ノ管轄ニ屬スヘシ犯行ノ構成要素カ該犯行ヲ爲シタル者
ノ屬スル締約國ノ領域外ニ於テ爲サレタル場合ト雖モ右ノ者
カ右締約國ノ領域内ニ於テ發見セララルトキハ該國ノ法令カ
許ストキハ右ノ者ハ又該國ノ裁判所ノ管轄ニ屬スヘシ

司法事務囑託ノ施行ニ付テハ性質ノ如何ヲ問ハス手数料又ハ費用ノ支拂ヲ要スルコトナカルヘシ

本條ハ締約國カ其ノ法令ニ反スル舉證ノ形式又ハ方法ヲ其ノ裁判所ニ於テ採用スルコトヲ約スルモノト解セラレサルヘシ

第四條 締約國ニシテ其ノ法令カ本條約ヲ實施スルニ現ニ充分ナラサルモノハ右目的ニ必要ナル措置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ各自ノ立法機關ニ提案スルコトヲ約ス

第五條 締約國ニシテ其ノ法令カ現ニ充分ナラサルモノハ第一條ニ掲ケラルル猥褻ナル物件又ハ其ノ何レカカ同條ニ明記セラルル目的ノ何レカノ爲ニ又ハ其ノ規定ニ反シテ作製セラレ又ハ藏セラルト信スヘキ理由アル場所ノ搜索ニ付並ニ右物件ノ差押、沒收及破毀ニ付規定ヲ設ケルコトヲ約ス

第六條 締約國ハ一締約國ノ領域内ニ於テ第一條ノ規定ノ違反アル場合ニ同條ノ該違反ニ關係アル物件カ他ノ何レカノ締約國ノ領域内ニ於テ作製セラレ又ハ之ヨリ輸入セラレタリト認めラルル場合ニ於テハ千九百二十年五月四日ノ協定ニ從ヒ指定セララルル右一締約國ノ官憲カ右物件カ來リ又ハ作製セラレタリト信セララルル右他ノ締約國ノ對常官憲ヲシテ適當ト認メラルヘキ措置ヲ執ルコトヲ得シムル爲之ニ充分ナル情報ヲ直ニ供給スヘキコトヲ約ス

第七條 本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ正文トシ本

日ノ日附ヲ有スヘク且會議ニ代表者ヲ出セル國、國際聯盟ノ聯盟國及署名ノ爲國際聯盟理事會ヨリ條約ノ謄本ヲ送付セラレタル國ノ署名ノ爲千九百二十四年三月三十一日迄開キ置カ

第八條 本條約ハ批准ヲ要ス批准書ハ國際聯盟事務總長ニ寄託セラルヘク事務總長ハ之カ受領ヲ本條約ノ署名國タル聯盟國及他ノ署名國ニ通告スヘシ

國際聯盟事務總長ハ本條約ニ關スル寄託セラレタル各批准書ノ認證謄本ヲ佛蘭西共和國ニ直ニ送付スヘシ

第九條 千九百二十四年三月三十一日後ニ於テハ會議ニ代表者ヲ出セル國ニシテ本條約ニ署名セザリシモノ、國際聯盟ノ聯盟國又ハ加入ノ爲國際聯盟理事會ヨリ條約ノ謄本ヲ送付セラレタル國ハ何レモ本條約ニ加入スルコトヲ得

第十條 本條約ヲ批准シ又ハ之ニ加入シタルトキハ當然ニ且特別ノ通告ヲシテ千九百二十年五月四日ノ協定ニ共ニ且全部加入

入シタルコトト爲ルヘキ同協定ハ批准シ又ハ加入スル聯盟國又ハ國ノ全領域ニ亙リ本條約ト同日ヲ以テ實施セララルヘシ

第十一條 本條約ハ國際聯盟事務總長ニ二通ノ批准書ヲ寄託セラレタル後三十日ヨリ實施セララルヘシ

第十二條 本條約ハ國際聯盟事務總長ニ宛テタル文書ヲ以テ廢棄セララルコトヲ得廢棄ハ事務總長カ廢棄書ヲ受領シタル日

第十三條 本條約ニ署名シ又ハ加入スル國際聯盟ノ聯盟國又ハ其ノ署名又ハ加入カ其ノ殖民地、海外屬地、保護領又ハ其ノ主權若ハ權力ノ下ニ在ル地域ノ何レカ又ハ全部ヲ包含セ

第十四條 國際聯盟事務總長ハ本條約ニ署名シ、之ヲ批准シ、之ニ加入シ又ハ之ヲ廢棄シタル當事國ヲ示ス特別ノ記錄ヲ保存スヘシ右記錄ハ本條約ニ署名シ又ハ之ニ加入シタル國際聯盟ノ一切ノ聯盟國又ハ他ノ國ヲシテ何時ニテモ之ヲ閱覽スルコトヲ得シムヘシ右記錄ハ成ルヘク屢公報セララルヘシ

第十五條 本條約ノ解釋又ハ適用ニ關スル締約國間ノ紛争ハ該紛争カ直接ノ交渉ニ依リ解決セラレ得サルトキハ決定ノ爲常設國際司法裁判所ニ付託セララルヘシ右紛争ノ當事國ノ一方又ハ雙方カ常設國際司法裁判所ノ署名議定書ノ當事國タラサル場合ニ於テハ紛争ハ當事國ノ選擇ニ依リ常設國際司法裁判所

第十六條 本條約ノ署名國又ハ加入國ノ五國ニ依リ本條約ノ改正ノ要求アルトキハ國際聯盟理事會ハ右目的ノ爲會議ヲ召集スヘシ何レノ場合ニ於テモ理事會ハ會議召集ノ望マシキヤ否ヤヲ毎五年ノ期間ノ終ニ於テ審議スヘシ

第十七條 本條約ニ署名セリ右證據トシテ前記全權委員ハ本條章ニ署名セリ

作成ス其ノ一通ハ國際聯盟ノ記錄ニ寄託保存セラルヘク他ノ一通ハ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルヘシ

文學的及美術的著作物ノ保護ニ關スル「ベルヌ」條約

獨逸國大統領、奧地利共和國聯邦大統領、白耳義國皇帝陛下、「ブラジル」合衆國大統領、「ブルガリア」國皇帝陛下、「丁抹國」皇帝陛下、「西班牙國皇帝陛下」、「エストニア」共和國大統領、「フィンランド」共和國大統領、「佛蘭西共和國大統領」、「グレートブリテン」、「アイルランド」及「グレートブリテン」海外領土皇帝印度皇帝陛下、「希臘共和國大統領」、「ハンガリー」國攝政殿下、「伊太利國皇帝陛下」、「日本國皇帝陛下」、「ルクセンブルグ」國大公殿下、「モロッコ」國皇帝陛下、「モナコ」國公殿下、「諾威國皇帝陛下」、「和蘭國皇帝陛下」、「ポイランド」國及「ダンチツヒ」自由市ノ名ニ於ケル「ポイランド」共和國大統領、「ポルトガル」共和國大統領、「ルーマニア」國皇帝陛下、「瑞典國皇帝陛下」、「瑞西聯邦政府」、「シリア」國及「グレートレバノン」國「チエツコスロヴァキア」共和國大統領、「テュニス」國公殿下ハ文學的及美術的著作物ニ關シ著作物ノ權利ヲ能ク限リ有效且均等ノ方法ヲ以テ保護セントナリシク希望シ

千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ署名セラレタル條規ヲ改正シ且補足スルコトニ決シ之カ爲各左ノ如ク全權委員ヲ任命セリ

(各國委員氏名省略)

各全權委員ハ之カ正當ナル委任ヲ受ケ左ノ如ク協定セリ

第一條 本條約ノ適用セラルル國ハ文學的及美術的著作物ニ關スル著作物ノ權利ノ保護ノ爲同盟ヲ組織ス

第二條 (一)「文學的及美術的著作物」ナル用語ハ表現ノ方法又ハ形式ノ如何ヲ問ハス書籍、小冊子及其ノ他ノ文書、講演、演說、說教及其ノ他同性質ノ著作物、演劇脚本、樂譜、入演劇脚本、演出カ文書其ノ他ノ方法ヲ以テ定メラレタル舞譜及無言劇歌詞入り又ハ歌詞ナシノ樂譜、素描、繪畫、建築、彫刻、銅版及石版ノ著作物、圖解及地圖、地理學、地形學、建築學又ハ科學ニ關スル圖面、略圖及模型ノ如キ文藝、學術及美術ノ範圍ニ屬スル一切ノ製作物ヲ包含ス (二) 翻譯、續案、編曲及其ノ他文學的又ハ美術的著作物ノ變形複製物並ニ異リタル著作物ノ編輯物ハ原作物ノ著作物ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ原著作物トシテ保護セラルヘキモノトス (三) 同盟國ハ前記著作物ノ保護ヲ確保スヘキ義務ヲ有ス (四) 工業ニ應用セラレタル美術的著作物ハ各國ノ國內法ノ

認ムル限リ保護セラルヘキモノトス

第二條ノ二 (一) 政治演說及裁判所ニ於ケル辯論中ニ爲サレタル演述ヲ前條ニ定ムル保護ヨリ一部又ハ全部排除スルノ權能ハ同盟各國ノ國內法ニ留保セラル

(二) 講演、演說、說教及其ノ他同性質ノ著作物ヲ新聞紙雜誌ニ複製スルコトヲ得ル條件ヲ規定スルノ權能モ亦同盟各國ノ國內法ニ留保セラル尤モ前記著作物ヲ編輯物ト爲スノ權利ハ著作物ニ限リ之ヲ有スヘシ

第三條 本條約ハ寫眞的著作物及寫眞術ト類似ノ方法ヲ以テ作リタル著作物ニ之ヲ適用ス同盟國ハ之カ保護ヲ確保スヘキ義務ヲ有ス

第四條 (一) 同盟ノ一國ニ屬スル著作物ハ公ニセサル又ハ同盟ノ一國ニ於テ初テ公ニシタル著作物ニ關シ著作物ノ本國以外ノ國ニ於テ其ノ國法カ内國民ニ現ニ許與シ又ハ將來許與スヘキ權利及本條約ニ依リ特ニ許與セラレタル權利ヲ享有ス

(二) 右權利ノ享有及行使ハ何等方式ノ履行ヲ要セス其ノ享有及行使ハ著作物ノ本國ニ於ケル保護ノ存在ニ係ルコトナシ從テ本條約ノ規定ノ外保護ノ範圍及著作物ノ權利保全ノ爲右著作物ニ保障セラレタル救済ノ方法ハ保護ノ要求セラレル國ノ法律ニ專ラ依ルヘキモノトス

(三) 公ニセサル著作物ニ關シテハ著作物ノ屬スル國ヲ以テ著作物ノ本國トシ公ニシタル著作物ニ關シテハ第一發行ノ國ヲ以テ本國トシ同盟ノ數國ニ於テ同時ニ公ニシタル著作物ニ關シテハ右諸國ノ中其ノ國法ノ許與スル保護ノ期間最

短キ國ヲ以テ其ノ本國トス同盟ニ屬セサル一國ト同盟ノ一國トニ於テ同時ニ公ニシタル著作物ニ關シテハ同盟國ノミヲ以テ本國トス (四) 「公ニシタル著作物」トハ本條約ノ意義ニ於テハ刊行シタル著作物ヲ謂フ演劇脚本又ハ樂譜入演劇脚本ノ上演、音樂的著作物ノ演奏、美術的著作物ノ展覽及建築的著作物ノ建設ハ公ニスルノ意味ニ非サルモノトス

第五條 同盟ノ一國ニ屬スル者ニシテ同盟ノ一國ニ於テ初テ其ノ著作物ヲ公ニシタルモノハ其ノ國ニ於テ内國著作物ト同一ノ權利ヲ享有ス

第六條 (一) 同盟ノ一國ニ屬セサル著作物ニシテ同盟ノ一國ニ於テ初テ其ノ著作物ヲ公ニシタルモノハ其ノ國ニ於テハ内國著作物ト同一ノ權利ヲ享有シ同盟ノ國ノ諸國ニ於テハ本條約ノ許與スル權利ヲ享有ス

(二) 尤モ同盟ニ屬セサル國カ同盟ノ一國ニ屬スル著作物ノ著作物ニ對シ充分ノ保護ヲ與ヘサルトキハ該同盟國ハ著作物ノ第一發行ノ當時該非同盟國ニ屬シ且同盟ノ一國ニ於テ

現實ノ住所ヲ有セサル著作者ノ右著作物ノ保護ヲ制限スルコトヲ得ヘシ

(三) 前項ニ基キ規定セラレタル如何ナル制限モ著作者カ右制限ノ實施前同盟ノ一國ニ於テ公ニシタル著作物ニ關シ既ニ取得シタル權利ヲ妨クルコトナカルヘシ

(四) 本條ニ基キ著作者ノ權利ヲ制限スヘキ同盟國ハ右保護ノ制限ヲ受ケヘキ國及該國ニ屬スル著作者ノ權利ニ加フル制限ヲ示セル宣言書ヲ以テ其ノ旨ヲ瑞西聯邦政府ニ通告スヘシ瑞西聯邦政府ハ直ニ右ノ事實ヲ同盟ノ一切ノ國ニ通知スヘシ

第六條ノ二 (一) 著作者ノ財産的權利ニ係ルコトナク且該權利ノ移轉後ト雖モ著作者ハ著作者ノ創作タルコトヲ主張スルノ權利及右著作者ノ改竄截除又ハ其ノ他ノ變更ニシテ著作者ノ名譽又ハ聲望ヲ害スルコトアルヘキモノニ對シテ異議ヲ述フルノ權利ヲ保有ス

(二) 右權利行使ノ條件ヲ定ムルコトハ同盟國ノ國內法ニ保留セラル右權利保全ノ爲ニスル救済ノ方法ハ保護ノ要求セラルル國ノ法律ニ依ルヘキモノトス

第七條 (一) 本條のニ依リ許與セララル保護ノ期間ハ著作者ノ生存間及其ノ死後五十年トス

(二) 尤モ前項ノ期間カ同盟ノ一切ノ國ニ依リ等シク採用セ

ラレザル場合ニ於テハ保護ノ期間ハ保護ノ要求セララルル國ノ法律ニ依ルヘク且著作者ノ本國ニ於テ定メラレタル期間ヲ超過スルコトヲ得サルヘシ從テ同盟國ハ其ノ國內法ニ合致スル範圍内ニ非サレハ前項ノ規定ヲ適用スルヲ要セサルヘシ

(三) 寫眞的著作者及寫眞術ト類似ノ方法ヲ以テ作リタル著作物、遺著、無名又ハ變名著作物ニ關シテハ保護ノ期間ハ保護ノ要求セララルル國ノ法律ニ依ルモノトス但シ著作物ノ本國ニ於テ定メラレタル期間ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條ノ二 (一) 著作物ノ合著作者ノ共有ニ屬スル著作者ノ權利ノ期間ハ合著作者中最終ノ生存者ノ死亡ノ日ニ依リテ計算セラル

(二) 第一項ニ定ムル保護ノ期間ヨリ短キ保護ノ期間ヲ許與スル國ニ屬スル者ハ同盟ノ國ノ諸國ニ於テ之ヨリ長キ期間ノ保護ヲ要求スルコトヲ得ス

(三) 如何ナル場合ニ於テモ保護ノ期間ハ合著作者中最終ノ生存者ノ死亡前ニ滿了スルコトヲ得サルヘシ

第八條 公ニセサル著作物ノ著作者ニシテ同盟ノ一國ニ屬スルモノ及同盟ノ一國ニ於テ初テ公ニシタル著作物ノ著作者ハ原著作物ニ關スル權利ノ全存續期間中同盟ノ他ノ諸國ニ於テ其ノ著作物ノ翻譯ヲ爲シ又ハ之ヲ許諾スルノ特權ヲ享有ス

第九條

(一) 同盟ノ一國ノ新聞紙又ハ定期編輯物中ニ於テ公ニシタル新聞小説、讀物及其ノ他題材ノ如何ヲ問ハス文藝學術又ハ美術ノ一切ノ著作物ハ著作者ノ承諾アルニ非サレハ他國ニ於テ之ヲ複製スルコトヲ得ス

(二) 經濟上、政治上又ハ宗教上ノ時事問題ヲ論議シタル記事ハ其ノ轉載カ明白ニ留保セラレサルトキハ新聞紙雜誌ニ之ヲ轉載スルコトヲ得但シ其ノ出所ハ常ニ之ヲ明瞭ニ示スコトヲ要ス此ノ義務ノ制裁ハ保護ノ要求セララルル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

(三) 本條約ノ保護ハ時事ノ記事又ハ單ニ新聞紙雜誌ノ報道ニ過キササル雜報ニハ之ヲ適用セス

第十條 教科用ニ供シ若ハ學術的ノ性質ヲ有スル刊行物ノ爲又ハ節用編輯ノ爲ニ文學的又ハ美術的著作物ヲ適法ニ引用スルノ權能ニ關シテハ同盟國ノ法律及同盟國間ニ現存シ又ハ將來締結スヘキ特別ノ取極ノ定マル所ニ依ル

第十一條 (一) 本條約ノ規定ハ公ニシタルモノト否トナ問ハス演劇脚本又ハ樂譜入演劇脚本ノ公ノ上演及音樂的著作物ノ公ノ演奏ニ之ヲ適用ス

(二) 演劇脚本又ハ樂譜入演劇脚本ノ著作者ハ原著作物ニ關スル其ノ權利ノ存續期間内ハ其ノ翻譯物ノ許諾ナキ公ノ上演ニ對シテ保護セララルモノトス

第九條

(三) 本條ノ保護ヲ享有スルカ爲ニ著作者ハ其ノ著作物ヲ公ニスルニ際シ其ノ公ノ上演又ハ公ノ演奏ヲ禁止スルコトヲ要セス

第十一條ノ二 (一) 文學的及美術的著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ無線放送ニ依リテ公衆ニ傳フルコトヲ許可スルノ特權ヲ享有ス

(二) 前項ニ掲グル權利ヲ行使スルノ條件ハ同盟國ノ國內法ノ規定スル所ニ依ル但シ右條件ハ之ヲ規定セル國ニ於テノミ效力ヲ有スヘシ右條件ハ如何ナル場合ニ於テモ著作者ノ人格權ヲモ又協議調ハサル場合ニ於テ權限アル機關ノ定ムル公正ナル補償ヲ受クル著作者ノ權利ヲモ害スルコトヲ得サルヘシ

第十二條 餽案、編曲及小説、讀物又ハ詩歌ト演劇脚本トノ相互ノ變作等ノ如キ文學的又ハ美術的著作物ノ許諾ナキ間接ノ轉用カ同一ノ形態又ハ他ノ形態ニ於ケル右著作物ノ複製ニシテ主要ナラサル變更、増補又ハ省略ヲ爲シ且新ナル原著作物タル性質ヲ具有セサルモノニ過キササルトキハ本條約ヲ適用スヘキ不法複製中ニ之ヲ特ニ包含スルモノトス

第十三條 (一) 音樂的著作物ノ著作者ハ左ノ事項ヲ許諾スルノ特權ヲ有ス

一、音樂的著作物ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ

右著作物ヲ寫調スルコト

- 二、前號ノ機器ヲ以テ右著作物ヲ公ニ演奏スルコト
- (二) 本條ノ適用ニ關スル留保及條件ハ各國ニ關スル限リ其ノ國ノ國內法ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ヘシ但シ此ノ種ノ留保及條件ハ之ヲ規定セル國ニ於テノミ效力ヲ有スヘシ
- (三) 第一項ノ規定ハ溯及效ヲ有セス從テ同盟ノ一國ニ於テハ千九百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ署名セラレタル條約ノ實施前又同日以後ニ同盟ニ加盟シ又ハ將來加盟スルコトアルヘキ國ニ付テハ其ノ加盟ノ前日其ノ國ニ於テ適法ニ機械的器具ニ寫調セラレタル著作物ニハ之ヲ適用セス

(四) 本條第二項及第三項ニ基キ作成セラレタル寫調ニシテ

右寫調カ適法ニ非サル國ニ利害關係人ノ許諾ナクシテ輸入セラレタルモノハ其ノ國ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

第十四條 (一) 文學的、學術的又ハ美術的著作物ノ著作人ハ其ノ著作物ノ活動寫眞術ニ依ル複製案及公ノ上映ヲ許諾スルノ特權ヲ有ス

(二) 活動寫眞的製作物ハ著作人カ著作物ニ獨創的性質ヲ與ヘタルトキハ文學的又ハ美術的著作物トシテ保護セラルル若シ此ノ性質ヲ缺クトキハ活動寫眞的複製物ハ寫眞的著作物ノ保護ヲ享ハス

リ、禁止スルノ同盟各國ノ政府ニ屬スル權利ヲ何等害スルコトナシ該權利ハ權限アル機關之ヲ行使スヘシ

第十八條 (一) 本條約ハ本條約實施ノ際其ノ本國ニ於テ保護ノ期間ノ滿了ニ依リ既ニ公有ニ屬シタルモノニ非サル一切ノ著作物ニ之ヲ適用ス

(二) 尤モ著作物カ從前認メラレタル保護ノ期間ノ滿了ニ依リ保護ノ要求セラルル國ニ於テ公有ニ屬シタルトキハ其ノ著作物ハ其ノ國ニ於テ新ニ保護セラレサルヘシ

(三) 右原則ノ適用ハ之ニ關シ同盟國間ニ現存シ又ハ將來締結スヘキ特別條約ノ規定ニ從フヘキモノトス此ノ種ノ規定ノ存在セサルトキハ各作ハ各自作ニ關シ右原則ノ適用ニ關スル方法ヲ定ムヘシ

(四) 前諸規定ハ同盟ニ新ニ加盟アリタル場合及保護カ第七條ノ適用又ハ留保ノ拋棄ニ依リ擴張セラルヘキ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十九條 本條約ノ規定ハ同盟ノ一國ノ法律ニ依リ一般ニ外國人ノ爲ニ定メラルヘキ一層寬大ナル規定ノ適用ヲ求ムルコトヲ妨ケス

第二十條 同盟國政府ハ特別ノ取極力同盟ニ依リ付與セラレタル權利ヨリ廣大ナル權利ヲ著作人ニ付與スヘキ限リ又ハ本條約ニ牴觸セサル他ノ規定ヲ包含スヘキ限リ各國相互間ニ右取

(三) 活動寫眞的著作物ハ複製又ハ翻案セラレタル著作物ノ著作人ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ一ノ原著作物トシテ保護セラルヘキモノトス

(四) 前諸規定ハ活動寫眞術ト類似ノ他ノ一切ノ方法ヲ以テ作りタル複製物又ハ製作物ニ之ヲ適用ス

第十五條 (一) 本條約ニ依リ保護セラルル著作物ノ著作人カ反對ノ證據アル迄眞正ノ著作人ト看做サレ從テ同盟ノ諸國ノ裁判所ニ於テ偽作者ニ對シテ訴訟ノ提起ヲ許容セラルルカ爲ニハ其ノ名カ通例ノ方法ニ依リ其ノ著作物ニ表示セラ

ルルヲ以テ足ル

(二) 無名又ハ變名著作物ニ關シテハ發行者ニシテ其ノ名カ著作物ニ表示セラレタルモノニ於テ著作人ニ屬スル權利ヲ保全スルノ權能ヲ有ス右發行者ハ他ノ證據ヲ要セスシテ名又ハ變名著作物ノ承繼人ト認メラルヘキモノトス

第十六條 (一) 一切ノ偽作物ハ原著作物カ法律上ノ保護ヲ享有スル同盟國ノ權限アル機關ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

(二) 右同盟國ニ於テハ著作物カ保護セラレサルカ又ハ保護ノ止ミタル區ヨリ來ル複製物ヲモ差押フルコトヲ得

(三) 差押ハ各國ノ國內法ニ從ヒ之ヲ行フ

第十七條 本條約ノ規定ハ一切ノ著作物又ハ製作物ノ頒布、上演、展覽ヲ國內ノ立法又ハ警察上ノ措置ニ依リ許可シ、取締

極チ締結スルノ權利ヲ留保ス現存ノ取極力規定ニシテ右條件ニ合致スルモノハ引續キ適用アルモノトス

第二十一條 (一) 「文學的及美術的著作物保護國際同盟事務局」ナル名稱ノ下ニ設立セラレタル國際事務局ハ之ヲ維持ス

(二) 右事務局ハ瑞西聯邦政府ノ管理ノ下ニ之ヲ置ク瑞西聯邦政府ハ其ノ組織ヲ定メ且其ノ事務ヲ監督ス

(三) 事務局ノ公用語ハ佛蘭西語トス

第二十二條 (一) 國際事務局ハ文學的及美術的著作物ニ付テ著作物ノ權利ノ保護ニ關スル各種ノ報告ヲ蒐集シ之ヲ編纂發行ス事務局ハ同盟共同ノ利益ニ關スル事項ヲ講究シ且諸政府ヨリ受領シタル書類ニ依リ同盟ノ目的ニ關スル諸問題ニ付佛蘭西語ヲ以テ定期刊行物ヲ編纂ス同盟國政府ハ經驗上必要ト認メラルヘキ場合ニ於テハ合意ヲ以テ事務局カ一又ハ二以上ノ他ノ國語ヲ以テ別版ヲ發行スルコトヲ許諾スルノ權利ヲ留保ス

(二) 國際事務局ハ文學的及美術的著作物ノ保護ニ關スル問題ニ付何時ニテモ同盟國ノ請求ニ應シ其ノ必要トスルコトアルヘキ特殊報告ヲ與フルコトヲ要ス

(三) 國際事務局長ハ其ノ所管事務ニ付年報ヲ作成シ之ヲ一切ノ同盟國ニ送付ス

百八年十一月十三日「ベルリン」ニ於テ署名セラレタル條約又ハ本條約ニ加入スルコトニ依リテ同盟ニ加入スルコトヲ得ヘシ千九百三十一年八月一日後ニ於テハ該國ハ本條約ニノミ加入スルコトヲ得ヘシ

第二十九條 (一) 本條約ハ其ノ廢棄ノ通告ヲ爲サレタル日ヨリ一年ヲ經過スル迄ハ無期限ニ引續キ實施セララルヘシ

(二) 右廢棄ノ通告ハ瑞西聯邦政府ニ之ヲ爲スヘシ右廢棄ノ通告ハ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生スヘク本條約ハ同盟ノ國ノ諸國ニ對シテハ其效力ヲ存續スルモノトス

第三十條 (一) 本條約第七條第一項ニ定ムル五十年ノ保護ノ期間ヲ自國ノ法律ニ採用スル國ハ之ヲ瑞西聯邦政府ニ書面ヲ以テ通告スヘク該政府ハ直ニ之ヲ同盟ノ他ノ一切ノ諸國ニ通告スヘシ

(二) 第二十五條及第二十七條ニ依リ爲シ又ハ維持シタル留保ヲ拋棄スル國ニ付亦前項ニ同シ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名セリ
千九百二十八年六月二日「ローマ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ伊太利王國政府ノ記錄ニ記託スヘシ
認證謄本一通ヲ外交上ノ手續ニ依リ同盟各國ニ送付セララルヘシ
(各國委員氏名省略)

第三種郵便認可規則

(明治四十年八月十七日、逓信省令第三十五號、大正八年省令第二十五號改正)

第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ發行地所轄ノ逓信局ヘ願出ツヘシ

第二條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ左ノ條件ヲ具備スルモノニ限ル

- 一 毎月一回以上逐號定期ニ發行スルコト
- 二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定スヘカラサルコト
- 三 書籍ノ性質ヲ有セサルコト
- 四 政事、時事、農事、工事、商事、學術、技藝、統計等公共ノ性質ヲ有スル事項ヲ報道論議スルヲ以テ發行ノ目的ト爲シ且汎ク公衆ニ發賣スルコト

第三條 本規則ニ依リ認可ヲ受ケムトスル定期刊行物ノ發行人ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ見本二部ヲ添ヘ差出スヘシ

- 一 題 號
- 二 記載事項ノ種類
- 三 發行人
- 四 發行所
- 五 發行人ノ住所

六 發行ノ定日

第四條ノ一 本規則ニ依リ認可ノ效力ハ認可ヲ受ケタル號ヨリ發生スルモノトス

最後ノ發行ノ次ノ定日ヨリ起算シ三十日ヲ過キテ發行セザルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第四條ノ二 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行人ハ其ノ定期刊行物發行ノ際ニ差出スヘキ郵便局(郵便物ノ集配事務ヲ取扱フ局ニ限ル)ヲ豫メ發行地所轄逓信局ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行人ハ其ノ發行毎ニ先ツ發行地所轄ノ逓信局及其ノ指定シタル郵便局ニ見本一部ヲ差出スヘシ

第六條 第三條第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ發行人ヨリ發行地所轄ノ逓信局ニ願出テ其ノ認可ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テ發行人ヲ變更セムトスルトキハ新舊發行人連署スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ願書ニ説明スヘシ

第三條第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ廢刊、休刊、發行禁止ノトキハ其發行人ヨリ三日以内ニ發行地所轄ノ逓信局ニ届出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ發行所ヲ他ノ所轄區内ニ移轉セムトスルト

キハ認可ヲ受ケタル逓信局ヲ經由シ移轉先ヲ所轄スル逓信局ニ願出テ其認可ヲ受ケヘシ

第七條 第三條第一項及第三項ノ出願人ハ左記ノ割合ニ依リ手數料ヲ納ムヘシ

- 一 新ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケムトスルトキ又ハ第三條中ニ事項以上變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ金拾圓
- 二 第三條中其ノ一事項ニ對シ變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ金五圓

前項ノ手數料ハ逓信局又ハ管理事務分掌一等局ノ指示ニ從ヒ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第八條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物及其ノ臨時増刊並其ノ發行人左記各號ノ一ニ該當スルトキハ認可ヲ取消スヘシ

- 一 第二條各號ノ條件ヲ缺キタルトキ
- 二 第四條ノ二ノ届出ヲ怠リタルトキ
- 三 第五條見本ノ差出ヲ怠リタルトキ
- 四 第六條ノ手續ヲ怠リタルトキ
- 五 届出ノ事項事實ト相違アルトキ

第九條ノ一 第四條ノ一第二項ニ依リ認可ノ效力ヲ失ヒタルモノ及前條ニ依リ認可ヲ取消サレタルモノ又ハ之ヲ繼承シタルト認メタル定期刊行物ニ對シテハ情狀ニ依リ再ヒ認可ヲ與ヘ

サルトアルヘシ

第九條ノ二 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケサル刊行物ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタルコトヲ表示スヘキ文字ヲ印刷シタルトキハ發行人ヲ百圓以内ノ罰金ニ處ス

附 則

第十條 本規則ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年九月遞信省令第七十三號第三種郵便物發行規則ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第十一條 從來ノ規程ニ依リ現ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ニシテ本規則ニ牴觸セスシテ發行スルモノハ尙其ノ效力ヲ有ス

郵便規則摘要

(明治三十九年九月遞信省令、第四十二號)

第二十條 定期刊行物ハ其ノ刊行物初頁上部ニ其ノ名稱、發行期日、回数、逐號番號、發行年月日何年何月何日第三種郵便物認可ノ文字、次頁以下ハ上部ニ其ノ名稱又ハ略記號、發行年月日及第三種郵便物認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但シ冊子トナシタル刊行物ハ最初及最終ノ頁面ノミニ印刷スルトヲ得
第二十一條 定期刊行物ハ本紙ノ重量ニ超過セス本紙ト同性質

ノ記事、廣告又ハ書、書圖ヲ印刷シ之ニ本紙ノ名稱、番號、並ニ發行ノ年月日及附録ノ文字ヲ記入シ且冊子ト爲ササルモノニ限り附録トシテ之ヲ本紙ニ添付スルトヲ得
第二十二條 緊急時事ヲ報道スル爲メ臨時ニ發行スル定期刊行物ノ號外ハ定期刊行物ト同一ノ取扱ヲ爲ス
定期刊行物ノ號外ハ之ニ本紙ノ名稱、發行ノ年月日何年何月何日第三種郵便物認可及號外ノ文字ヲ記入スヘシ
第二十三條 定期刊行物ニハ其發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ本紙ノ重量ヲ超過セサルモノニ限り之ヲ綴込又ハ貼付スルトヲ得

第三種郵便物ニ關スル願届書式

第三種郵便物認可願

- 一、題 號
 - 二、記載事項ノ種類
 - 三、發行人
 - 四、發行所々在地並ニ所名
 - 五、發行人ノ住所
 - 六、發行ノ定日
 - 七、差 出 局
- 右第三種郵便物トシテ郵送ノ儀御許可相成度第 號武部相添及

御願候

昭和 年 月 日

右 發行人

東京遞信局長

殿

(第一號書式)

(發行所ヲ他ノ遞信局區内ニ移轉スル場合ニ限ル) (當局經由ヲ要ス)

發行所變更願

年 月 日第三種郵便物認可

舊發行所

新發行所

右之通り 月 日ヨリ變更致候間御認可相成度及御願候

年 月 日

右發行人 氏

名 ㊟

(新發行所所轄遞信局長名)

遞信局長

殿

(第二號書式)

(見本差出) 局名) 經由 (朱記)

發行所變更届

年 月 日第三種郵便物認可

題 號

出版關係法規

舊發行所

右之通り 月 日ヨリ變更致候

年 月 日

右發行人 氏

名 ㊟

東京遞信局御中

(第三號書式)

(見本差出) 局名) 經由 (朱書)

發行所臨時變更届

年 月 日第三種郵便物認可

第何號

右 月 日發行スヘキ處臨時 月 日ニ變更致候

年 月 日

右發行人 氏

名 ㊟

東京遞信局御中 (發行日臨時變更ハ翌月及次ノ發行日ニ涉ルコトヲ得ズ)

(第四號書式)

(見本差出) 局名) 經由 (朱記)

發行人住所變更届

題號 年月 日 第三種郵便物認可

舊住所
新住所

右之通り 年月 日 ヨリ變更致候

右發行人 氏 名 印

東京遞信局御中

(第五號書式)

(見本差出) 局名 經由 (朱記)

休刊屆

年月 日 第三種郵便物認可

題號 第何號

右月 日發行スヘキ處休刊致候

年月 日

右發行人 氏 名 印

東京遞信局御中

(第六號書式)

(見本差出) 局名 經由 (朱記)

第三種郵便物差出局變更屆 見本一部添付

發行定日變更屆

年月 日 第三種郵便物認可

題號

舊發行定日

新發行定日

右之通り 年月 日 發行分ヨリ變更致候

年月 日

右發行人 氏 名 印

東京遞信局御中

(第九號書式)

(見本差出) 局名 經由 (朱記)

體裁變更屆

(雜誌體ヨリ新聞體ニ又ハ新聞紙體ヨリ雜誌體ニ變更場合ニ限ル)

年月 日 第三種郵便物認可

題號

右刊行物 年月 日 發行第 號ヨリ見本ノ通り體裁變更致候

年月 日

右發行人 氏 名 印

東京遞信局御中

出版關係法規

題號 年月 日 第三種郵便物認可

舊差出局
新差出局

右ノ通り 年月 日 ヨリ變更可致候

右發行人 氏 名 印

東京遞信局御中

(第七號書式)

(見本差出) 局名 經由 (朱記)

臨時増刊發行屆

年月 日 第三種郵便物認可

題號

右月 日第 號臨時増刊トシテ發行致候

年月 日

右發行人 氏 名 印

東京遞信局御中

(第八號書式)

(見本差出) 局名 經由 (朱記)

各種屆書類ニ關スル注意

一、屆書類ハ總テ見本差出局ヘ差出スコト

一、用紙ハ可成半紙ニツ折テ用ヒ綴補上必要ニ付兩端一寸程

空欄ヲ置クコト

第三種郵便物注意事項

一、第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ヲ其ノ發行定日前ニ郵便ニ差出ス場合ハ其ノ刊行物ニ「何月何日印刷納本」ト印刷シアルモノニシテ其ノ納本日以後ニ差出シタルモノニ限リ第三種郵便物ノ取扱ヲ爲ス

二、第三種郵便物認可規則第五條ニ依ル見本ハ必ス發行日前遅クモ發行當日迄ニ當局並ニ指定局ニ差出スコトヲ要ス若ハ發行日ノ翌日以後ニ納本セラルルモノニ對シテハ認可規則第八條ヲ適用スル乎又ハ郵便物ノ引受ヲ停止ス

三、定期刊行物ハ郵便規則第二十條ニ依ル成規各印刷事項ヲ必ス印刷スヘキコト

四、第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ニシテ其ノ發行定日ニ至リ發行シ得サル時又ハ定日ニ發行シ得ラレサルコトヲ豫測シ得ヘキ時ハ必ス發行定日臨時變更屆ノ提出ヲ要ス若シ何等ノ届出モナク定日ヨリ遅レテ發行セラルル時ハ認可規

則ニモ違背セラルルニ付第三種郵便物ノ取扱ヲ爲ササルカ又ハ認可ヲ取消サルル事アルヤモ計リ難キニ付注意セラレタシ

五、第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物及ヒ其ノ臨時増刊ニシテ題號ノ外ニ「何々記念誌」又ハ其ノ他ノ特殊名稱ヲ附スル場合ハ其ノ字格カ本題號ヨリ小ニシテ且ツ其ノ内容ハ平常ノモノト同一種類ノ記事ヲ包容スヘキヲ必要條件トス若シ其ノ名稱カ内容總括的説明ト認メ得サルモノ又ハ其ノ字格カ本題號ヨリ大ナルカ或ハ題號ノ文字カ明瞭ヲ缺ク字體ヲ以テ表示セルモノハ總テ別種ノモノトシテ取扱フニ付若シ臨時増刊等特殊ノモノヲ發行セラルルトキハ豫メ本條件ヲ具備スル様注意セラレタシ

約束郵便取扱承認規則

(大正十二年二月二十四日 逓信省令第二十一條)

第一條 約束郵便ノ取扱承認ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 約束郵便ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申込書ヲ所轄逓信局長ニ差出シ其ノ承認ヲ受ケヘシ

一 題號又ハ名稱
二 約束郵便ト爲スニ依リ郵便料ノ低減ヲ受ケヘキモノハ其

コトアルヘシ

第六條 差出人約束郵便取扱ノ必要ナキニ至リタルトキ又ハ其ノ差出郵便官署ヲ他ノ逓信局區内ノ郵便官署ニ變更セムトスルトキハ其ノ旨ヲ所轄逓信局長ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ約束郵便ノ取扱承認ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條 郵便規則第二十四條ノ一ノ適用ヲ受クル約束郵便物ニシテ引續キ三月以上又ハ最近一年間ニ五月以上同條ニ依ル差出ヲ休止シタルトキハ其ノ承認ヲ取消スヘシ

第八條 約束郵便物ノ差出人左記各號ノ一ニ該當スルトキハ約束郵便ノ承認ヲ取消スコトアルヘシ

一 本令ニ違反シタルトキ

二 約束郵便料ヲ規定ノ期間迄ニ納付セサルトキ

第九條 前二條ニ依リ約束郵便ノ承認ヲ取消シタルモノニ對シテハ其ノ情狀ニ依リ再ヒ約束郵便ノ承認ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第十條 本令ニ依リ所轄逓信局長ニ提出スヘキ書類ハ總テ約束郵便物差出郵便官署ヲ經由スヘシ但シ逓信局ト差出郵便官署ト同一行政區内ニ在ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 第六條乃至第八條ニ依リ約束郵便ノ取扱承認ノ效力ヲ失ヒタルトキハ第五條ニ依ル擔保ハ之ヲ差出人ニ還付ス但

ノ事由

三 差出回数(定期日アルモノハ定期日ヲモ記載ヲ要ス)並ニ毎回ノ差出回数(料金ヲ異ニスルモノ毎ニ)ノ概算高

四 差出郵便官署名(無集配三等郵便局ヲ指定スルヲ得ス)

六 申込者ノ住所氏名

逓信局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ差出郵便官署ヲ指定シ又ハ變更セシムルコトアルヘシ

郵便規則第二十四條ノ一ノ適用ヲ受クル約束郵便ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ手数料金十圓ヲ納付スヘシ

第三條 本令ニ依リ約束郵便ノ承認ヲ受ケタル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ其ノ旨ヲ所轄逓信局長ニ届出ツヘシ但シ郵便規則第二十四條ノ一ノ適用ヲ受クル約束郵便物ノ題號又ハ申込人ヲ變更セムトスルトキハ一事項ニ付手数料金五圓ヲ納付シ所轄逓信局長ノ承認ヲ受ケヘシ

第四條 前二條ノ手数料ハ逓信局長ノ指示ニ從ヒ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第五條 約束郵便物ノ差出人ハ約束郵便料後納ノ擔保トシテ所轄逓信局長ノ指示ニ從ヒ通貨又ハ國債ヲ提供スヘシ但シ差出人官公署公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ擔保ハ約束郵便差出回数ノ異同ニ應ジテ之ヲ増減セシムル

シ料金ノ滞納アルトキハ該擔保(國債ヲ擔保トナシタルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ金額ヨリ賣却費用ヲ引去リタル殘額)ヲ未納料金ニ充テ過剩額ハ之ヲ還付シ不足額ハ之ヲ追徴ス

附 則

本令ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

約束郵便取扱規則ハ之ヲ廢止ス

約束郵便取扱規則ニ依リ承認ヲ受ケタル約束郵便物ハ本令ニ依リ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

郵便規則摘載

(明治三十三年九月逓信省令第四十二號)

第二十四條ノ一 第三種郵便物ニ非サル印刷物ニシテ毎月一回以上繼續刊行シ且發行ノ都度其ノ當月又ハ其ノ翌月中ニ一月ノ發行ニ付百通以上差出スモノハ約束郵便トシテ特ニ承認シタル場合ニ限リ其ノ料金ヲ前條ニ該當スルモノハ重量五十匁又ハ其ノ端數毎ニ其ノ他ノモノハ重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ金二錢トス第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ印刷物ニ之ヲ準用ス

第六十四條ノ一 定期刊行物、書籍及印刷物ハ別ニ定ムル所ニ依リ所轄逓信局長ノ承認ヲ受ケ約束郵便ト爲スコトヲ得

第六十四條ノ二 約束郵便物ハ通知ヲ要セサル留置ト爲スノ外
 他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス
 第六十四條ノ三 約束郵便ニハ日附印ヲ捺捺セス
 第六十四條ノ四 約束郵便物ニハ切手ヲ貼付セス差出人ニ於テ
 左記雜形ノ印章ヲ捺捺スヘシ



前項郵便物ノ料金ハ毎月分ヲ翌月二十日迄ニ所轄逓信局長ノ
 指示ニ從ヒ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
 第六十四條ノ五 約束郵便物ハ特殊ノ包装ヲ要スルモノノ外強
 質ナル白又ハ淡色ノ紙ヲ以テ包装シ帶紙ヲ用フルトキハ其ノ
 幅二寸以上トシ宛所ハ成ルヘク左ノ例ニ依リ明瞭ニ縦書スヘ
 シ

何府何々(配達郵便局)局区内
 何縣何々(郵便局名)局区内
 何町何々番地

第六十四條ノ六 約束郵便物ハ郵便官署ノ指示ニ從ヒ其ノ題號
 又ハ名稱及箇數等ヲ記載シタル郵送票ヲ添ヘ之ヲ豫メ承認ヲ
 受ケタル郵便官署ニ差出スヘシ
 第六十四條ノ七 郵便官署ニ於テ必要アリト認メタルトキハ其
 ノ差出場所ヲ指定スルコトアルヘシ
 郵便官署ハ差出人ヲシテ約束郵便物發送上必要ナル區域毎ニ
 之ヲ結束シテ差出サシムルコトアルヘシ
 第六十四條ノ八 郵便官署ハ必要ニ應ジ差出人ニ對シ約束郵便
 物ノ見本ヲ提出セシムルコトアルヘシ

約束郵便ニ關スル注意

- 一、約束郵便ノ申込ヲサムトスル者ハ申込書(第一號雜形) 擔保提供書(第二號雜形) 及見本一部ヲ差出スヘシ
- 二、約束郵便取扱承認規則(以下取扱承認規則ト稱ス) 第五條ノ擔保額ハ當該郵便物一箇月分郵送料ノ倍額以上トシ其ノ種類ハ現金又ハ國債ニ限ル且ツ國債ノ價格ハ額面ニ依ル
- 三、國債ハ擔保提供書(第二號雜形)ニ種類、額面、記號番號枚數及附屬利札等洩レナク記載スヘシ
- 四、題號又ハ名稱、差出箇數、差出局、申込人又ハ其住所ヲ變更セムトスル時ハ第三號雜形ノ届書又ハ願書ヲ差出スヘシ
- 五、差出箇數增加ノ場合ハ前號届書ニ不足額ニ相當スル擔保金

額ヲ記載シタル擔保提供書(第二號雜形)ヲ添付スヘシ差出
 個數減少ノ場合ニアリテハ届書餘白ニ還付ヲ受ケヘキ擔保ノ
 種類ヲ附記スヘシ此記載ナキトキハ當局ニ於テ便宜査定スヘ
 シ
 六、申込人ノ變更ハ願書(第三號乙雜形)ニ新舊申込人連書ス
 ヘシ舊申込人ノ連書ヲ得サルトキハ變更ノ事實ヲ證明スルニ
 足ルヘキ書類ヲ添付スヘシ
 新申込人ニ於テ舊申込人ノ提供セル擔保ヲ繼承セムトスルト
 キハ届書ニ其旨ヲ記載シ之ニ領收證書又ハ受領證書ヲ添付ス
 ヘシ又新ニ擔保ヲ提供スルモノニアリテハ必要ナル擔保金額
 ナ記載シタル擔保提供書(第二號雜形)ヲ添付スヘシ
 七、擔保ノ組替ヲセムトスルトキハ還付ヲ受ケヘキ擔保及ヒ之
 ニ代ルヘキ擔保ヲ詳記シタル請求書(第四號雜形)ヲ差出ス
 ヘシ
 八、申込人ニ於テ手数料又ハ擔保ノ納付ノ通告ヲ受ケタルトキ
 ハ遲滞ナク指定ノ箇所ニ納入スヘシ
 九、手数料ハ當局又ハ差出局ヘ納入スルモノトス此ノ場合ハ承
 認書交付ヲ以テ手数料領收ノ證トス
 十、擔保ハ現金ハ郵便局ニ納入シ證券ハ日本銀行ニ寄託シタル
 上其受領證書ヲ當局又ハ差出局ニ差出スモノトス納付人ハ
 以上孰レノ場合ニ於テモ領收證書又ハ受領證書ヲ取置クヘ

十一、手数料及擔保ヲ納入セサル間ハ願書ニ相當スル約束郵便
 ノ取扱ヲナサス
 十二、申込人ハ取扱承認規則第六條ノ郵送票用紙ヲ第五號雜形
 ニ依リ調製スヘシ但シ同票ハ複寫紙ニヨリ二通ヲ作成シ内一
 通ハ差出人ニ於テ保管シ置クヲ便宜トス
 十三、約束郵便ヲ取消サムトスルモノハ第六號雜形ニヨリ其届
 書ヲ差出スヘシ
 十四、擔保ノ還付ハ當局ヨリ之ヲ納付人ニ通知ス但拂渡ハ左記
 方法ニヨリ取扱フ
 一、現金ハ指定郵便局ニ於テ拂渡ヲ爲ス
 二、證券ハ當局ニ於テ受領證書ニ拂渡ノ事由ヲ證明シテ交付
 ス
 前項ニ依リ現金ノ拂渡又ハ受領證書ノ交付ヲ受ケムトスルト
 キハ領收證書又ハ受領證書相當欄ニ受領證印ノ上之ヲ差出ス
 ヘシ
 十五、證券利札受領ノ爲メ印鑑證明ヲ必要トスルトキハ(願書
 第七號雜形)ヲ差出スヘシ
 十六、約束郵便ニ關スル印鑑ハ常ニ一定シ置クコトヲ要ス改印
 シタルトキハ保證人ヲ立テ速ニ届出ツヘシ
 十七、外國ヘハ約束郵便トシテ差出スコトヲ得ス

約束郵便ニ關スル願届書式

約束郵便承認願

- 一、題號又ハ名稱
- 二、約束郵便ト爲スニヨリ郵便料郵便規則條ノ適用ヲ受ク低減ヲ受クヘキモノハ其事由
- 三、差出回数(定期日アルモノ) 一ヶ月 同日
- 四、毎回差出個數(構算高) 匁以内 個
- 五、申込人住所氏名
- 六、差出郵便官署名

右約束郵便トシテ郵送方承認相成度別紙擔保提供書並ニ郵便物見本壹部相添及御願候

昭和 年 月 日

右

東京都市遞信局長殿

高額ノ郵便切手ヲ使用セラレタシ

手数料ハ必
ス此欄内ニ
貼用セラレ
タシ

(第二號雛形)
約束郵便擔保請求書

一金壹百圓也 現金

一第四分利公債證書額面壹百圓也

又ハ 内 譯

百圓券ハ號五〇〇三壹枚 但昭和十年十二月(券面記載年月) 渡以降利札附屬

右東京商報ノ約束郵便擔保トシテ提供ス

年 月 日

日本橋區蠣殼町壹番地

甲 野 太 郎 印

東京遞信局長 殿

(第三號甲雛形)

變更 届

年 月 日 第三種郵便物認可

題 號

一、題 號 新舊

一、記載事項 新舊

一、發行人 新舊

右之通り 變更認可相成度此段及御願候也

昭和 年 月 日

(第四號雛形)

約束郵便擔保組替請求書

昭和十年十月一日約甲第一〇〇號承認東京商報

還付ヲ受クヘキ擔保

一金壹百圓也 現金 昭和十年十月一日納

又ハ 大日本帝國政府四分利公債證書額面壹百圓也 壹枚

内 譯

壹百圓券ハ號 第壹貳參參號

代用擔保

一特別五分利公債證書額面壹百圓 壹枚

内 譯

五拾圓券甲ハ號三九一番、三九二番、貳枚 但昭

和十年十二月渡以降利札附屬

右約束郵便擔保組替相成庭此段請求候也

年 月 日

住 所 何々

何 某 印

東京遞信局長 殿

(第五號雛形)

約束郵便物郵送票

出版關係法規

東京遞信局長 殿

(第三號乙雛形該當)

約束郵便變更願

承認年月日 昭和 年 月 日

承認番號 東甲第 號

欄號題

新題號 又ハ申 込人欄

申込人住所氏名

右約束郵便題號申込人變更致度候間承認相成度新舊申込人連

書ヲ以テ及御願候

追テ擔保品ハ新申込人ニ於テ全部承繼スルト共ニ本日迄ノ

未拂料金ハ新申込人ニ於テ引受ケ支拂可申候

昭和 年 月 日

新申込人

舊申込人

東京遞信局長 殿

可成高額ノ切手ヲ使用セラレタシ

手数料ハ必
ス此欄内ニ
貼用セラレ
タシ

出版關係法規

諸團體規約

東京書籍商組合

事務所 神田區駿河臺一ノ二
電話神田八五四番
振替東京三一〇〇三番

東京書籍商組合規約

(昭和十三年十一月修正)

- 第一章 總 則
- 第二章 組 合 員
- 第三章 役 員
- 第四章 會 議
- 第五章 會 計
- 第六章 營 造
- 第七章 制 裁
- 第八章 規約及規程ノ變更
- 第九章 附 則

第一章 總 則

第一條 本組合ハ東京市内ニ營業所ヲ有スル圖書ノ出版業者、卸賣業者、販賣業者ヲ以テ組織ス

第二條 本組合ハ東京書籍商組合ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第三條 本組合ハ組合員協同一致シテ事業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條 本組合ノ目的ヲ達センカ爲メ左ノ事項ヲ執行ス

一 圖書ノ出版及販賣ニ關スル利害

得失ヲ調査研究シ其ノ改善ヲ圖ルコト

二 本組合ノ機關雜誌、圖書目錄、書籍商名簿其ノ他ニ必要ナル圖書ヲ發行スルコト

三 組合員出版圖書ノ大市會ヲ開催スルコト

四 圖書ノ出版及販賣ニ關スル法令ノ制定及改廢ニ關シ官廳若クハ議會共ノ他ニ意見ヲ開申シ又ハ請願スルコト

五 組合員ノ從業者ヲ表彰スルコト

六 組合員間ノ營業上ノ紛議ヲ調停スルコト

七 全國書籍業聯合會ニ加入スルコト

八 前各號ノ外本組合ノ目的ヲ達スルニ必要ト認ムル事項

第五條 本組合ニ加入セントスル者ハ

存スルコトヲ發見シタルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ其ノ許可ヲ取消ス

コトアルヘシ

第八條 左ノ各號ニ該當スル者ハ本組合ニ加入スルコトヲ得ス

- 一 露店若クハ道路ニ於テ圖書ノ販賣ヲ營ム者
- 二 専ラ戸々ニ就キ圖書ノ行商ヲ營ム者
- 三 官衙學校及病院ノ構内ニ設ケタル營業所ニ於テ圖書ノ販賣ヲ營ム者

第九條 組合員ハ左記各號ノ場合ニ於テハ之ヲ本組合ニ届出テ其ノ承認ヲ經ヘシ

- 一 營業所ヲ移轉セントスルトキ
- 二 出版業者ニシテ卸賣業又ハ販賣業ヲ營メントスルトキ
- 三 卸賣業者ニシテ出版業又ハ販賣業ヲ營メントスルトキ
- 四 販賣業者ニシテ出版業又ハ卸賣業ヲ營メントスルトキ

業ヲ營メントスルトキ

五 氏名若クハ商號ノ變更又ハ商號ヲ併用セントスルトキ

六 廢業シタルトキ

第十條 組合員ハ組合ノ經費トシテ月費金參拾錢ヲ負擔ス

第十一條 組合員ハ其ノ出版又ハ專賣ノ圖書ニ定價ヲ記載スヘシ

第十二條 組合員ハ卸取引ノ外總テ圖書ハ定價ヲ以テ販賣スヘシ

第十三條 組合員ハ本組合及各地書籍商組合ノ組合員ニアラサル者ト卸取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 組合員ハ販賣寄託ノ目的ヲ以テ組合員ニアラサル者ト取引ヲ爲シタルトキハ假令定價ヲ以テ販賣スルモ第十二條ニ違反シタル者ト見做ス

第十五條 前四條ノ規定ニ付テハ別ニ販賣規程ヲ以テ細則ヲ定ム

第十六條 組合員ニ對シ取引上ノ義務

本組合所定ノ用紙ニ其ノ營業所、商號、氏名、年齢及業別(出版、卸、販賣)ヲ記シ紹介者タル組合員二人ノ連署ヲ以テ申込ムヘシ但紹介者一人ハ評議員タルコトヲ要ス

分店、支店、出張所等ハ各別ニ加入スヘキモノトス

加入金ハ金五拾圓トス加入許可ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ本組合ニ納入スヘシ加入金納入ノ日ヨリ組合員タルノ資格ヲ生ス

本組合從業者表彰規程ニ依リ表彰セラレタル者ハ加入金ヲ要セス但一旦脱退シタル者又ハ本條第二項ノ規程ニ依リ加入スル者ハ此限ニアラス

第六條 本組合ハ加入及移轉申込者ニ對シ評議員ノ互選ヲ以テ定メタル調査委員十人ニ審査セシメ評議員會ノ決議ヲ以テ其ノ許可ヲ定ム

第七條 組合加入ノ許可ヲ與ヘタル後ト雖加入ヲ許可スヘカラサル事由ノ

ナ履行セサル者アルトキハ別ニ定メタル取引規程ニ依リ之ヲ處分ス

第十七條 組合員間ニアリテハ既ニ組合員カ圖書ノ出版ニ關シテ有スル發行販賣ノ利益ヲ侵害スヘカラス

組合員カ新タニ出版セントスル圖書ニツキ既ニ組合員ト其ノ著作者若クハ藏版者トノ間ニ出版若クハ專賣ノ契約ヲ締結セル場合ニ於テハ豫メ前約者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第十八條 組合員間ニアリテハ現ニ組合員ノ使用スル商號ト同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ス其ノ著シク相類似スルカ爲メニ取引上紛雜ヲ來タスノ虞アルモノニツキ亦同シ但先用者ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第十九條 組合員ニシテ本組合ニ特ニ功勞アリタル者ハ之ヲ表彰スル事アルヘシ

第二十條 組合員ハ自己ニ關スル件ニ付組合ヨリ出頭ヲ求メタルトキハ故

ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條 組合員タル資格ハ其ノ相續人若クハ法律上ノ家族ニ於テ營業ヲ繼續スル場合ニ限り之ヲ承繼スルコトヲ得

個人若クハ法人ノ營業ヲ個人若クハ法人ニ於テ讓受ケタル場合及法人ノ組織ヲ變更シ又ハ合併新設アリタル場合ニハ總テ新タニ加入ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス但評議員會ニ於テ特別ノ事情アリト認メタル者ニ限り加入金ヲ免除スル事ヲ得

第二十二條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ其ノ資格ヲ喪失ス

- 一 任意ノ脱退
- 二 廢業又ハ營業ノ全部讓渡
- 三 營業所ノ組合地域外移轉
- 四 死亡若クハ法人ノ解散
- 五 破産
- 六 除名

第二十三條 組合員ニシテ其ノ資格ヲ

喪失シタル場合ニ於テハ之ニ對シ財産ノ分配並ニ加入金ノ返還ヲ爲サス

第三章 役員

第二十四條 本組合ハ組合員中ヨリ評議員五十人ヲ選出ス

評議員ハ互選ヲ以テ組長一人副組長二人ヲ定ム

評議員ハ互選ヲ以テ會計主任二人ヲ定ム

評議員ハ互選ヲ以テ全國書籍業聯合會代表議員十人ヲ定ム

第二十五條 評議員ノ選舉ハ總會ニ於テ無記名連記投票ニ依リテ之ヲ行フ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トシ得票同數ナル者ノ間ニアリテハ年長者ヲ取リ年齡ニ依リテ決定シ難キ者ノ間ニアリテハ選舉委員會ニ於テ選舉長抽籤ニ依リテ當選者ヲ定ム

第二十六條 評議員ノ選舉ハ總會ノ議

長ヲ以テ選舉長トス

選舉長ハ總會ニ於テ選任セラレタル選舉委員二十人ト共ニ投票ヲ管理ス投票終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員會ヲ開キ開票審査及當選ノ決定ヲ爲ス

第二十七條 評議員ノ選舉ハ代人ヲ以テ投票スルコトヲ得ス

投票用紙ハ選舉ノ當日會場ニ於テ之ヲ交付ス

第二十八條 左ノ各號ニ該當スル投票ハ無効トス但第二號ノ場合ニ於テハ其ノ資格アル者ヲ有效トス

- 一 所定ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 三 被選舉人以外ノ事項ヲ記シタルモノ

第二十九條 本組合ニ特ニ功勞アリタル者ハ評議員會ノ決議ヲ經テ總會ニ於テ名譽評議員ニ推薦スルコトヲ得

名譽評議員ハ終身トシ其ノ職務權限ハ評議員ニ同シ

第三十條 評議員ノ任期ハ一箇年トス

第三十一條 評議員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第三十二條 評議員二十人以上缺員ヲ生シタルトキハ臨時總會ヲ開キ補缺選舉ヲ行フ

補缺評議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第三十三條 評議員ハ無報酬トス但功勞アリタル者若クハ繁劇ノ事務ヲ處理シタル者ニ對シテハ評議員會ノ決議ヲ經テ表彰若クハ謝禮ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 役員ノ職務權限左ノ如シ

- 一 組長ハ本組合ヲ代表シ組合全般ノ事務ヲ統轄ス
- 二 副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ之ヲ代理ス

三 會計主任ハ會計ニ關スル事務ヲ掌理ス

四 評議員ハ諸般ノ議案ヲ審議シ且規約第四條各號ノ事務ヲ分掌ス

第三十五條 評議員會ハ其ノ決議ニ依リ必要ノ規程又ハ細則ヲ定ムルコトヲ得但組合員共通ノ利害ニ重大ナル關係アルモノハ特ニ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第三十六條 組長ハ評議員會ノ決議ヲ經テ事務員ヲ任免ス

第四章 會 議

第三十七條 會議ヲ分テ左ノ三種トス

- 一 定時總會
- 二 臨時總會
- 三 評議員會

第三十八條 定時總會ハ毎年一月之ヲ開キ左ノ事項ヲ付議ス

- 一 前年度ノ庶務、收支決算及財産目錄ノ報告

二 歳入出ノ豫算案
 三 前各號ノ外豫メ組長ヨリ提案シタル事項
 第三十九條 臨時總會ハ評議員會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組員總數十分ノ一以上ノ同意ニ依リ其ノ目的事項ヲ明示シテ組長ニ請求アリタルトキ之ヲ開ク
 第四十條 總會ヲ招集スルトキハ開會七日前組長ヨリ會議ノ目的タル事項日時及場所ヲ組員ニ通知スヘシ但急速ヲ要スル場合ニ於テハ通知期間ヲ短縮スルコトヲ得
 總會ニ於テハ豫メ組長ヨリ通知シタル事項ノ外議スルコトヲ得ス
 第四十一條 評議員會ハ毎月一回之ヲ開クモノトシ組長之ヲ招集ス
 組長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時評議員會ヲ開クコトヲ得
 評議員會ハ評議員半數以上ノ出席ヲ以テ成立ス

第四十二條 會議ノ議長ハ組長之ニ當ル組長事故アルトキハ副組長之ヲ代理シ組長副組長事故アルトキハ評議員ノ互選ヲ以テ代理者ヲ定ム
 第四十三條 組員ハ總會ニ於テ發言及表決ノ權ヲ有ス但會議ノ事項ニ關シ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ會議ニ列スルコトヲ得ス
 第四十四條 會議ハ本規約ニ特別ノ規定アル場合ノ外出席員ノ過半數ヲ以テ其ノ可否ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス
 第四十五條 會議中議場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ議長之ヲ制止シ其ノ制止ニ従ハサル者ハ之ニ退場ヲ命スルコトヲ得
 第五章 會計
 第四十六條 組合ノ經費ハ月費、加入金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ
 第四十七條 緊急ノ場合ニ際シ臨時支

出ヲ要スルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ支辨スルコトヲ得
 第四十八條 組合ノ基金及收入金ハ評議員會ニ於テ定メタル銀行ニ寄託ス
 第四十九條 組合ノ會計年度ハ曆年ニ依ル
 第六章 營 造 物
 第五十條 組合ハ必要ナル造營物ヲ所有スルコトヲ得
 第五十一條 營造物ハ評議員會ニ於テ選定シタル管理者ヲ以テ之ヲ管理セシム
 第五十二條 營造物ハ事務ニ妨ケナキ限り之ヲ貸與スルコトヲ得
 第七章 制 裁
 第五十三條 組員ニシテ本規約及附屬規程ニ違背シタル者ハ評議員會ノ決議ニ依リ左ノ制裁ヲ加フ
 一 戒 告

二 違約料
 三 除 名
 第五十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ戒告若クハ金壹千圓以下ノ違約料ニ處ス
 一 第五條第二項、第九條、第十一條、第十二條、第十三條、第十四條、第十七條、第二十條ノ規定ニ違背シタル者
 二 販賣規程第二條乃至第六條ノ規定ニ違背シタル者
 三 取引規程第十一條ノ規定ニ違背シタル者
 四 虚偽ノ申告ヲ爲シ其ノ他組員ノ信用ヲ毀損シタル者
 第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ除名ニ處ス
 一 月費ノ滞納六ヶ月ニ亘ル者
 二 違約料ノ徴收ニ應セサル者
 三 三ヶ年以内ニ取引停止若クハ違約料ニ處セラルルコト通シテ五回

二及ヒタル者
 四 本組合ノ體面ヲ汚損シタル者
 第五十六條 除名ニ處セラレタル者改悛ノ實アリト認メタルトキハ更ニ加入ヲ許スコトアルヘシ
 第八章 規約及規程ノ變更
 第五十七條 本規約及特ニ總會ノ決議ヲ經タル規程ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
 第五十八條 本規約及特ニ總會ノ決議ヲ經タル規程ノ變更ヲ議スヘキ總會ニアリテハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス
 第九章 附 則
 第五十九條 本規約ハ昭和十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第一條 圖書ノ定價トシテ其ノ各册ニ

記載シタルモノノ外豫約價、會費、特價、賣價等總テ公示セラレタル價格ヲ以テ定價ト看做ス
 第二條 組員ハ圖書ノ定價ヲ割引シ又ハ送料負擔若クハ景品添附其ノ他割引ニ類スル行爲又ハ其ノ豫備行爲ヲ爲スコトヲ得ス但官公署(學校、會社ヲ除ク)ノ入札ニシテ金額金二千圓以上ノモノニ限り定價ニ依ラサルコトヲ得
 組員他ノ業務ヲ兼營シ其ノ慣例ニ依リ景品附賣出ヲ爲ス場合ニ於テハ圖書ニ限り景品ヲ添附セサル旨ヲ公示スヘシ
 第三條 出版業者ハ發行後六ヶ月ヲ經過シタル圖書ニ限り六十日ヲ超エサル期間ヲ以テ特價販賣ヲ行フコトヲ得
 前項ノ特價販賣ヲ行ヒタルトキハ其ノ期間滿了ノ後六ヶ月ヲ經ルニアラサレハ再ヒ之ヲ行フコトヲ得ス

本條ノ特價販賣ヲ行ハントスルトキハ其ノ發表十日以前ニ之本組合ニ届出テ且販賣業者ニ周知セシムルコトヲ要ス

特價販賣ノ發表ヲ新聞廣告又ハ印刷物ヲ以テ之ヲ公表スルコトヲ要ス

第四條 圖書ノ定價ハ其ノ發行後六ヶ月ヲ經ルニアラサレハ之ヲ引下クルコトヲ得ス

圖書ノ定價ヲ引下ケントスルトキハ其ノ發表三十日前ニ之本組合ニ届出テ且販賣業者ニ周知セシムルコトヲ要ス

第五條 豫約出版法ニ依リテ發行スル圖書ハ其ノ豫約出版完了ノ後ニアラサレハ從前ノ價格ヲ引下ケテ更ニ豫約募集ヲ行フコトヲ得ス

第六條 左記ノ圖書ハ定價ニ依ラス販賣スルコトヲ得

一 出版業者ニシテ發行後六ヶ月ヲ經過シ見切品トシタルモノ

二 販賣業者ニシテ甚ク汚損シ新本ト認メ難ク見切品トナシタルモノ

三 出版業者ニシテ最初ヨリ定價ニ依ラス販賣セントスル見切品ニ類スル特種出版物

四 古書籍ニシテ新刊ニ紛ラハシク定價販賣ニ依リ難キモノ

五 玩具ニ類スル印刷物

前項ノ圖書ハ本組合ニテ定メタル左ノ印章ヲ各冊奥付ニ押捺シテ書架別ニ陳列スルコト



第七條 國定教科書及青年教科書ノ類ハ規約第十三條、本規程第二條第一項中送料負擔及第四條ニ依ラサルコトヲ得

因リテ生シタル損害ヲ平等ニ分擔ス

第四條 委託取引ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 受託者ハ受託ノ時ヨリ六ヶ月以内ニ賣上ノ決済及殘品ノ返送ヲ完了スルコトヲ要ス此期限經過後ハ總テ殘品ヲ買切リタルモノト看做ス

二 委託者ノ必要ニ因リ殘品ノ返送ヲ申出テタルニ拘ラス受託者遲怠ナク之ヲ返送セサルトキハ總テ殘品ヲ買切リタルモノト看做ス

三 受託者カ商品ノ取扱ニツキ注意ヲ懈リタルニ因リ生シタル汚損毀滅ノ損害ハ當該受託者負擔トス

第五條 本組合員ニ對シ取引上ノ債務ノ支拂ヲ延滞シ又ハ註文品ノ引取ヲ爲サス其ノ他取引上ノ義務ヲ履行セサル者アルトキハ被害者ヨリ本組合ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第八條 中等教科書・青年教科書及軍隊用教科書ノ類ハ本規程第二條第一項中送料負擔及第四條ニ依ラサルコトヲ得

第九條 營利ヲ目的トセスシテ發行セラレタル圖書ハ規約第十二條ニ依ラサルコトヲ得

第十條 圖書ノ專賣者ハ出版業者ト同シク本規程ヲ遵守スヘキモノトス

附則

第十一條 本規程ハ昭和十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

取引規程

第一條 本規程ハ本組合員相互間及本組合員ト他ノ組合ノ組合員間ニ係ル取引ヲ規律スルモノトス

第二條 雜誌、教科書其ノ他特種ノ出版物ニシテ別ニ取引ノ準則アルモノ

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ手数料トシテ一件ニ付金五圓ヲ前納スルコトヲ要ス

第六條 前條ノ請求アリタルトキハ本組合ハ評議員ノ互選ニ依リ調査委員十人ヲ選任シテ其ノ事實ヲ調査セシメ不履行者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ義務ノ履行ヲ催告ス

第七條 前條ノ催告ヲ受ケタル者期間内ニ義務ノ履行ヲ爲ササルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ不履行者ヲ停止處分ニ付シ之ヲ本組合員及全國書籍業聯合會ニ通知ス

第八條 取引停止處分ノ前後中間ハ不履行者其ノ營業ヲ讓渡シ又ハ組織ヲ變更シタルトキハ取引停止處分ノ效力ハ其ノ營業承繼者ニ及フモノトス

第九條 不履行者取引停止處分ヲ受ケタル後其ノ義務ヲ履行シ又ハ決済ニ付協調ヲ遂ケタルトキハ原請求者ヨ

及特ニ取引ノ條件ヲ協定シタルモノノ外ハ第三條及第四條ノ規定ニ準據ス

第三條 註文ニ因ル取引ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 掛賣ニ在リテハ毎月二十日ヲ以テ品代金及註文者ノ負擔ニ屬スル諸費用ヲ締切り其ノ月末ニ全額ヲ支拂フモノトス

二 發送ノ荷造費運賃ハ註文者ノ負擔トス

三 代金引換又ハ荷爲替ニ因ル費用ハ註文者ノ負擔トス

四 註文者ハ濫ニ註文ノ取消又ハ註文品ノ返送ヲ爲スコトヲ得ス但現品ニ落丁繰違其ノ他ノ疵瑕アリタルトキハ之カ引換又ハ修補ヲ請求スルコトヲ得

五 註文品到着前ニ出荷主又ハ註文者ノ責ニ歸スヘカヲサル事由ニ因リ紛失又ハ毀損シタルトキハ之ニ

リ本組合ニ取引停止處分ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第十條 前條ノ請求アリタルトキハ本組合ハ第六條ト同一ノ手續ニ依リテ取引停止處分ノ解除ヲ爲シ之ヲ本組合員及全國書籍業聯合會ニ通知ス

第十一條 本組合員ハ取引停止處分ヲ受ケタル者前條ノ解除ヲ得ルニ至ルマテ之ト取引ヲ爲スコトヲ得ス

附 則

第十二條 本規程ハ昭和十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從業者表彰規程

第一條 本規程ニ從業者ト稱スルハ本組合員ノ履備セル書籍營業從業者ヲ云フ

第二條 本組合ハ從業者滿七年以上勤續シ品行方正ニシテ業務ニ勉勵シタル者ヲ表彰スルモノトス但新ニ本組合ニ加入シタル組合員ニシテ其ノ加入後滿三年ヲ經過セサルモノハ本規程ニ依ルコトヲ得ス

合ニ加入シタル組合員ニシテ其ノ加入後滿三年ヲ經過セサルモノハ本規程ニ依ルコトヲ得ス

第三條 前條ノ表彰ヲ爲ス場合ハ左ノ表彰狀ヲ授與ス

第四條 表彰狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ本組合員ニ報告スヘシ

第五條 本組合ハ精勤者名簿ヲ備ヘ之ヲ保存スヘシ

第六條 精勤資格ヲ有スル者アルトキハ本人ノ履歷書ヲ添ヘ其ノ營業主ヨリ本組合ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 從業者勤續中兵役ニ服シ除隊後直ニ復勤シタル者ハ其ノ年數ヲ中斷セラルルコトヲナシ

第八條 表彰ヲ受ケタル者ニシテ不都合ニ加入シタル組合員ニシテ其ノ加入後滿三年ヲ經過セサルモノハ本規程ニ依ルコトヲ得ス

合組印	年 月 日	印割 第 號	表 彰 狀	何 某 殿 誰 員 生 殿
品行方正ニシテ業務ニ勉勵シ滿七年以上勤續ニ付茲ニ精勤ノ功ヲ表彰ス				

合ノ行爲アリタルトキハ之ヲ精勤者名簿ヨリ削除シ本組合員ニ報告スヘシ

第九條 本規程ノ表彰式ハ毎年本組合定時總會ニ於テ舉行ス

第十條 第六條第一項ノ届出期間ハ毎年九月一日ヨリ同三十日迄トス

第十一條 本規程ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

東京書籍商組合評議員

- 組長 目黒 甚七
- 副 岸 他 丑
- 副 榑原 友 吉
- 名譽 大橋 新太郎
- 同 上原 才一郎
- 同 淺見 四郎
- 淺井 光之助
- 淺利 元治
- 池田 定
- 飯島 竹次郎
- 伊藤 貫一
- 市川 松之輔
- 大橋 達雄
- 大葉 久治
- 龜井 豐治
- 稻垣 近義
- 大橋 信一
- 小澤 作次郎
- 大川 義雄
- 風間 是宏

全國書籍業聯合會

- 川合 初太郎
- 北原 義太郎
- 國領 茂藏
- 酒井 宇吉
- 鈴木 錫一
- 高岡 安太郎
- 田野 倉治三郎
- 土屋 右近
- 門坂 吟一郎
- 栗田 確也
- 坂本 守正
- 島村 水之助
- 須田 忠暉
- 竹内 淳郎
- 高橋 誠一
- 中川 治三郎

- 西村 辰五郎
- 林 五郎
- 福田 金次郎
- 福田 滋次郎
- 松原 環
- 丸山 常藏
- 山本 芳之助
- 吉谷 專吉
- 林 武次
- 波多野 一
- 藤井 誠治郎
- 本間 龍藏
- 松崎 善太郎
- 三樹 良知
- 山岸 武治

全國書籍業聯合會

所在地 神田區駿河臺一ノ二

電話 神田八五四番 振替東京五二二六二番

全國書籍業聯合會規約

第一章 總 則

第一條 本會ハ全國書籍業聯合會ト稱ス

第二條 本會ハ第五條ニ定メタル全國ノ各書籍業團體ヲ以テ組織ス

第三條 本會ハ事務所ヲ東京市神田區駿河臺一丁目二番地ニ置ク

第二章 目 的

第四條 本會ハ各團體相互ノ聯絡統制ヲ圖リ圖書ノ出版販賣ニ關スル營業上ノ協調ニ努メ斯業ノ改善發達ヲ期ス

第三章 會 員

第五條 本會ノ會員ハ左ノ如シ

東京出版協會

大阪圖書出版業組合
京都出版業組合
中等教科書協會
東部書籍卸業協會
東京書籍卸業組合
元取次協會
西部書籍卸業協會
(以上卸業)
東京書籍商組合
八王子書籍雜誌商組合
三多摩書籍雜誌商組合
京都書籍雜誌商組合
大阪書籍雜誌商組合
神奈川縣書籍雜誌商組合
兵庫縣書籍雜誌商組合
長崎縣書籍雜誌商組合
新潟縣書籍雜誌商組合
埼玉縣書籍雜誌商組合
群馬縣書籍雜誌商組合
千葉縣書籍雜誌商組合
茨城縣書籍雜誌商組合

栃木縣書籍雜誌商組合
奈良縣書籍雜誌商協會
三重縣書籍商組合
愛知縣書籍雜誌商組合
名古屋書籍雜誌商組合
靜岡縣書籍雜誌商組合
山梨縣書籍雜誌商組合
滋賀縣書籍商組合
岐阜縣書籍商組合
信濃縣書籍雜誌商組合
宮城縣書籍雜誌商組合
福島縣書籍雜誌商組合
岩手縣書籍雜誌商組合
青森縣書籍雜誌商組合
山形縣書籍雜誌商組合
秋田縣書籍雜誌商組合
福井縣書籍雜誌商組合
石川縣書籍雜誌商組合
富山縣書籍雜誌商組合
鳥取縣書籍雜誌商組合
島根縣書籍雜誌商組合

岡山縣書籍雜誌商組合
廣島縣書籍商組合
山口縣書籍雜誌商組合
和歌山縣書籍雜誌商組合
德島縣書籍雜誌商組合
香川縣書籍雜誌商組合
愛媛縣書籍商組合
高知縣書籍雜誌商組合
福岡縣書籍雜誌商組合
大分縣書籍雜誌商組合
佐賀縣書籍雜誌商組合
熊本縣書籍雜誌商組合
宮崎縣書籍雜誌商組合
鹿兒島縣書籍雜誌商組合
沖繩縣書籍雜誌商組合
北海道書籍雜誌商組合
樺太書籍雜誌商組合
臺灣書籍雜誌商組合
朝鮮書籍商組合
滿洲書籍雜誌商組合
(以上販賣)

第六條 本規約ニ於テハ會員タル各團體ヲ以下總テ組合ト稱ス

第四章 代表議員

第七條 本會ノ會務遂行ノ爲各組合ハ左記員數ノ代表議員ヲ選出ス
東京出版協會 十人
大阪圖書出版業組合 四人
京都出版業組合 二人
中等教科書協會 四人
東部書籍卸業協會 一人
東京書籍卸業組合 一人
元取次協會 一人
西部書籍卸業協會 二人
東京書籍商組合 十人
京都書籍雜誌商組合 二人
大阪書籍雜誌商組合 三人
神奈川縣書籍雜誌商組合 二人
兵庫縣書籍雜誌商組合 二人
福岡縣書籍雜誌商組合 二人
北海道書籍雜誌商組合 二人

八王子書籍雜誌商組合
三多摩書籍雜誌商組合
長崎縣書籍雜誌商組合
新潟縣書籍雜誌商組合
埼玉縣書籍雜誌商組合
群馬縣書籍雜誌商組合
千葉縣書籍雜誌商組合
茨城縣書籍雜誌商組合
栃木縣書籍雜誌商組合
奈良縣書籍雜誌商協會
三重縣書籍商組合
愛知縣書籍雜誌商組合
名古屋書籍雜誌商組合
靜岡縣書籍雜誌商組合
山梨縣書籍雜誌商組合
滋賀縣書籍商組合
岐阜縣書籍商組合
信濃縣書籍雜誌商組合
宮城縣書籍雜誌商組合
福島縣書籍雜誌商組合
岩手縣書籍雜誌商組合
青森縣書籍雜誌商組合

山形縣書籍雜誌商組合
秋田縣書籍雜誌商組合
福井縣書籍雜誌商組合
石川縣書籍雜誌商組合
富山縣書籍雜誌商組合
鳥取縣書籍雜誌商組合
島根縣書籍雜誌商組合
岡山縣書籍雜誌商組合
廣島縣書籍商組合
山口縣書籍雜誌商組合
和歌山縣書籍雜誌商組合
德島縣書籍雜誌商組合
香川縣書籍雜誌商組合
愛媛縣書籍商組合
高知縣書籍雜誌商組合
大分縣書籍雜誌商組合
佐賀縣書籍雜誌商組合
熊本縣書籍雜誌商組合
宮崎縣書籍雜誌商組合
鹿兒島縣書籍雜誌商組合
沖繩縣書籍雜誌商組合

樺太書籍雜誌商組合
臺灣書籍雜誌商組合
朝鮮書籍商組合
滿洲書籍雜誌商組合

(以上四十六組合)各一人

第五章 會員ノ責務

第八條 各組合ハ其ノ規約及ヒ附屬規程ヲ本會ニ提出シテ承認ヲ經ヘシ之ヲ變更シタル場合亦同シ

第九條 各組合ハ相互ニ組合同規約ヲ尊重シ其ノ本務ヲ全ウスルコトヲ要ス
第十條 各組合ハ圖書ノ定價販賣ヲ嚴行ス

第十一條 各組合ハ其ノ所屬組合員ヲシテ本會加盟ノ組合ニ加入セサル者ト商取引ヲ爲サシメサルコトヲ要ス
第十二條 各組合ハ其ノ組合員ニ異動アリタルトキハ直チニ本會ニ報告スルコトヲ要ス
本會ハ之ヲ會報ニ掲載シテ各組合ニ

通知ス

第十三條 各組合ハ其ノ組合ニ加入又ハ移轉ノ申込ヲ爲シタル者ニ對シ故ナクシテ之ヲ拒ミ又ハ其ノ許否ヲ逕延スルコトヲ得ス
本會ニ於テ必要ト認ムル場合ハ其ノ理由書ヲ提出セシメ適當ナル處理ヲ催告スルコトヲ得

第十四條 各組合ニ於テ組合員ヲ違約處分ニ付シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本會ニ報告スヘシ
取引停止又ハ除名處分ニ限リ本會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第十五條 本會ハ第十四條ノ取引停止又ハ除名處分ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ常任幹事會ニ付シ調査ノ上承認シタル場合ハ之ヲ各組合ニ通知ス

第十六條 各組合ハ第十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ其ノ組合員ニ傳達シ解除ノ通知アルマテ該違背者ト取引ヲ爲サシメサルコトヲ要ス

第十七條 各組合ハ本會ヨリ通達ヲ受ケタル事項ヲ其ノ組合員ニ漏レナク告知スルコトヲ要ス

第十八條 各組合ハ新加入者ニ對シ徵收スル加入金ハ壹百圓ヲ超ユルコトヲ得ス
第十九條 各組合ハ其ノ組合員ニ對シ徵收スル組合費ハ一店ニ付月額壹圓ヲ超ユルコトヲ得ス

出版業組合卸業組合ニシテ本會ノ承認ヲ經タルモノハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二十條 各組合ハ組合間又ハ組合ト組合員トノ間ニ起リタル營業上ノ紛議ニ關シ本會ニ於テ調停ヲ爲ス場合ハ之ヲ忌避スルコトヲ得ス

第六章 役員

第二十一條 本會ニ幹事三十五人ヲ置ク
幹事ハ各組合ニ於テ其ノ代表議員ノ

互選ヲ以テ左記割當員數ニ依リ選出シ之ヲ本會ニ通告ス

- 東京出版協會 七人
 - 大阪圖書出版業組合 二人
 - 京都出版業組合 一人
 - 中等教科書協會 二人
 - 各卸業組合 四人
 - 東京書籍商組合 六人
 - 大阪書籍雜誌商組合 二人
 - 各府縣組合 十一人
- 第二十二條 本會ニ會長一人副會長二人ヲ置ク
會長副會長ハ幹事會ニ於テ之ヲ互選ス
第二十三條 本會ニ常任幹事十四人ヲ置ク
常任幹事ハ幹事會ニ於テ左記割當員數ニ依リ之ヲ互選ス
- 東京出版協會 四人
 - 大阪圖書出版業組合 一人
 - 京都出版業組合 一人

中等教科書協會 一人

各卸業組合 一人
東京書籍商組合 四人
大阪書籍雜誌商組合 一人

各府縣組合 一人
第二十四條 役員ノ任期ハ二ケ年トス
第二十五條 會長副會長常任幹事ニ缺員ヲ生シタルトキハ幹事會ニ於テ互選シ之ヲ補缺ス

補缺役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス
第二十六條 役員ノ職務權限左ノ如シ
會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ處理ス
副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ會長ノ職務ヲ行フ
常任幹事ハ諸般ノ事項ヲ審議シ日常ノ會務ヲ處理ス
幹事ハ重要ノ事項ヲ審議ス

第二十七條 會議ハ總會長ヲ以テ議長トス會長事故アルトキハ副會長之ニ當リ副會長事故アルトキハ常任幹

事之ニ當ル
第二十八條 會長ハ幹事會ノ決議ヲ經テ會務執行ニ必要ナル附屬規程ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 會長ハ常任幹事會ノ協議ヲ經テ事務員ヲ任免ス
第三十條 役員ハ總テ無報酬トス

第七章 會議

第三十一條 會議ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一、總會
 - 二、幹事會
 - 三、常任幹事會
- 第三十二條 定時總會ハ毎年十月東京ニ於テ之ヲ開キ左ノ事項ヲ付議ス
- 一、庶務及收支決算並ニ財産目錄ノ報告
 - 二、次年度豫算案
 - 三、各組合ヨリ提出ノ議案
 - 四、前各號ノ外豫メ會長ヨリ提案

シタル事項

第三十三條 總會ハ各組合ノ代表議員ヲ以テ組織ス

第三十四條 幹事會ハ毎年一回以上之ヲ開ク

常任幹事會ハ會長副會長常任幹事ヲ以テ組織シ毎月一回以上之ヲ開ク

第三十五條 總會其ノ他各會議ノ表決權ハ出席者一人一箇トス

第三十六條 會長ハ必要ト認メタルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第三十七條 總會ハ開會十四日以前ニ會長ヨリ通知ス緊急ノ場合ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第三十八條 第三十二條第三號ノ議案ハ總會開會十日前迄ニ會長ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ議案ハ幹事會ニ於テ之ヲ審議シ總會ニ提出ス

第三十九條 會議ハ出席者ノ多數ヲ以テ決ス可決セサルトキハ議長ノ裁

量ニ依ル

第四十條 議長ハ總會ニ於テ當該問題ニ付特別ノ關係ヲ有スル組合ノ出席議員ニ對シ之カ議事終了マテ退場ヲ求ムルコトアルヘシ

第八章 會計

第四十一條 本會ノ會計年度ハ十月一日ヨリ翌年九月末日迄トス

第四十二條 本會ノ經費ハ各組合ニ於テ其ノ代表議員一人ニ付年額五拾圓ヲ負擔ス

第四十三條 豫算外ノ支出ニシテ緊急ヲ要スル場合ハ常任幹事會ノ決議ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第四十四條 會計ハ常任幹事會中ヨリ會計主任二人ヲ互選シテ之ニ當ツ

第九章 制裁

第四十五條 各組合ニシテ本規約ニ違背シ又ハ總會ニ於テ決議シタル事項

ニ服從セサルトキハ總會ノ決議ヲ以テ左ノ制裁ヲ爲ス

一、戒告

二、千圓以内ノ違約金ノ徴收

第四十六條 各組合ニシテ前條ノ制裁ニ應セサルトキハ幹事會ノ決議ヲ以テ之ヲ除名ス

第十章 附則

第四十七條 本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十八條 本規約ハ昭和十二年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

全國書籍業聯合會常任幹事

一、會長

目黒 甚七

一、副會長

江草 重忠
柏 佐一郎

一、常任幹事

東京出版協會 西村辰五郎
同 矢島一三
同 坂本守正
同 鈴木種次郎
大阪圖書出版業組合 博多久吉
京都出版業組合 木村亥吉
中等教科書協會 森下松衛

元取次協會 大野孫平
東京書籍商組合 龜井豐治
同 岸他丑
同 淺井光之助
同 土屋右近
大阪書籍雜誌商組合 石田松太郎
福岡縣書籍雜誌商組合 菊竹大藏

東京出版協會

所在地 神田區小川町三ノ八

電話 神田九三〇番
振替東京五五三一〇番

東京出版協會規約

第一章 總則

第一條 本會ハ東京出版協會ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第二條 本會ハ東京市及附近ニ營業所

東京出版協會

ヲ有スル圖書出版業者ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 本會ハ會員相互ノ和親ヲ敦クシ共同ノ利益ヲ増進シ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

本會ノ目的ヲ達スル爲メ諸般ノ事項

ヲ調査シ必要ト認ムル事業ヲ經營ス

第四條 本會ハ他ノ各團體トノ聯絡協調ヲ保チ取引ノ統制ヲ行フ爲メ日本出版協會及全國書籍業聯合會ニ加盟ス

第五條 本會ハ協議員會ノ決議ニ依リテ別ニ必要ナル各種ノ規程ヲ制定スルコトヲ得 但シ其ノ規程ニシテ會員共通ノ利害ニ重大ナル影響アルヘキモノハ特ニ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第二章 會員

第六條 本會ニ加入セントスル者ハ本會所定ノ申込用紙ニ本人ノ氏名商號營業所ノ所在地及開業ノ時期其ノ他必要ノ事項ヲ記載シ紹介者タル會員ノ連署ヲ得テ之ヲ本會ニ提出スヘシ

第七條 加入ノ申込アリタルトキハ協議員會ノ決議ニ依リテ其ノ許否ヲ決ス

會ノ二種トス

第三十二條 定時總會ハ毎年一月中旬ニ之ヲ開ク

定時總會ニ於テハ前年度ノ庶務及會計ノ報告ヲ爲シ且ツ當年度ノ收支豫算ヲ付議スルコトヲ要ス

第三十三條 臨時總會ハ協議員會ニ於テ必要ト認メタルトキハ何時ニテモ之ヲ開クコトヲ得

會員三十人以上ノ同意ニ因リ付議事項ヲ明示シテ臨時總會ヲ召集スヘキコトヲ請求シタルトキハ遲滯ナク之ヲ開クコトヲ要ス

第三十四條 總會ニ於テハ前條第二項ノ場合及本規約ニ依リ總會ニ付議スルコトヲ要スルモノト定メタル場合ノ外協議員會ノ決議ニ依リテ總會ニ付議スヘキ事項ヲ議スルコトヲ得

第三十五條 總會ヲ開クトキハ開會七日前ニ會員ニ對シ付議事項、日時及場所ヲ記載シタル召集通知書ヲ發ス

必要アルトキハ協議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第四十五條 會計年度ハ曆年ニ依ル

第四十六條 會計ノ事務ハ會計主任ノ管理ニ屬ス

會計主任ハ二人トシ協議員ノ互選ニ依リテ之ヲ定ム

第四十七條 事務ノ便宜ニ因リ通常會計ノ外ニ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第四十八條 本會ノ基本金及收入金ヲ寄託スヘキ銀行ハ協議員會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ム

第四十九條 本會ノ有スル主要財産ノ管理ニ付別ニ協議員ノ互選ニ依リテ管理委員ヲ置クコトヲ得

管理委員ノ員數及權限ハ協議員會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ム

第六章 制 裁

第五十條 會員ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス

ルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ急速ヲ要スル事情ノ存スル場合ニ限り之ヲ二十四時間迄ニ短縮スルコトヲ得

第三十六條 總會ニ於テハ豫メ通知シタル事項ノ外之ヲ議スルコトヲ得ス

第三十七條 總會ノ召集通知書ニ添附セラレタル會員名刺ヲ提出シタル者ニ非サレハ總會ニ於テ發言及表決ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 協議員會ハ毎月一回之ヲ開ク
會長ニ於テ必要ト認メタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス臨時ニ協議員會ヲ開クコトヲ得

第三十九條 協議員會ニ於テハ本規約又ハ本規約ニ基キテ制定セラレタル各種ノ規程ニ依リ協議員會ノ決議ヲ要スヘキ事項及臨時協議員ノ提案シタル事項ヲ審議決定ス
日本出版協會ノ理事及全國書籍業聯

一 會費ノ納付ヲ怠ルコト六ヶ月以上ニ及ヒタル者

二 過料ノ制裁ヲ科セラレテ之カ徵收ニ應セサル者

第五十一條 會員ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ハ情狀ニ因リ之ヲ除名シ若クハ之ニ千圓以下ノ過料ヲ科ス

一 故意ニ本會ノ信用ヲ毀損シタル者

二 著シク本會ノ體面ヲ汚損シタル者

三 不正競争ノ目的ヲ以テ他ノ會員ノ信用ヲ毀損シタル者

四 他ノ會員カ圖書ノ出版ニ關シテ專有スル發行販賣ノ利益ヲ侵害シタル者

第五十二條 本規約ニ基キテ制定セラレタル各種ノ規程ニ於テ別ニ制裁ノ規定ヲ設クルコトヲ妨ケス 但シ制裁ノ種類及限度ハ前二條ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

合會ノ代表議員ノ詮衡推選ハ協議員會ニ於テ之ヲ行フ

第四十條 會議ヲ開クトキハ總會長之ヲ召集ス

第四十一條 會長ハ會議ノ議長ト爲リ議場ヲ整理ス

會長事故アルトキハ副會長之ニ代リ副會長事故アルトキハ協議員ノ互選ニ依リテ議長ヲ定ム

第四十二條 會議ニ於ケル付議事項ハ本規約ニ特別ノ規定ヲ存スルモノノ外出席者ノ過半數ヲ以テ可否ヲ決ス付議事項ニ關シテ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五章 會計及財産ノ管理

第四十三條 本會ノ經費ハ會費及加入金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第四十四條 緊急ノ須用ニ因リ豫算外ノ支出ヲ爲シ又ハ一時借入ヲ爲スル

第五十三條 本章ノ規定ニ依リ會員ニ對シ制裁ヲ科スル場合ニハ協議員會ニ於テ事實ヲ審査シ其ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ヲ爲スヘキ協議員會ニハ協議員十五人以上出席シテ其ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第七章 規約ノ變更

第五十四條 本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第五十五條 本規約ヲ變更スヘキ總會ノ議事ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可否ヲ決ス

附 則

第五十六條 本規約ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條 本規約施行ノ際現ニ協議員タル者ノ任期ハ仍ホ舊規約ニ依ル

第五十八條 本規約施行前ニ制定セラレタル各種ノ規定ハ本規約ニ基キテ制定セラレタルモノト看做ス

地方取引規定

第一條 本規定ハ東京出版協會會員ノ發行發賣スル出版物ニ付キ會員ト東京以外ノ地方販賣業者トノ間ニ行ハル卸賣取引ヲ規律スルモノトス
第二條 雜誌、中等教科書其他特種ノ出版物ニ付キ他ノ本會若クハ組合ニ於テ特別ナル取引規定ヲ存スルモノハ先ツ其規程ニ準據ス
第三條 繼續シタル委託取引、返品條件附ノ賣切取引其他特異ノ取引ヲ行フ者ハ豫メ取引條件ヲ協定シテ權利關係ヲ紛雜セシメサルコトニ注意スルヲ要ス
第四條 註文ニ因ル取引ニ付キ豫メ特別ノ取引條件ヲ協定セサルモノハ總

テ左ノ各項ニ準據スヘキモノトス
一 毎月二十日現在ヲ以テ送品代金及注文者ノ負擔ニ屬スル諸費用ヲ締切り計算シテ其月末ニ注文者ヨリ全額ノ送金ヲ受クルモノトス
二 發送ノ荷造費及運賃ハ注文者ノ負擔トス
三 出荷主ノ意思ニ基キ小包郵便、客車便其他普通便ヨリ多額ナル運賃ヲ要スル輸送方法ニ依リタルモノニ在リテハ出荷主ニ於テ其運賃ノ半額ヲ負擔ス
第五條 平常連續シテ月末清算取引ヲ爲スノ協定ナキ地方販賣業者ヨリノ注文ハ總テ前金若クハ代金引換ノ方法ニ據ル此場合ニ於ケル荷造費、運賃及代金引換ノ手数料ハ注文者ノ負擔トス
第六條 註文ニ因リ送付シタルモノハ返品スルコトヲ得ス 但現品ニ落丁、毀壞其他ノ瑕疵アリタルニ因リ

引替ヲ請求スルモノハ此限ニ在ラス
第七條 明白ナル過誤ニ因リ注文違ヲ生シタル場合ニハ注文者遲滞ナク其事由ヲ説明シテ注文替又ハ注文取消ヲ爲スコトヲ得 但之カ爲メニ生シタル損害ハ注文者ノ負擔トス
第八條 註文ニ因リ發送シタルモノカ到着前ニ出荷又ハ注文者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ紛失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ之ニ因リ生シタル損害ヲ出荷主及注文者平等ニ分擔スヘキモノトス
第九條 新刊委託取引ニ付キ豫メ特別ノ取引條件ヲ協定セサルモノハ總テ左ノ各項ニ準據スヘキモノトス
一 受託者ハ一ヶ月以上新刊見本ヲ陳列スルノ義務ヲ負フ
二 發送ノ月ヨリ三ヶ月以内ニ於テ返品スルコトヲ得ス
三 發送ノ月ヨリ六ヶ月ヲ經過シタ

毎ニ協議員ノ互選ヲ以テ定ム
第十四條 審査委員ニ於テ審査ヲ遂ケタル結果ハ之ヲ協議員會ニ報告シ第十一條所定ノ行爲アリタルコトノ明瞭ナル場合ニ於テハ其事實ヲ會報ニ掲載シテ會員ニ通報ス

附 則

第十五條 本規定ハ昭和二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

東京出版協會協議員

- 會長 江草 重忠
副會長 大橋 進一

- 副會長 杉山 常次郎
矢島 一三 目黒 四郎
岡本 正一 明治 書院
富 山 房 大葉 久治
長坂 金雄 神戸 文三郎
山崎 清一 三省 堂
丸善株式會社 小川 菊松
橋本 福松 松邑 孫吉
福岡 益雄 楠間 龜楠
興 文 社 學 習 社
南條 初五郎 鈴木 種次郎
小林 又七 中土 義敬

ルトキハ返品スルコトヲ得ス此期限經過後ハ總テ殘品ヲ買切リタルモノト看做ス
四 委託者ノ必要ニ因リ殘品ノ返送ヲ申出テタル際受託者遲滞ナク之ヲ返送セサルトキハ總テ殘品ヲ買切リタルモノト看做ス
第十條 受託者カ商品ノ取扱ニ付キ善良ナル注意ヲ懈リタルニ因リ生シタル汚損毀滅ノ損害ハ當該受託者ノ負擔トス
第十一條 地方販賣業者ニシテ會員ニ對シ取引上ノ義務ヲ履行セス又ハ取引上ノ信義ニ背戻スルノ行爲アリタルトキハ被害者タル會員ヨリ其事實ヲ本協會ニ申告シテ之カ審査ヲ求ムルコトヲ得
第十二條 前條ノ審査ヲ求メラレタルトキハ特ニ審査委員ヲ設ケテ事實ヲ審査セシム
第十三條 審査委員ハ七八トシ各事件

中等教科書協會

所在地 神田區小川町三ノ八
電話神田九三〇番

中等教科書協會規約

第一章 總 則

第一條 本會ハ中等教科書出版業者ヲ以テ組織ス

第二條 本會ハ中等教科書協會ト稱シ本部ヲ東京市ニ支部ヲ大阪市ニ置ク
第三條 本會ハ中等教科書ノ改善及ヒ之カ供給普及ノ方法ヲ講シ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章 會 員

第四條 本會ニ入會セントスル者ハ其營業所、商號、氏名ヲ記シ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込ムヘシ
入會ノ申込ニ對シテハ幹事會之カ諾否ヲ決ス
入會者ハ入會ト同時ニ入會金トシテ金參拾圓ヲ納付スヘシ

第五條 會員ハ本會ノ經費ヲ負擔ス
第六條 退會セントスル者ハ書面ヲ以テ其旨本會ニ申出ツヘシ
退會ノ諾否ハ幹事會之ヲ決ス
第七條 退會者、失格者、除名者ニ對シテハ入會金及ヒ會費ノ返還又ハ財產ノ分配ヲナサス

第三章 役 員

第八條 會員ニシテ特ニ本會ノ爲ニ功勞アリタル者ニハ總會ノ決議ヲ經テ報酬ヲナスコトアルヘシ

第九條 本會ハ會員中ヨリ幹事十六名ヲ選出ス内十二名ハ本部ニ於テ四名ハ支部ニ於テ選舉ス
但シ支部選出ノ幹事ハ三名ヲ大阪會員中ヨリ一名ヲ京都會員中ヨリ選フモノトス

幹事ノ選舉ハ本部ニ在リテハ毎年一月ノ定時總會ニ於テ支部ニ在リテハソレヨリ五日前ニ支部會ヲ開キテ無記名連記投票ヲ以テ之ヲ行フ
但シ再選ヲ許サス

二、經費ノ賦課、其徵收及ヒ收支豫算

算

三、幹事ノ選舉
四、前各項ノ外豫メ會長ヨリ提出シタル議案

第十七條 常集會ハ毎月一回之ヲ開キ會務ヲ議ス

第十八條 臨時總會ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開キ會長提出ノ議案ヲ審議ス

第十九條 幹事會ハ毎月一回之ヲ開キ會務ヲ處理ス
但シ會長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得

第二十條 支部會ハ毎月一回之ヲ開キ會務ヲ議ス
但シ支部長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得

第二十一條 會議ハ本規約ニ特別ノ規定アルモノノ外ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長

幹事ノ任期ハ定時總會終了後次ノ定時總會迄トス

第十條 幹事ニ半數以上ノ缺員ヲ生シタルトキハ臨時總會ヲ開キ補缺選舉ヲ行フ
但シ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキハ半數以内ノ缺員ノ場合ト雖モ補缺選舉ヲ行フコトヲ得

第十一條 幹事ハ會長一名副會長一名ヲ互選ス
別ニ支部選出ノ幹事ハ支部長一名ヲ互選ス

第十二條 役員ノ權限左ノ如シ
會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統理シ會議ヲ召集シ其議長トナル
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ニ代ル

幹事ハ各般ノ會務ヲ處理シ會長副會長事故アルトキハ之ニ代ル

之ヲ決ス

第五章 會 計

第二十二條 本會ノ經費ハ會費、入會金其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第二十三條 本會ノ會計年度ハ曆年ニ據ル

第二十四條 本會ハ篤志ノ寄附金又ハ經費剩餘ノ一部ヲ積立テ基本金トナス
基本金ハ永遠ニ保存スルモノトシ其利子ハ經常收入トス

但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ基本金ノ支出ヲ要スルトキハ會員ノ過半數出席シタル定時總會又ハ臨時總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第六章 制 裁

第二十五條 會員ハ他ノ會員ノ契約セラル圖書ノ發行若シクハ專賣ノ依託ヲ受クルコトヲ得ス

支部長ハ會長指揮ノ下ニ支部ノ會務ヲ管理シ支部會ヲ召集シ其議長トナル支部長事故アルトキハ支部選出ノ幹事ニ代ル
第十三條 會長ハ事務員ヲ任免ス
第十四條 役員ハ無給トス
但シ役員ニシテ繁劇ノ事務ニ當リ又ハ特ニ功勞アリタル者ニハ總會ノ決議ヲ經テ報酬ヲナスコトアルヘシ

第四章 會 議

第十五條 會議ヲ分チテ左ノ五種トス

- 一、定時總會
- 二、常集會
- 三、臨時總會
- 四、幹事會
- 五、支部會

第十六條 定時總會ハ毎年一月之ヲ開キ左ノ事項ヲ議決ス

- 一、前年度ノ庶務及ビ財産目錄、收支決算ノ報告

第二十六條 中等教科書出版業者ニシテ故意ニ本會ニ入會セス本會ノ目的ヲ阻碍シ會員共同ノ利益ニ反スル行爲アリタル時ハ本會ヨリ中等教科書販賣業者ニ向ツテ該出版業者ノ發行セル中等教科書ノ販賣ヲ拒絶スルコトヲ申込ムモノトス

中等教科書販賣業者ニシテ前項ノ申込ニ應セサルトキハ別ニ定メタル取引規定ニヨリ之ヲ處分ス

第二十七條 會員ニ對シ中等教科書代金ノ支拂ヲ延滞シタル者アルトキハ會員ハ本會ニ向ツテ其處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ本會ハ之ヲ勸告ス延滞者勸告ニ應セサル場合ハ會員ナルトキニ第二十八條ニヨリテ處分シ會員外ナルトキハ其者ト會員全體トノ取引ヲ停止ス

繼續スル會員ニ對シテモ第二十八條ヲ準用ス

第二十八條 會員中左ノ行爲アリタルトキハ常集會又ハ總會ノ決議ヲ以テ金五百圓以内ノ違約金ヲ課シ又ハ除名スルコトアルヘシ

一、本會ノ體面ヲ汚損シタル者
二、會費又ハ賦課金納入ノ義務ヲ三箇月以上怠リタル者
三、本規約及ヒ取引規定又ハ本會ノ決議ニ違背シタル者

第七章 規約變更

第二十九條 本規約ハ會員ノ過半数出席シタル定時總會又ハ臨時總會ニ於テ決議スルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第三十條 本規約ハ昭和九年一月二十日ヨリ施行ス

第三十一條 本規約施行以前ニ會員タル者ハ第一條ノ資格ナキ者ト雖モ引續キ會員タルコトヲ得 以上

中等教科書協會幹事

- | | |
|---------|-------|
| 會長 | 松本 繁吉 |
| 副會長 | 永井 茂彌 |
| 目黒書店 | 明治書院 |
| 六 盟 館 | 文 學 社 |
| 文 光 社 | 至 文 堂 |
| 東 洋 圖 書 | 興 文 社 |
| 富 山 房 | 山 海 堂 |
| 大阪實文館 | 大阪修文館 |
| 大阪三宅書店 | 京都金港堂 |

東京市中等教科書販賣協會

所在地 日本橋區吳服橋二丁目五番地

電話日本橋(24)七七六番

東京市中等教科書販賣協會規約

第一章 總 則

第一條 本會ハ東京書籍商組合員ニシテ中等教科書ヲ販賣スル者ヲ以テ組織ス

第二條 本會ハ東京市中等教科書販賣協會ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第二章 目 的

第三條 本會ハ中等教科書ノ販賣ニ關シ會員各自ノ受持學校ニ對スル供給ノ完全ヲ期シ併テ斯業ノ圓滿ナル發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條 本會ハ第三條ノ目的ヲ達成スル爲メニ中等教科書協會ト連絡ヲ取ルモノトス

第三章 會 員

第五條 本會會員ヲ左記ノ二種ニ分ツ

一 甲會員
二 乙會員

甲會員ハ中等教科書ノ仲間卸ヲナス者トス
乙會員ハ受持學校ヘ中等教科書ノ直賣ヲナス者トス

第六條 本會ニ入會セントスル者ハ甲、乙、何レカノ會員タルノ資格ヲ有スル者ニ限リ其營業所、商號、氏

名ヲ記シ本會會員中二名ノ紹介者連記ノ上入會金ヲ添ヘテ申込ムモノトス 但シ乙會員ハ其受持學校名ヲモ添記スルヲ要ス

此ノ場合は力諾否ハ幹事會ニ於テ決ス

第七條 會員ニシテ名義變更又ハ營業讓渡ヲナサントスル者ハ速ニ本會ニ届出テテ其承認ヲ經ヘシ 但シ他人ヨリ營業ノ讓渡ヲ受ケタル者ハ新規加入ノ手續ヲナスコトヲ要ス

此ノ場合讓受人ハ前會員ノ會員間ニ於ケル取引上ノ一切ノ義務ヲ繼承スルモノトス

第八條 會員ニシテ任意退會ヲナス場合ト云ヘトモ入會金及會費ノ返還並ニ財産ノ分配ヲナササルモノトス

第四章 役 員

第九條 本會ハ左記ノ幹事ヲ置ク
甲會員中ヨリ十名

乙會員中ヨリ十名

幹事ハ五選ヲ以テ會長一名 副會長一名 會計主任二名ヲ定ム
幹事ハ幹事會ノ決議ニ依リ中等教科書協會ノ正副會長ヲ顧問ニ推薦スル事ヲ得

第十條 幹事ノ選舉ハ總會ニ於テ甲會員ハ甲會員中ヨリ乙會員ハ乙會員中ヨリ無記名連記投票ヲ以テ之ヲ行フ
幹事ノ任期ハ二ケ年トス但シ再選ヲ妨ケス

幹事中心五名以上ノ缺員ヲ生シタル時ハ補缺選舉ヲ行フ
補缺幹事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十一條 役員ノ權限左ノ如シ

- 一 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統轄シ會議ヲ召集シ會議ノ議長トナル
- 二 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 三 會計主任ハ會計ニ關スル事務ヲ

掌理ス

四 幹事ハ諸般ノ議案ヲ處理シ正副會長事故アル時ハ之ヲ代理ス

第十二條 幹事ハ無報酬トス但シ功勞アリタル者若シクハ繁劇ノ事務ヲ處理シタル者ニ對シテハ幹事會ノ決議ヲ經テ表彰若シクハ謝禮ヲ爲スコトヲ得

第五章 會 議

第十三條 會議ヲ分チテ左記ノ三種トス

- 一 定時總會
- 二 臨時總會
- 三 幹事會

定時總會ハ毎年二月中之ヲ開ク
臨時總會ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開ク

第十四條 本規約ニ規定アルモノ、外ハ幹事會ニ於テ會議シテ之ヲ處理ス

第六章 會 計

第十五條 本會ノ經費ハ入會金及會費其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十六條 入會金及會費ヲ左記ノ通り定ム

甲會員 入會金五拾圓 會費年額拾圓
乙會員 入會金拾圓 會費年額參圓

第七章 制 裁

第十七條 會員ハ本會ノ目的ヲ達スル爲メ常ニ和衷協同ノ精神ヲ遵守シ若シ會員中ニ紛爭ヲ生シタル場合ハ幹事調停ニ當ルコトアルヘシ

第十八條 會員ハ他ノ會員ノ受持學校ヘ中等教科書ノ供給ヲナスコトヲ得ス

第十九條 會員ハ全國中等教科書販賣協會會員以外ノ者ト取引スルコトヲ得ス
第二十條 會員ハ教科書ノ版本及見本

チ受持學校ニ對シ賣買スルコトヲ得ス

第二十一條 會員中左記ノ行爲アリタル者ハ幹事會ノ決議ヲ以テ第二十二條ノ規定ヲ適用スヘシ

- 一 第十八條、第十九條、第二十條ノ規定ニ違背シタル者
- 二 學校直賣ニ際シ割引行爲ヲナシタルモノ又ハ爲サントシタル者
- 三 幹事會ノ決議ニ服セサル者
- 四 取引上ノ支拂ヲ延滞シタル者
- 五 會費一ケ年以上納入セサル者

- 第二十二條 制裁規定ヲ左記ノ通り定ム
- 一 戒 告
- 二 五百圓以下ノ違約金
- 三 取引停止
- 四 除 名

第八章 規約變更

第二十三條 本規約ハ定時總會又ハ臨時總會ニ於テ出席會員ノ過半數ヲ以テ

東京市中等教科書販賣協會

決議スルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

會長	林 武 次
副 長	島村 水之助
淺見 文林堂	伊東 三郎
飯島 將嘉	有 精 堂
岩田 岩吉	小神 正春
大野 富士松	加 島 革
栗田 確也	榊原 福太郎
篠崎 信次	杉田 勘太郎
竹内 淳郎	林 五 郎
松崎 善太郎	丸山 常藏
三澤 朝一	柳澤 盛平

日本雜誌協會

所在地 牛込區横寺町五七
電話牛込四九八〇番

日本雜誌協會規約

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ日本雜誌協會ト稱ス
- 第二條 本會ハ事務所ヲ東京市ニ置ク
- 第三條 本會ハ左ニ該當スル雜誌發行業者及雜誌大取次業者ヲ以テ組織ス
 - 一 雜誌發行業者 本邦内ニ於テ雜誌ヲ發行發賣スル者若ハ外地ニ於テ本邦内ニ共通スル雜誌ヲ發行シ其特定發賣所ヲ本邦内ニ置ク者
 - 二 雜誌大取次業者 前掲ノ雜誌發行業者ヨリ其發行ニ係ル雜誌ヲ直接取次キ洽ク各地ノ販賣機關ニ配給スル業務ニ従事スル者

共性ニ鑑ミ業者相提携戮力シテ斯業ノ健全ナル發達ヲ圖リ以テ國運ノ進展文化ノ向上ニ貢獻センコトヲ目的トス

- 第五條 本會ハ前條ノ趣旨ニ基キ左記各號ノ事項ヲ處理及遂行ス
 - 一 雜誌ノ機能強化並ニ其指導精神ノ發揚
 - 二 雜誌發行大取次中次販賣各業者間ノ調整及取引ノ全般ニ關スル研究並ニ之ニ伴フ諸方針ノ確立
 - 三 雜誌ノ販賣方法ノ統制及各種雜誌ノ全般ノ普及促進ニ關スル諸方策
 - 四 雜誌販賣上ノ弊害防止ニ關スル諸對策

- 五 雜誌及雜誌ニ關スル文獻其他重要參考資料ノ蒐集並ニ調査
- 六 總會ノ決議ニ依ル諸案件ノ實施及會員相互ノ利害ニ關スル諸懸案ノ解決
- 七 會報及緊急諸通報ノ發行頒布

第二章 會 員

- 第六條 本規約施行前ヨリノ雜誌發行業者及雜誌大取次業者タル現在ノ會員ハ其儘既存ノ資格ヲ存續ス
- 新ニ會員タラントスル雜誌發行業者ハ本章中ノ條規ニ基キ入會其他必要ナル手續及之ニ附隨スル一定ノ順序ヲ經ルニ依リテ其資格ヲ獲得ス
- 第七條 前條第二項ニ依リ入會セントスル者ハ本會特定ノ用紙ニ指示ノ記入及署名捺印ヲ了シ雜誌大取次業者タル會員一名ノ副署並ニ證明ヲ受ケ入會金參拾圓及第十條ニ規定ノ會費六箇月分並ニ其發行ノ雜誌一部ヲ添

ヘテ申込ムモノトス

- 第八條 入會セントスル者ニシテ二種以上ノ雜誌ヲ發行シ其發行所名ヲ二個以上使用セントスル場合ハ其内一個ヲ代表發行所名トシテ之ニ對シテハ前條ノ規定ヲ適用ス爾餘ノ發行所名ニ對シテハ前條ニ規定ノ手續ト共ニ特別入會金貳拾圓及會費三箇月分ヲ即納スルモノトス
- 既ニ會員ニシテ一個ノ發行所名ヲ其發行雜誌ノ若干種ト共ニ二個以上ニ分立セントスル場合ハ第十一條及第十二條中ノ各該當規定ヲ適用ス
- 第九條 第七條又ハ前條第一項ノ入會申込者ニ對スル會員資格ノ承認ハ評議員會ノ決議ニ依リ其通知書ヲ發シタルトキヲ以テ確定ス但承認シ難キ事由アル者ニ對シテハ既納ノ入會金及會費ヲ返還ス
- 第十條 會員ハ左記ニ從ヒ三箇月分宛ノ會費ヲ前納スルコトヲ要ス但一月

四月七月十月ノ一定納期毎ニ本會之ヲ集金ス

- 一 雜誌發行業者
 - 基本會費 一發行所名ヲ以テ一雜誌ヲ發行スル者 月額金壹圓
 - 附加會費 一發行所名ヲ以テ二種以上ノ雜誌ヲ發行スル者ハ一種ヲ増ス毎ニ 月額金五拾錢
- 二 雜誌大取次業者 月額金五圓
- 第十一條 左記各號中ノ事項ノ生シタルトキハ其權利ノ移轉ニ關スルモノニアリテハ新ニ權利ヲ取得シタル者ヨリ其他ハ現在ノ經營者ヨリ第十二條ニ規定ノ登録料ヲ要スルモノハ之ヲ添附シテ届出テ第一號乃至第六號ノ事項ニ付キテハ評議員會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス又第一號ノ事項ニ屬スル届出ニハ雜誌ノ實物見本ヲ添附シ第二號第三號ノ事項ニ屬スル場合ハ之ヲ證明スヘキ連署又ハ書類ノ提出ヲ要ス本條中ノ承認ヲ拒否シタ

ル場合ハ既納ノ登録料ヲ返還ス

- 權利ノ移轉ニ關スル事項ニシテ規定ノ手續ヲ完了セス之ニ因リテ當事者間ニ紛争ヲ惹起スルコトアルモ本會ニ其決裁又ハ處置ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
- 一 雜誌ノ創刊改題若ハ分科ノ所屬變更
- 二 雜誌ノ發行又ハ營業ノ權利ノ讓受
- 三 相續若ハ組織變更其他前號以外ノ事由ニ基ク權利者名義又ハ資格ノ異動
- 四 發行所名又ハ商號ノ改稱
- 五 一個ノ發行所名ヲ以テ二種以上ノ雜誌ヲ發行スル者カ其發行雜誌ト共ニ發行所名ヲ二個以上ニ分立シタル場合
- 六 二個以上ノ發行所名ヲ併合シタル場合
- 七 發行所又ハ營業所所在地ノ變更

八 廢業若ハ雜誌ノ廢刊又ハ六箇月

付上ニ互ル雜誌ノ休刊或ハ其復刊

第十二條 前條第一號乃至第六號ニ該

當スル各事項ニ付キテハ左記ノ區別

ニ從ヒ届出ト同時ニ登録料ヲ納付ス

ルコトヲ要ス

第一號中ノ創刊 金貳拾圓

同號中ノ改題 金拾圓

第二號ノ權利ノ讓受 金貳拾圓

第三號中相續ヲ除ク以外 金拾圓

ノ各異動 金拾圓

第四號ノ發行所名又ハ商 金五圓

號ノ改稱 金五圓

第五號ノ發行所名ノ分立 金貳拾圓

一個ニ付 金五圓

第六號ノ發行所名ノ併合 同

第十三條 既納ノ會費及諸納付金ハ第

九條但書又ハ第十一條第一項ノ承認

ヲ拒否シタル場合ヲ除クノ外退會廢

刊其他事由ノ如何ニ拘ラス之ヲ返還

セス

第十四條 雜誌ノ題號發行所ノ名稱並

ニ商號ニシテ現ニ他ノ者ノ使用ニ係

ルモノ及其使用廢止後一箇年ヲ經過

セサルモノ或ハ是等ト殆ト混同シ易

キ虞アルモノヲ目的ヲ同クシテ若ハ

之ヲ轉換シテ題號名稱商號ノ孰レカ

ニ僭用シ又ハ他ノ者ノ綜合考案ニ成

レリト認メラルル雜誌ノ表紙圖樣色

調字形等ノ全體ニ涉リ故意ニ之ヲ模

倣スルカ如キ行為アルヲ得ス過失ニ

因ルモノ亦之ニ準ス但先用者ノ承諾

書ヲ提出シ評議員會ノ承認ヲ經タル

者ハ此限ニアラス

法定上ノ登記又ハ登録ヲ經タル商號

若ハ商標意匠等ニシテ權利ノ存續期

間中ニアルモノハ其權利者タル會員

カ現ニ之ヲ使用セサル場合ト雖前項

ヲ適用ス

前二項ニ對スル各處置ハ共ニ利害當

事者ノ請求ニ依リ評議員會ニ於テ之

ヲ爲ス

第十五條 左記各號ノ一ニ該當スル場

合ハ本會ヨリノ通知ノ有無ニ關セス

會員タルノ資格ヲ喪失ス

一 營業ノ廢止

二 發行又ハ營業ノ權利ノ讓渡

三 廢刊若ハ休刊一箇年ヲ超ユルモ

ノ

四 會費ノ滯納六箇月ヲ超ユルモノ

五 退會除名死亡又ハ所在不明六箇

月ニ及ヘルモノ若ハ第十一條第二

號第三號ノ手續ヲ爲ササルモノ

第三章 評議員役員及選舉

第十六條 本會ハ評議員二十名ヲ置ク

評議員 ヨリ左ノ役員ヲ互選ス

會長 一名

副會長 一名

會計監督 二名

第十七條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ

執行ス

シ次ニ入會順ニ從テ入會順ノ判明シ

難キ場合ハ年長順其孰レニモ依リ難

キ場合ハ抽籤ニ依ル

第二十五條 評議員ノ任期ハ二箇年ト

シ次期ノ選舉終了ノ確定スルマテ在

任ス但改選ノ結果重任スルコトヲ妨

ケス

會長副會長會計監督ノ任期其他亦同

シ

第二十六條 評議員及役員ニシテ左記

各號ノ一ニ該當シタル場合ハ其資格

ヲ失フ但第二號ノ場合ハ評議員會ノ

詮議ニ依ル

一 第十五條ノ各號ノ一ニ該當シタ

ルモノ

二 當選當時ノ被選舉條件又ハ其本

質ニ異動ヲ來シタルモノ

第二十七條 評議員又ハ役員ニ缺員ヲ

生シタルトキハ補缺選舉ヲ行フ但會

務ニ支障ヲ來タササル場合ハ補缺セ

サルコト得

第十八條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長

事故アルトキハ會長ノ職務ヲ行フ

第十九條 會計監督ハ金錢出納並ニ財

産及物件ニ關スル事項ヲ擔任ス

第二十條 評議員ハ評議員會ニ於テ發

議權及決議權ヲ行使シ常時ニアリテ

ハ擔當ノ各事項ヲ分掌ス役員ニ互選

セラレタル評議員亦同シ

第二十一條 評議員ノ選舉ハ總會ニ於

テ會長選舉長ニ當リ選舉委員若干名

ヲ指名シ選舉委員會ヲ組織シテ之ヲ

行フ

第二十二條 評議員選舉ノ投票ハ總會

會場ニ於テ交付ノ投票用紙ヲ用ヒ豫

メ回付シ置キタル會員名簿ニ掲載セ

ラレタル發行所名又雜誌大取次業者

ニアリテハ商號ニ依リ連記無記名ヲ

以テ之ヲ爲ス發行所名若ハ商號ヲ缺

ク者ハ氏名ニ依ル前項ノ會員名簿ハ

毎年度第一日調査ノ現在會員ヲ收メ

テ之ヲ作製ス

第八條ニ該當スル者ハ其代表發行所

名一個ニ付キテノミ選舉權ヲ有ス被

選舉權亦同シ

第二十三條 評議員ノ選舉ニ於テ左記

各號ノ一ニ該當スル投票ハ之ヲ無効

トス無効投票數カ全投票數ノ三分ノ

一ヲ超ユル場合ハ其選舉ヲ無効トシ

更ニ日時場所ヲ定メテ再選舉ヲ行フ

一 本會所定ノ投票用紙ヲ用ヒサル

モノ

二 被選舉者ノ發行所名商號若ハ氏

名以外ノ事項ヲ記載シタルモノ

三 被選舉者ノ發行所名商號若ハ氏

名ノ記載不明ナルモノ及重複記載

ノモノニ對シテハ各其部分

四 不正又ハ不當ノ疑アリテ選舉委

員會ニ於テ其實事ヲ認メタルモノ

第二十四條 評議員ノ當選決定ハ得票

最高ノ者ヨリ順次定員數ニ及ホシ得

票同數ナルトキハ既往ノ評議員就任

ノ有無又ハ就任年數ヲ順位ノ標準ト

補缺選舉ニ依リ就任シタル評議員及
役員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

第二十八條 會長副會長ニ四年以上會
計監督ニ六年以上又ハ評議員二十年
以上就任セル各退任者ニシテ評議員
會ノ決議ニ依リテ特ニ指名セラレタ
ル場合ハ本會ノ會務ニ關スル諮問事
項ニ提言シ又ハ囑託事項ニ參與スル
コトヲ得

第四章 會 議

第二十九條 會議ヲ分チテ總會及評議
員會トス

第三十條 總會及評議員會ハ會長之ヲ
招集シ之カ議長トナリ議事ノ整理議
場ノ秩序ヲ維持ス會長事故アルトキ
ハ副會長之ニ代リ會長副會長共ニ事
故アルトキハ評議員會ニ於テ臨機ノ
措置ヲ執ルコトヲ得

第三十一條 總會ハ毎年一回一月中ニ
之ヲ開キ左記各號ノ事項ヲ付議ス但

評議員ノ選舉ハ隔年一回之ヲ行フ

- 一 庶務報告
- 二 收支決算報告
- 三 收支豫算案
- 四 豫メ通知シタル議案
- 五 評議員ノ選舉

第三十二條 臨時總會ハ評議員會ノ決
議ヲ以テ之ヲ招集ス會員三十名以上
ノ同意ニ依リ會議ノ目的及其理由ヲ
明示シ之カ招集ノ請求アリ評議員會
ニ於テ採用シタルトキ亦同シ

第三十三條 總會ノ招集ハ開會七日前
ニ付議事項日時及場所ヲ記載シタル
通知書ヲ發スルコトヲ要ス但緊急ヲ
要スル臨時總會ノ場合ノ通知期間ハ
此限ニアラス

第三十四條 總會及評議員會ニハ會員
又ハ其代理者トシテ豫メ本會ニ届出
テ承認ヲ經タル者ニ非サレハ出席ス
ルコトヲ得ス但代理權ノ行使ハ一人
一限ニ限ル

第三十五條 總會及評議員會ノ付議事
項ハ出席者ノ過半數ヲ以テ可否ヲ決
ス可否尙數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第三十六條 評議員會ハ八月ヲ除キ每
月一回例會ヲ開キ必要毎ニ繼續會又
ハ臨時會ヲ開ク但評議員過半數ノ出
席アルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ
得ス

評議員會ハ議事ノ性質ニ依リ雜誌發
行者ト雜誌大取次業者トニ關スル
各部會ヲ各別ニ開キ準備協議ヲ經タ
ル後之ヲ評議員會ノ會議ニ移スコト
ヲ得此場合ノ各部會ハ議事整理ノ爲
各座長ヲ選フ

第三十七條 評議員會ハ必要ニ應シ評
議員中ヨリ委員ヲ選任シテ審議事項
其他各般ノ事項ノ處理ヲ付託スルコ
トヲ得

第三十八條 各委員會ヲ組織シ委員長
一名ヲ互選ス
第三十九條 各委員會ノ招集及議事其

他各般ノ事項ノ進行處理ハ委員長之
ヲ掌ル委員長事故アル時ハ委員中ノ
代行者之ニ當ル

各委員會ハ場合ニ依リ會長副會長之
ニ臨ミ又ハ委員長ヨリ其出席ヲ求ム
ルコトヲ得
各委員會ノ審議事項其他各般ノ事項
ノ進行處理ノ經過及其結果ニ付キテ
ハ委員長又ハ委員長代行者ヨリ其都
度之ヲ評議員會ニ報告スルコトヲ要
ス

第五章 分 科 會

第四十條 左記ノ分科ニ屬スル各會員
ハ共通ノ利害事項ヲ討究シ一致ノ方
針ヲ協定スル爲各分科毎ニ其分科會
ヲ組織スルモノトス但現在分科會ノ
必要ヲ認メサル分科ハ其組織ヲ留保
スルコトヲ得

前項ノ分科會ヲ組織シタルトキ及第
四十一條ノ場合ハ速ニ會長ニ届出テ

評議員會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第一分科 繪畫ヲ主トセル幼年幼女
雜誌

第二分科 讀物ヲ主トセル幼年幼女
雜誌

第三分科 少年少女雜誌

第四分科 男女青年雜誌

第五分科 婦人雜誌(甲部及乙部)

第六分科 娛樂雜誌(甲部及乙部)

第七分科 時事思想經濟產業等ニ關
スル雜誌

第八分科 前各分科ニ屬セサル雜誌

第四十一條 各分科會ハ幹事各二名ヲ
互選ス但内一名ヲ常任幹事トス

第四十二條 分科會ノ幹事ノ任期及資
格又ハ補缺選舉ノ當選者ニ關シテハ
第二十五條第二十六條及第二十七條
ノ各規定ヲ準用ス

第四十三條 分科會ハ左記各號ノ場合
ニ之ヲ招集ス

一 幹事ニ於テ必要アリト認メタル

トキ
二 分科會員三名以上ノ同意ニ依リ
協議事項ヲ明示シテ請求アリタル
トキ

三 評議員會ノ決議ニ依リ又ハ會長
ノ職務ニ於テ要求アリタルトキ

第一號第二號ノ場合ハ常任幹事ヨリ
豫メ會長ニ申出ツルコトヲ要ス

第四十四條 分科會ノ招集及議事ノ整
理ハ常任幹事之ニ當ル常任幹事ニ支
障アルトキハ幹事之ニ當ル

第四十五條 分科會ノ出席者ノ資格及
採決ノ方法ハ第三十四條第三十五條
ノ各規定ヲ準用ス

第四十六條 分科會ノ協定事項ハ評議
員會ニ報告シ其承認ニ依リテ效力ヲ
發生ス

第六章 發行大取次中次及販賣

第四十七條 會員又ハ雜誌ノ中次及販
賣業者並ニ之ニ關聯アル各地ノ雜誌

販賣業組合ハ總テ本章ノ規定ヲ適用セラルルモノトス

第四十八條 雜誌發行者タル會員ノ發行スル雜誌ハ會員タル雜誌大取次業者ヲ通シテ之ヲ配給セシムルモノトス但從來慣例アルモノハ之ニ倣フ雜誌大取次業者タル會員及順次其系統ヲ經テ雜誌ノ中次若ハ販賣ヲ業トスル者ハ會員ノ發行スル雜誌ノ普及ト發展トニ専心努力シ其品扱ニ付キテハ公平ト誠實トヲ旨トシ各自擔當スル所ノ業務ニ粗漏ナキヲ期スヘキモノトス
前項ノ各業者ハ會員ニ非サル者ノ發行シタル雜誌ノ配給及販賣ヲ爲スコトヲ得ス會員ノ發行ニ係ルト雖無届其他違背事項ニ觸レタル雜誌ハ亦之ニ準ス
既ニ入會申込又ハ創刊届出ノ手續ヲ了シ未タ評議員會ニ付議セラレサル雜誌ハ發行期日等ノ關係ヲ參酌シ其

期月號ニ限り機宜ノ假取扱ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 雜誌ノ販賣期間ハ定期發行ト臨時發行トヲ問ハス各發行ノ日ヨリ起算シテ滿三箇月間トス此期間中ニ於ケル一般販賣ハ必ス一部單位ノ定價ヲ嚴守スルコトヲ要ス但本土外ノ特殊地域ニシテ著シク高率ノ輸送費ヲ徴セラルル等ノ實狀アル場合ニ限り其地ノ雜誌販賣業組合ハ本會ノ承認ヲ經テ超過負擔以內ノ一定額ヲ定價ニ附加收受スルノ除外例ヲ設クルコトヲ得
異例ト看做サルル大量ナル雜誌ノ購買申込ヲ受ケ其用途力延テ一般雜誌ノ品位及價格ヲ失墜セシムル虞アル場合ハ定價販賣ト雖之ヲ拒否スルコトヲ要ス
雜誌發行者カ協定歩率ノ範圍内ニ於テ其發行雜誌ノ與附ニ表示スル所ノ三箇月分以上ノ直接購置者ニ對ス

ル前金定價ハ如何ナル場合ト雖一般販賣ニ關係ヲ及ホササルモノトス

第五十條 會員若ハ雜誌ノ中次又ハ販賣ヲ業トスル者ハ左ノ場合ヲ除クノ外自他執レノ催タルヲ論セス景品及各種ノ呈品券觀覽券割引券福引券ノ類並ニ是等券品ノ引替記票等ヲ添附シ或ハ雜誌ニ之ヲ刷入シ其他雜誌ノ郵送料ヲ減免スル等凡ソ換價セララルヘキ性質ヲ有スル諸方法ニ依リ定價販賣ノ趣旨ニ反スル行爲及割引ニ相當セシムヘキ代價若ハ顧客爭奪等不正ノ目的ヲ以テ隨時贈物ヲ爲ス等ノ手段ニ出ツルコトヲ得ス
一 雜誌發行者タル會員ハ本會カ主催スル一定期間内ニ於ケル雜誌普及ノ企圖等ニ際シテ當該分科會ノ協定ヲ經評議員會ノ承認及雜誌大取次業者ノ同意アリタル時ノミニ限り其月ニ發行スル各雜誌ニ適正ヲ缺カサル程度ニ於テ若干ノ券

品ヲ添附スルコトヲ得但評議員會ノ承認後其實行ニ至ル迄四十日以上ノ間隔ヲ存スルコトヲ要ス
二 雜誌販賣業者ハ其所屬ノ組合ニ於テ決定シタル範圍内ノ券品ノ類ニ限り年二回以內一回ニ付一箇月ヲ超エサル一定期間内販賣雜誌ノ全部ニ通シテ之ヲ添附スルコトヲ得此場合ノ雜誌販賣業組合ハ其實行方法ヲ明記シテ豫メ本會ニ申出テ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第五十一條 雜誌ノ中次又ハ販賣業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ本會ハ評議員會ノ決議ヲ以テ會員直接若ハ順次其系統ノ扱店ヲ經テ取引ヲ停止セシム殊ニ猶豫シ難キ事情アリト認メタルトキハ取引停止決定前ノ緊急措置トシテ即時雜誌ノ配給ヲ中止セシムルコトアルヘシ但該當事項カ會員ニ聯關シ又ハ單ニ會員ニ存スル場合ハ其會員ニ對シテ

ハ第六十五條ニ依リテ處分ヲ爲ス
一 第四十八條乃至第五十條ニ反シタル者
二 不正取引ト認ムヘキ行爲アリタル者
三 販賣期間中ノ雜誌ノ貸覽回覽買戻買取交換ヲ爲シタル者及不正ノ目的ヲ以テ雜誌ノ改装加工其他種々ノ方法ヲ施シタル者並ニ上掲ノ雜誌若ハ販賣期間經過後ノ雜誌ノ返品ヲ爲シタル者

四 雜誌販賣業以外ノ業名ヲ以テシ又ハ他人名義或ハ異ナル商號等ヲ使用スト雖前號中ニ該當スル行爲アリタル者特ニ新古雜誌ノ店舖ヲ區別シ若ハ兩者ノ店舖ヲ各別ニ設ケアルノ理由ニ依リ其行爲ニ對スル責ヲ免ルルヲ得ス
五 雜誌ノ貸覽回覽ヲ業トスル者又ハ其共通者ニ對シ雜誌ノ供給ヲ爲シタル者

六 取引停止又ハ配給中止中ノ者ニ對シ取引上ノ便ヲ與ヘタル者
七 本會又ハ雜誌大取次業者タル會員ヲ經テ必要毎ニ發スル緊急注意若ハ禁制事項ノ告知ニ從ハサル者
八 會員トノ取引上ヨリ生シタル債務ヲ履行セサルニ因リ債權者タル會員ヨリ之カ處分ノ請求アリ催告期間中ニ辨濟ヲ了セサル者前各號中第八號ニ該當スル者ノ取引停止ハ期間ヲ定メス其他ハ七日以上三箇月以下ノ期間ヲ附ス配給中止ノ期間ハ其場合ノ實狀ニ應シテ之ヲ決ス

第五十二條 前條ノ取引停止ニ付セラレタル者ニシテ債務ヲ辨濟シ又ハ背反行爲ニ對シ改悛ノ實アリト認メタルトキハ其所屬ノ雜誌販賣業組合若ハ關係者ノ請求ニ依リ評議員會ハ之カ解除ノ決定及必要ノ處理ヲ爲スコトヲ得
第五十三條 各地ノ雜誌販賣業者ニ於

テ既ニ其組合ヲ結成シ又ハ新ニ之ヲ結成シタルトキハ其規約及組合員名簿ヲ本會ニ提出シテ檢認ヲ受クルコトヲ要ス規約ノ變更及組合員ニ異動ヲ生シタル場合モ亦速ニ本會ニ報告スルコトヲ要ス但組合員二十名以下ノ組合ハ適當ノ期間内準組合ト看做シ置クコトアルヘシ

雜誌販賣業ト他ノ業トヲ包括シテ一組合ヲ概成シ複合名稱ヲ附スル組合ニ對シテハ其規約中雜誌ニ適用セラレヘキ部分ノミ之ヲ認ム

雜誌販賣業組合ヲ未タ結成セサル地ニアリテハ其地ノ同業者全員ノ合意ニ依リ代表者ヲ定メ其者ニ於テ之カ統制ノ責任ヲ負フコトヲ條件トスル場合ニ限リ組合ニ準スル暫定取扱ヲ爲スヘシ

本條第一項又ハ第三項ノ手續及報告ヲ怠リタル雜誌販賣業組合若ハ準組合ハ其組合ニ於ケル利害事項等ノ解

決ニ際シ本會トノ交渉關係ヲ生セサルモノトス

第五十四條 雜誌販賣業組合ハ本章中ノ重要ナル各規定ノ趣旨ヲ其規約中ニ網羅シ之カ履行ニ協力スルト共ニ現金販賣制ヲ組合ニ實施スル等時運ニ伴ヒ業態諸般ノ改善進歩ヲ計リ業者間ノ互助扶翼ヲ目的トスルコトヲ要ス

第五十五條 雜誌販賣業組合ハ其組合員タラントスル者ノ加入金又ハ營業場所ノ距離等其他ニ關シ雜誌ノ普及ヲ阻害スルカ如キ不當ナル規約若ハ内規ヲ設ケ或ハ其處置アルコトヲ得ス

第五十六條 雜誌販賣業組合ニ於テ其組合員ノ或者ヲ除名處分ニ付サントスルトキハ豫メ本會ニ其顛末ヲ報告シ本會ヨリノ回報ニ接スルマテ之ヲ實行スルコトヲ得ス其他組合員ノ或者ニ對スル取引停止若ハ罷除中止ヲ

會員ニ要求セントスル場合亦同シ

第五十七條 雜誌販賣業組合ノ名ニ於テ本會ノ規約決議協定事項ニ背反シ又ハ本會ノ統制ヲ紊スカ如キ行動アリタルトキハ本會ハ會員ヲシテ之ニ參加シタル組合員ノ全部若ハ一部ニ對シ第五十一條ノ規定ヲ準用セシメ其他本會ノ權限ヲ以テ當該地域ノ雜誌ノ配給販賣ニ關シ必要ナル緊急措置ヲ執ルコトアルヘシ

第七章 事業年度及會計並事務

第五十八條 本會ノ事業年度ハ毎年十二月一日ニ始リ翌年十一月三十日ニ終ル

第五十九條 本會ノ經費ハ會費其他ノ諸收入ヲ以テ之ニ充ツ

第六十條 毎年度ノ收支決算ハ總會ニ報告シテ承認ヲ求ム

第六十一條 毎年度ノ收支決算ハ總會ニ提案シテ決議ヲ求ム

第六十二條 豫算外ノ支出ヲ要スル緊急ノ場合ハ評議員會ノ決議ヲ以テ豫備費中ヨリ之カ繰替ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ次ノ總會ニ報告シテ其追認ヲ求ムルコトヲ要ス

第六十三條 本會ノ財産及物件ハ評議員會ノ決議ヲ以テ保管及處理方法ヲ定メ會計監督ニ之ヲ委付ス

第六十四條 本會ノ事務並ニ事務所ニ關スル諸件及之ニ伴フ人事ニ關シテハ隨時評議員會ニ諮リ會長之ヲ決行ス

第六十五條 規約決議又ハ協定事項ニ違背シタル者若ハ秩序攪亂ノ舉ニ出テタル者或ハ本會ノ體面ヲ汚損シタル者アルトキハ評議員會ノ議ニ付シテ事處ノ輕重ヲ裁量シテ左記各號中ノ處分ヲ爲ス但實狀ノ如何ニ依リテハ臨機ノ手續ヲ以テ決議前左記各號以

第八章 制 裁

第六十六條 除名處分ニ付セラレタル者ニシテ改悛入狀顯著ナルトキハ其請求ニ依リ更ニ必要ノ手續ヲ履マシメ入會ヲ承認スルコトアルヘシ

第九章 新事項處理例及諸慣習

第六十七條 規約ニ豫メ定メラレサル新ナル事項ヲ生シ其及ホス範圍カ會員中ノ既存ノ權益ニ影響スル場合ハ特ニ利害關係ヲ有スル者ノ意見ヲ徵シ評議員會ニ於テ審議ヲ行ヒタル上或ハ適當ニ之ヲ處理シ或ハ必要ニ應シ總會ニ付シテ決議ヲ求ムルモノトス

第六十八條 雜誌發行者及雜誌大取業者タル會員相互間ニ從來便宜トシテ行ハレタル諸慣習ハ規約ノ本旨ニ抵觸セサル限り之ヲ存置スルコトヲ妨ケス

第十章 規約變更例及施行期日

第六十九條 本規約ハ總會ノ決議ニ依リテ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但各分科ノ雜誌分類別ノ編制替及章外附屬例規ノ加除修正ハ評議員會ノ權限ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十條 本規約ハ昭和十二年十一月二十七日臨時總會ノ決議ヲ以テ修正シ同十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

章 外 附 屬 例 規

第一條 本規約正文ニ規定スル雜誌ハ新聞紙法ニ依リテ同一題號ヲ以テ定期ニ之ヲ發行シ其掲載事項ノ性質又ハ形態ノ冊子タルト如何トヲ問ハス

法規上新聞紙タルノ取扱ヲ受クルモノヲ云フ但特設ノ機關ニ依リテ發賣頒布スル所ノ從來一般ニ新聞紙ト呼慣サレタル部類ノ發行物ハ之ニ含まス
出版法ニ依ル學術雜誌ト雖隨時新聞紙法ノ發行ニ改ムルコトヲ得
新聞紙法ニ依ル發行用紙ハ時事事項掲載ノ有無ヲ明示シ本會ニ申出アラハ之ニ適合スル用紙必要數一種ニ付二通ヲ交付ス

第二條 本規約正文ニ規定スル雜誌ハ三種郵便物タルノ認可ヲ得且鐵道運輸規則ニ抵觸セサルモノタルコトヲ要ス
第三種郵便物認可願ハ管轄區域内ノ遞信局(東京府及神奈川縣ハ東京都遞信局)ニ雜誌ノ實物見本一部ヲ添ヘテ之ヲ爲スモノトス認可手数料ハ出願後遞信局ヨリ認可指令ノ豫備通知ニ接スルヲ待チテ成ルヘク高額

ナル郵便切手ヲ以テ納付スヘキモノトス但本項ノ認可願用紙ハ本會ニ於テモ之ヲ交付ス
第三條 學校學會其他諸團體ノ機關雜誌ト雖廣ク之ヲ發賣スルモノハ本規約正文ノ適用範圍ニ屬スルモノト看做ス
第四條 本規約正文ニ規定スル雜誌發行業者ハ本會ニ届出ノ其經營者タルノ謂ニシテ雜誌ニ表示スル發行人名義ノ何人タルニ關セサルモノトス

第五條 雜誌ノ一部定價ハ慣例ノ奧附以外ニ裏表紙左端下方部又ハ背ノ下方部ニ五號活字大以上ニ相當スル見易キ文字ヲ以テ之ヲ明示スルコトヲ要ス
第六條 創刊セントスル雜誌ノ體裁頁數定價等ニ關シテハ協定其他取扱ニ對スル事實上ノ注意事項ヲ伴フコトアルヘキヲ以テ本會事務所又ハ會員中ノ雜誌大取次業者ニ就キテ豫メ承

合セラルルヲ安全トス
第七條 本規約正文第三條第二號ニ該當スル雜誌大取次業者ニシテ同第六條第一項ノ適用ヲ受クル現在ノ會員ハ左ノ四株式會社各店トス
麴町區九段一丁目七番地
株式會社 東 京 堂

京橋區銀座西六丁目二番地
株式會社 東 海 堂
京橋區橫町三丁目三番地
株式會社 北 隆 館
神田區淡路町二丁目九番地
株式會社 大 東 館

第八條 入會其他ノ諸要件ニ關シ本會事務所ニ直接來所又ハ電話セラレントスル者ハ日曜ト祝祭日トヲ除キ午前十時ヨリ午後四時ノ間ヲ選ハルルヲ最モ便トス
日本雜誌協會評議員
會長 講 義 社

副會長 主婦之友社
東 京 堂 東 海 堂
北 隆 館 大 東 館
博 文 館 實業之日本社
新 潮 社 婦人之友社

文 教 社 料理之友社
小 學 館 研 究 社
中央公論社 改 造 社
ボケツト講談社 文藝春秋社
婦 女 界 社 誠文堂新光社

東京雜誌販賣業組合

所在地 神田區駿河臺四ノ二ノ八
電話 神田 六六七番

東京雜誌販賣業組合規約 (昭和十三年十一月二十五日修正)

第一章 總 則
第一條 本組合ハ東京市内ニ營業所ヲ有スル雜誌販賣業者ヲ以テ組織ス
第二條 本組合ハ東京雜誌販賣業組合ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク
第二章 目 的

第三條 本組合ハ組合員間ノ利益増進ト共濟親睦ヲ旨トシ無益ノ競争ヲ避ケ斯業ノ發達ヲ圖リ營業上ノ弊害ヲ矯正スルヲ以テ目的トス
第四條 本組合ハ組合員間ノ一方若クハ双方ノ請求ニヨリ營業上ヨリ起ル紛議ノ調停ヲナスコトヲ得此場合ハ幹事會ノ互選ヲ以テ調停委員若干人ヲ舉ケ之ヲ調停セシム
第五條 本組合ノ目的ヲ達センカ爲メ

組合員ハ左ノ事項ヲ嚴守スヘキモノトス
一 組合員外ノ營業者ト取引ヲ爲スコトヲ得ス
二 雜誌ハ凡テ定價ヲ以テ販賣スルモノトス但前金拂込ノ購讀者ニ對シテハ各雜誌奥附記載ノ價格ヲ以テ販賣スルコトヲ得、尙奥附記載ノ發行日ヨリ三ヶ月ヲ經タルモノハ除外ス
三 雜誌ヲ販賣スルニ景品ヲ添附シ送料負擔若クハ割引ニ類スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス
四 組合員ハ他ノ商品ヲ販賣スルタメ割引、景品等ニ新刊雜誌ヲ使用スルコトヲ得ス
五 組合員ハ組合員外ノ者ニシテ新刊雜誌ヲ、割引、景品等ニ使用スル目的ヲ以テ購求スル者又ハ其疑アル者ニハ販賣スルコトヲ得ス
六 雜誌ハ發行所ト元取次店間ニ於テ協議ノ上定メタル發賣日前ニ販賣(店賣、配達、發送)スルコトヲ得ス
七 貸覽及回覽ノ營業ヲ爲スコトヲ

得ス
 八 貨覽及回覽業ヲ營ムモノニ雜誌
 ナ販賣スルコトヲ得ス
 九 取引停止及ヒ營業休止中ノ組合
 員ト取引ヲ爲スコトヲ得ス
 十 本條ノ内第一號及第七號ノ場合
 ニ於テハ假令定價ト雖モ販賣スル
 コトヲ得ス

第三章 組 合 員

第六條 本組合ニ加入セントスル者ハ
 本組合所定ノ加入申込書(第一號書
 式)ニ一定ノ店舗ヲ有スル營業所及
 商號、氏名、年齢ヲ記載シ所要地圖
 (店舗ノ位置及附近組合員ノ位置ヲ
 明記シタルモノ)誓約證ヲ添付シ紹
 介者タル組合員二人ノ連署ヲ以テ申
 込ムヘシ 但紹介者ノ一人ハ幹事タ
 ルコトヲ要ス
 加入金ハ貳百圓トシ加入ノ通知ヲ受
 ケタル日ヨリ十日以内ニ本組合ニ納
 入スヘシ
 金額納入ノ日ヨリ組合員タルノ資格
 ヲ生ス
 支店、分店若クハ出張所ノ設置ハ各
 別ニ加入スヘキモノトス

組合員(加入後滿七ケ年以上)ノ從
 業者ニシテ滿七ケ年以上勤續シ本組
 合ヨリ表彰ヲ受ケタル者ハ加入金ヲ
 拾圓トス此場合ハ第二號書式ノ證明
 書ヲ申込書ニ添付スルコトヲ要ス
 但一旦脱退シタル者又ハ退店後滿二
 ケ年ヲ經タル者ハ此限ニアラス
 第七條 加入申込者ニ對シテハ調査ヲ
 行ヒタル後幹事會ニ於テ其ノ許可ヲ
 決ス

第八條 申込者ノ營業所カ組合員ノ營
 業所ニ接近シ甚敷支障アリト認めタ
 ル場合ハ其ノ加入ヲ許可セサルコト
 アルヘシ
 第九條 加入申込者ニシテ組合員營業
 所ノ讓渡ヲ受ケントスルトキハ第四
 號書式ニヨリ讓渡人讓受人連署ノ上
 届出テ其ノ許可ヲ受クヘシ此場合讓
 渡人ハ脱退(第六號書式)ノ手續ヲ
 要シ讓受人ハ加入登録料トシテ金壹
 百圓ヲ納入スルコトヲ要ス其ノ營業

所ニ對シテハ前條ニ依ラスシテ其ノ
 加入ヲ許可スルコトアルヘシ 但讓
 受人カ勤續者ノ場合ハ登録料金拾圓
 トス
 讓受人カ組合員ノ移轉ニヨル場合ハ
 登録料ヲ要セス
 第十條 組合員ニシテ其ノ營業所ヲ移
 轉セントスルトキハ移轉前必ス第五
 號式ニ依リ本組合ニ届出テ許可ヲ受
 クルコトヲ要ス
 移轉場所カ第八號ニ該當スル場合ハ
 其ノ移轉ヲ許可セサルコトアルヘシ
 第十一條 組合員ニシテ其ノ營業所移
 轉ニ際シ第八條ニ該當スル場合ト雖
 營業休止ノ誓約證ヲ提出スルトキハ
 其ノ移轉ヲ許可スルコトアルヘシ
 第十二條 組合員ハ死亡若クハ隱退ノ
 場合相續人又ハ法律上ノ家族ニ其ノ
 營業ヲ繼承セシムルコトヲ得此手續
 ハ第三號書式ニ依リ戶籍謄本(或ハ
 抄本)其ノ他ノ證明書相添届出テ許

可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ加入金
 ヲ要セス
 第十三條 組合員ハ他ノ組合員ト同一
 ノ商號ヲ有スルコトヲ得ス但先用者
 ノ承諾ヲ得タルモノハ此限ニアラス
 第十四條 組合員ハ其ノ店頭ニ組合員
 タルノ標章ヲ提出スルコトヲ要ス
 但標章ハ組合ヨリ交附ス
 第十五條 組合員ニシテ氏名、商號ノ
 變更、設定若クハ廢業シタルトキハ
 一週間以内ニ組合ニ届出テ承認ヲ經
 ヘシ
 第十六條 組合員ハ組合經費負擔ノ義
 務ヲ負フ
 第十七條 組合員間ニ於テ商取引ノ支
 拂ヲ延滞シタル者アルトキハ被害者
 ヨリ其ノ處分ヲ組合ニ請求スルコト
 ヲ得
 第十八條 組合ハ前條ノ請求アリタル
 トキ事實ヲ調査シ其ノ延滞ヲ認めタ
 ルトキハ日ヲ限り支拂フヘキ旨通告

シ之ニ應セザルトキハ第四十九條ニ
 據リ處分スヘシ
 第十九條 組合員ハ自己ニ關スル件ニ
 付キ組合ヨリ出頭ヲ求メラレタルト
 キハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス
 第二十條 組合員ニシテ組合員タル品
 位ヲ汚損シ若クハ幹事會ニ於テ不都
 合ノ行爲アリト認めタルトキハ第四
 十九條ニ據リ處分スヘシ
 第二十一條 組合員ニシテ滿一ケ年間
 以上營業ヲ休止シタルトキハ第八條
 ヲ適用セサルモノトス
 營業休止ノ起算日ハ組合員ノ届出若
 クハ調査ノ上其ノ營業休止ノ事實ヲ
 幹事會ニ於テ確認シタル上之ヲ決定
 ス
 第二十二條 組合員ハ左ノ事由ノ發生
 ニ因リテ組合員タルノ資格ヲ喪失ス
 一 任意ノ脱退
 二 廢業
 三 營業所ノ讓渡

四 營業ヲ休止スルコト滿二ケ年ニ
 亘ルモノ
 五 營業所ノ組合地域外移轉
 六 許可ヲ得スシテ其ノ營業所ヲ移
 轉シタルモノ
 七 死亡 但第十二條ヲ適用シテ其
 ノ資格ヲ繼承スルコトヲ得
 八 法人ノ解散
 九 破産
 十 除名
 第二十三條 本組合ハ規約第三條ノ目
 的ヲ達スル爲メ本組合内ニ共濟會ヲ
 設ケ幹事會ヨリ委員若干人ヲ置キ組
 合員ノ共濟事務ヲ擔任ス
 共濟會細則ハ別ニ之ヲ定ム
 第二十四條 組合員ニシテ本組合ニ特
 ニ功勞アリタル者ハ之ヲ表彰スルコ
 トアルヘシ
 第二十五條 組合員ノ從業者ニシテ滿
 七ケ年以上勤續シタル者ハ本組合ニ

テ表彰ス表彰規程ハ別ニ之ヲ定ム
 第二十六條 組合員ノ從業者ニシテ規
 約ニ反スル行爲アリタル場合ト雖組
 合員ハ其ノ責任ヲ負フモノトス
 第二十七條 組合員ニシテ其ノ資格ヲ
 喪失シタル場合ニ於テハ之ニ對シ加
 入金ノ返還又ハ組合財産ノ分配ヲ請
 求スルコトヲ得ス

第四章 役員

第二十八條 組合ハ組合員中四十人ニ
 對シ一人ノ比率ヲ以テ幹事ヲ選舉ス
 幹事選舉施行細則ハ別ニ之ヲ定ム
 幹事ハ其ノ互選ヲ以テ組長一人副組
 長二人常任幹事五人會計二人規約勵
 行委員十人共濟會委員十人ヲ定ム
 事務取扱ノ爲メ事務員若干人ヲ置ク
 事務員ハ幹事會ノ決議ヲ以テ組長之
 ヲ任免ス
 第二十九條 組長ハ本組合ヲ代表シ會
 議ノ際議長ノ職ヲ掌ル副組長ハ組長

ヲ補輔シ組長事故アル時ハ之ヲ代理
 ス常任幹事ハ緊急ヲ要スル事件ヲ審
 議シ會計ハ會計事務ヲ掌ル規約勵行
 委員ハ規約運用ノ事務ヲ掌リ共濟會
 委員ハ共濟事務ヲ處理シ幹事ハ諸般
 ノ議案ヲ審議シ事務ヲ分掌ス
 第三十條 幹事ノ任期ハ一ケ年トス
 第三十一條 幹事ニ當選シタル者ハ正
 當ノ理由ナクシテ辭任スルコトヲ得
 ス
 第三十二條 幹事ハ無給トス但特ニ費
 用ヲ要シタルトキハ實費ヲ支辨ス
 第三十三條 本組合ハ本組合ニ特ニ功
 勞アリタルモノニ對シ幹事會ノ決議
 ナ經テ總會ニ於テ名譽幹事ニ推薦ス
 ルコトヲ得
 名譽幹事ハ終身トシ其職務權限ハ幹
 事ニ同シ
 第三十四條 幹事中特ニ功勞アリタル
 者若クハ繁劇ノ事務ヲ處理シタル者
 ニ對シテハ幹事會ノ決議ヲ以テ表彰
 若クハ報酬ヲ爲スコトヲ得

第五章 會議

第三十五條 會議ヲ分ツテ左ノ六種ト
 ス
 一 定時總會
 二 臨時總會
 三 幹事會
 四 常任幹事會
 五 規約勵行委員會
 六 共濟會委員會
 第三十六條 定時總會ハ毎年一月之ヲ
 開キ左ノ事項ヲ舉行ス
 一 前年度ノ事務報告及財産目錄會
 計收支決算報告
 二 豫算案審議
 三 組長ヨリ豫メ提出シタル議案ノ
 審議
 四 役員ノ選舉
 第三十七條 臨時總會ハ幹事會ニ於テ
 必要ト認メタルトキ又ハ組合員十分
 ノ一以上ノ同意ニヨリ其ノ目的タル

以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之
 ヲ決ス

第六章 會計

第四十三條 組合員ハ組合維持費トシ
 テ月額四拾錢ヲ支出スルモノトス
 第四十四條 本組合ノ經費ハ月費、加
 入金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス
 第四十五條 緊急及非常ノ場合ニ際シ
 臨時支出ヲ要スルトキハ幹事會ノ決
 議ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得但此
 場合ハ次期ノ總會ニ之ヲ報告シ承認
 ヲ得ルコトヲ要ス
 第四十六條 組合ノ基金及收入金ハ幹
 事會ニテ定メタル銀行又ハ信託會社
 ニ寄託ス
 第四十七條 組合員ハ事務ニ妨ケナキ
 限り會計帳簿ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ
 得
 第七章 制裁
 第四十八條 組合員ニシテ本規約ニ違

背シタル者ハ幹事會ノ決議ヲ以テ左
 ノ制裁ヲ爲ス

一 譴責
 二 拾圓以上壹千圓以下ノ違約料
 三 期限ヲ定メタル取引停止
 四 期限ヲ定メサル取引停止
 五 除名
 第四十九條 左ノ條項ノ一ニ該當スル
 者アルトキハ第四十八條ヲ適用ス
 第五條、第六條第四項、第十條第一
 項、第十八條、第十九條、第二十條
 第五十三條
 第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者
 ハ除名ニ處ス
 一 月費ノ滯納六ケ月ニ亘ルモノ
 二 違約料ノ徵收ニ應セサルモノ
 三 組合員ニシテ貸覽及回覽業ニ類
 スル行爲アルモノ
 第五十一條 期限ヲ定メサル取引停止
 ニ處セラレタル者ニシテ悔改ノ實ア
 リト認メタル場合ハ組合員二人ノ保

證ニヨリ幹事會ノ決議ヲ以テ之ヲ解除スルコトアルヘシ

第五十二條 組合員ハ組合員中ニ規約違反者アルコトヲ認知シタルトキハ速ニ組合ニ申告セラルヘシ申告者ノ氏名ハ絕對ニ秘密トス

第五十三條 前條ノ申告者カ故意ニ他ヲ中傷セントスル虚構ニ出タルトキハ申告者ハ第四十九條ノ制裁ヲ受ク

第五十四條 本章ノ制裁ニ對シ組合員ハ異議ノ申立ヲナスコトヲ得ス

第八章 附 則

第五十五條 本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第五十六條 本規約ハ昭和十四年一月一日ヨリ施行ス

第一條 本會ハ東京雜誌販賣業組合共濟會ト稱ス

第二條 本會ハ東京雜誌販賣業組合ノ組合員ヲ以テ組織ス

第三條 本會ノ基金ヲ一萬圓トス

第四條 本會ハ會員營業所ノ火災ニ際シ見舞金ヲ贈呈スルモノトス

第五條 本會ハ會員ノ罹災ニ際シ調査ノ上其ノ程度ヲ審査シ五百圓以内ヲ贈呈スルモノトス

第六條 本會々員ニシテ左ニ該當スル場合ハ第五條ヲ適用セサルモノトス

一 無斷移轉場所ニ於ケル出火

二 警視廳令所定ノ爆發物取締規則違反ニ依ル出火

三 天災地變ニ依ル出火

第七條 本會ハ本組合幹事會中ヨリ互選ヲ以テ委員十名ヲ定メ事務ヲ處理ス

第八條 委員ハ會員罹災ノ通知アリタルトキハ直ニ現狀ヲ調査シ委員會ニ於テ見舞金ヲ査定シ本組合幹事會ノ

承認ヲ經テ之ヲ贈呈ス會員ハ之ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 本細則ハ昭和十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

東京雜誌販賣業組合幹事

- | | |
|--------|--------|
| 組長 | 大野 孫平 |
| 副組長 | 岸 他 丑 |
| 副組長 | 土屋 右近 |
| 伊藤 貫一 | 市川 松之輔 |
| 稻川 佐八 | 石塚 卯三郎 |
| 林 五郎 | 長谷川 留吉 |
| 松下 喜作 | 本間 龍藏 |
| 石塚 隆美 | 國領 茂藏 |
| 大曾根 銈治 | 大川 義雄 |
| 小澤 作次郎 | 大橋 信一 |
| 岡崎 傳五郎 | 小澤 一男 |
| 細谷 卯之助 | 芳根 次朗 |
| 藤井 誠治郎 | 高橋 又治 |
| 田中 龜夫 | 山本 芳之助 |

中川 治三郎 中川 謙
 中山 軍治 植野 録夫
 福田 滋次郎 福島 孝太郎

越石 保文 淺見 文林堂
 赤井 健 酒卷 修三
 三井 傳藏

東京圖書雜誌小賣業組合

所在地 神田區神保町一ノ六五(共同書籍内)
 電話 神田 一三五 一番

東京圖書雜誌小賣業組合規約

第一章 總 則

第一條 本組合ハ東京圖書雜誌小賣業組合ト稱ス

第二條 本組合ハ東京書籍商組合員又ハ東京雜誌販賣業組合員ノ小賣業者ヲ以テ組織ス

第三條 本組合ハ事務所ヲ東京市ニ置ク

第四條 本組合ハ必要ニ應ジテ各個所ニ支部ヲ設置スルコトヲ得 支部細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 目的

第五條 本組合ハ組合員間ノ親睦ヲ旨トシ協同一致ヲ以テ斯業ノ發達隆盛ヲ圖リ併セテ營業上ノ弊風ヲ矯正スルヲ以テ目的トス

第六條 本組合ノ目的ヲ達センカ爲メ左ノ事項ヲ執行ス

一 圖書雜誌ノ販賣ニ關スル利害得

第三章 組合員

第七條 本組合ニ加入セントスル者ハ其營業所商號始業年月日及氏名年齢ヲ記シ組合員貳名(一名ハ幹事 連署ノ上本組合ニ申込ムヘシ)但シ支部推薦ニヨル加入申込者ハ支部長ノ署名ヲ要ス

第八條 組合員ニシテ其營業所ヲ移轉シタルトキハ直ニ本組合ニ届出ツヘシ

第九條 組合員ハ組合經費負擔ノ義務ヲ負フ

第十條 組合員ニシテ廢業、脱退若ク

ハ失格シタル者アルモ組合財産ノ分配ヲ請求スルコトヲ得ス

第四章 役員

第十一條 本組合ハ組合員中ヨリ左ノ役員ヲ選舉ス

幹事 四十名

幹事ハ其互選ヲ以テ組長一名、副組長二名、常任幹事七名ヲ定ム

常任幹事ノ中常勤幹事一名會計二名ヲ互選ス

第十二條 役員選舉ハ定期總會ニ於テ組合員ノ無記名連記投票ヲ以テ之ヲ行ヒ有効投票ノ多數ヲ以テ當選トス得票同數ナルトキハ年長者ヲ採リ同年ナルトキハ抽籤ニヨリ之ヲ定ム選舉人名簿及投票用紙ハ選舉當日其會場ニ於テ交附ス

選舉長ハ組長之レニ當リ選舉委員ハ組長之ヲ定ム

第十三條 幹事ノ任期ハ一ケ年トス

第十四條 臨時總會ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員十分ノ一以上ノ同意ニヨリ其目的事項ヲ明示シテ組長ニ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第十五條 總會ヲ開カントスルトキハ七日前組長ヨリ會議ノ目的事項及場所ヲ組合員ニ通知スヘシ

第十六條 但シ緊急ヲ要スル場合ハ通知期間ヲ短縮スル事ヲ得

第十七條 幹事會ハ毎月一回之ヲ開キ尙必要ノ場合ハ臨時幹事會ヲ召集シ常任幹事會ハ隨時之ヲ開ク

第六章 會計

第十八條 組合員ハ組合維持費トシ

東京圖書雜誌小賣業組合

但シ再選ヲ妨ケス

第十四條 幹事ニ當選シタルモノハ正當ノ理由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第十五條 幹事ハ理由ナクシテ引續キ六ヶ月以上幹事會ニ缺席シタルトキハ幹事タル資格ヲ喪失ス

第十六條 本組合役員ノ職務權限左ノ如シ

- 一 組長ハ本組合ヲ代表シ副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アル時ハ之ヲ代理ス
- 二 會計ハ會計ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 三 幹事ハ諸般ノ議案ヲ審議シ且ツ規約第六條各項ノ事務ヲ分掌ス

第十七條 本組合ノ役員ハ總テ名譽職トス 但シ費用ヲ要シタル時ハ支辨幹事中繁劇ノ事務ヲ處理シタル者ニ對シテハ幹事會ノ決議ヲ以テ賞與若

第十八條 毎月額貳拾錢ヲ納入スルモノトス

第十九條 本組合ノ經費ハ組合員月費寄附金及其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十條 組合ノ積立金及收入金ハ幹事會ニ於テ定メタル銀行ニ預金ス

第二十一條 組合員ハ事務ニ妨ケナキ限リ帳簿ノ閱覽ヲ求ムル事ヲ得

東京圖書雜誌小賣業組合支部細則

第一條 支部ハ本規約第四條ニ基キ是ヲ設置スル事ヲ得

第二條 支部ノ區域ヲ左ノ如ク定ム

第一區 麴町區、神田區、四谷區、牛込區

第二區 日本橋區、京橋區、芝區、麻布區、赤坂區

第三區 小石川區、本郷區、下谷區、淺草區

クハ報酬ヲ爲スコトヲ得

第十八條 本組合ニ特ニ功勞アリタル者ヲ幹事會ノ決議ヲ經テ總會ニ於テ名譽幹事ニ推薦スルコトヲ得 名譽幹事ハ終身トシ其職務權限ハ幹事ト同シ

第五章 會議

第十九條 會議ハ左ノ四種ニ分ツ

- 一 定期總會
- 二 臨時總會
- 三 幹事會
- 四 常任幹事會

第二十條 定期總會ハ毎年十一月之レヲ開キ左ノ事項ヲ舉行ス

- 一 前年度ノ庶務財産目錄及收支決算報告
- 二 前年度ノ豫算案審議
- 三 組長ヨリ豫メ提出シタル事項
- 四 役員ノ選舉

第二十一條 總會ニ於テハ豫メ組長ヨ

第七章 雜則

第三十條 本組合員ニテ死亡シタルトキハ弔慰料トシテ金三圓ヲ贈呈ス

第三十一條 本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第三十二條 本規約ハ昭和十年十一月十七日ヨリ施行ス

第四區 本所區、深川區、向島區、城東區、葛飾區、江戸川區、足立區

第五區 品川區、大森區、蒲田區、荏原區、目黒區、世田ヶ谷區

第六區 澁谷區、澁橋區、中野區、杉並區

第七區 豐島區、板橋區、王子區、

瀧野川區、荒川區

但シ隣接地ハ當分ノ間是ノ限りニ非ス

第三條 支部ハ前條ノ區域内ニ於テ常ニ二十五名ヲ減セサル組合員ヲ以テ組織スル事ヲ得

第四條 支部ヲ設置セントスル時ハ支部規約並ニ支部員名簿ヲ添附シ本組合ニ届ケ出テ其ノ承認ヲ受クル事ヲ要ス

第五條 支部ニ於テ規約ヲ變更シ又ハ支部員ニ移動ヲ生シタル時ハ其ノ都度本組合ヘ届出テ承認ヲ受ク可シ
第六條 支部長ハ支部ヲ代表シ本組合ト聯絡ヲ執リ本組合規約第二章ノ目的ニ依ツテ協調ス
但シ支部長ハ本組合幹事ヲ兼任スル事ヲ得

第七條 支部長ハ必要ニ應シ組長ヨリノ召集ヲ受ケ其ノ諮問ニ應スルモノトス

第八條 本組合ハ當分ノ内支部ノ維持費トシテ當該支部員一名ニ付月額金拾錢ノ割合ヲ以テ支給ス
第九條 本組合ハ支部ニ對シ前條ノ支給ヲナス外其ノ會計ニ干渉セサルモノトス

東京圖書雜誌小賣業組合幹事

組長 岸 他 丑
副組長 土屋 右近
副組長 山本芳之助
淺井光之助 淺利 元治
相川 治平 青野 友三郎
伊藤 貫一 稻川 佐八

東京書籍卸業組合

所在地 神田區錦町二ノ二
電話 神田三一三九

石塚 卯三郎 市川 松之輔
植野 録夫 大川 義雄
小澤 作次郎 大塚 周吉
大曾根 銈治 川合 初太郎
木村 孝一 酒卷 修三
清水 米吉 須田 忠暉
曾根 高一郎 田村 喜一郎
高橋 又治 戸塚 倉吉
中川 治三郎 西川 嘉平
林 五郎 福島 孝太郎
福田 滋次郎 吉川 保治
本間 龍藏 松原 環
松下 喜作 三井 傳藏
芥川 金三郎 柳川 孫一郎
細谷 卯之助 杉山 三郎
橋本 義貞

東京書籍卸業組合規約

第一章 總 則

第一條 本組合ハ東京市ニ營業所ヲ有シ圖書ノ卸賣ヲ業トスル者ヲ以テ組織ス

第二條 本組合ハ東京書籍卸業組合ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第三條 本組合ハ組合員間ノ親睦ヲ篤シ無益ノ競争ヲ避ケ斯業ノ發達ヲ圖リ營業上ノ弊害ヲ矯正スルヲ以テ目的トス

第四條 本組合ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事項ヲ行フ

- 一 圖書ノ卸賣ニ關スル利害得失ヲ調査又ハ研究シ其改善ヲ圖ル事
- 二 毎年大市會ヲ開催スルコト 但シ損失ヲ生ジタル場合ハ幹事會ノ決議ニヨリ之ヲ處理ス
- 三 大市會ノ利益金ノ一部ヲ以テ店員慰安會ヲ開催スルコト

- 四 組合員ノ從業者ニシテ滿七ヶ年以上勤続セル者ヲ表彰スルコト
- 五 組合員間ノ營業上ノ紛議ヲ調停スルコト
- 六 本組合員中死亡又ハ災害ニ係リタル者有ルトキハ金員又ハ物品ヲ贈ルモノトス 弔慰金ハ拾圓トス (但シ此場合ハ返禮ヲ要セス)
- 七 前各號ノ外本組合ノ目的ヲ達スルニ必要ト認ムル事項

第二章 組 合 員

第一條 本組合ニ加入セントスル者ハ十ヶ年以上勤続者ニシテ其營業所商號氏名年齢ヲ記シ加入金貳拾圓ヲ添ヘ店主及幹事連署ノ紹介ヲ以テ申込ムヘシ
組合員ノ從業者ニシテ表彰セラレタル者ハ加入金ヲ要セス 但シ一旦脱退シタル者又ハ除名ニ處セラレタル者再ヒ加入セントスル時ハ幹事會ノ

決議ニ依リ之ヲ定ム此場合ハ加入金ヲ要ス

第二條 加入申込者ニ對シ幹事會ノ決議ニ依リ其許否ヲ決ス

第三條 組合員ハ左記各項ノ場合ニ於テ七日以内ニ之ヲ本組合ニ届出ツヘシ

- 一 營業所ノ移轉
- 二 氏名若クハ商號ノ變更
- 三 商號ノ併用若クハ廢止
- 四 廢 業

第四條 組合員ハ組合ノ經費トシテ月費金三十錢ヲ負擔ス

第五條 組合員間ニアリテハ現ニ組合員ノ使用スル商號又ハ類似ノ商號ヲ用フルコトヲ得ス 但シ先用者ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第六條 組合員ニシテ本組合ニ特ニ功勞アリタル者ハ之ヲ表彰スルコトアルヘシ

第七條 組合員ハ自己ニ關スル件ニ付
組合ヨリ出頭ヲ求メタルトキハ故ナ
ク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 組合員タル資格ハ其相續人若
クハ法律上ノ家庭ニ於テ營業ヲ繼續
スル場合ニ限り之ヲ承繼スルコトヲ
得

但シ營業ヲ讓渡シ又ハ組織ヲ變更シ
タルトキハ前營業名義人ノ權利義務
ヲ負ヒタル者又承繼スルコトヲ得
第九條 組合員ハ左ノ事由ニ依リ其資
格ヲ喪失ス

- 一 任意ノ脱退
- 二 廢業及營業ノ全部讓渡
- 三 營業所ノ組合地域外移轉
- 四 死亡若クハ法人ノ解散
- 五 破産
- 六 除名

第十條 組合員ニシテ其資格ヲ喪失シ
タル場合ニ於テハ之ニ對シ財産ノ分
配並ニ加入金ノ返還ヲ爲サス

第十一條 組合員相互ノ商取引ハ特ニ
圓滑ナ期シ必ず支拂ヲ延滞スヘカラ
ス

第十二條 組合員ニ對シ商取引ノ支拂
ヲ延滞シタル者アルトキハ被害者ヨ
リ其處分ヲ請求スルコトヲ得(但シ
此ノ場合ハ調査費トシテ金五圓ヲ要
ス)

本組合ハ委員ニ依リ調査シ事實ナル
トキハ本組合員ニ通知シ此レガ解決
スル迄取引ヲ爲ス事ヲ得ス
請求者ハ解決シタル場合ハ速ニ本組
合ニ届出ヲ爲スベシ

第十三條 組合員ノ雇人中不正行爲ニ
依リ解雇シタルトキハ雇主ハ其ノ者
ノ氏名年齢及事由ヲ速カニ本組合ニ
届出ツヘシ
本組合ハ之ヲ調査シ正當ト認メタル
トキハ一般組合員ニ通知ヲ爲スモノ

第十四條 幹事ハ諸般ノ議案ヲ審議シ且規
約第一章第四條各號ノ事務ヲ分掌
ス

第十一條 幹事會ハ其決議ニ依リ必要
ノ規程又ハ細則ヲ定ムルコトヲ得
但シ組合員共通ノ利害ニ重大ナル關
係アルモノハ特ニ總會ノ決議ヲ經ル
コトヲ要ス

第四章 會 議

第一條 會議ヲ左ノ三種トス

- 一 定時總會
- 二 臨時總會
- 三 幹事會

第二條 定時總會ハ毎年一月之ヲ開ク
一 前年度ノ庶務收支決算及財産目
録ノ報告

- 二 幹事ノ選舉
- 三 前各號ノ外豫メ組長ヨリ提出シ
タル事項

第三條 臨時總會ハ幹事會ニ於テ必要
ト認メタルトキ又ハ組合員總數三分
ノ一以上ノ同意ニ依リ其ノ目的事項
ヲ明示シテ組長ニ請求アリタルトキ
之ヲ開ク

第四條 總會ヲ招集スルトキハ開會七
日以前組長ヨリ會議ノ目的タル事項
日時及場所ヲ組合員ニ通知スヘシ
但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ通知
期間ヲ短縮スル事ヲ得總會ニ於テハ
豫メ組長ヨリ通知シタル事項ノ外議
スルコトヲ得ス

第五條 幹事會ハ毎月一回之ヲ開クモ
ノトシ組長之ヲ招集ス組長ニ於テ必
要ト認メタルトキハ臨時ニ幹事會ヲ
開クコトヲ得幹事會ハ幹事半數以上
ノ出席ヲ以テ成立ス

第六條 會議ノ議長ハ組長之ニ當ル組
長事故アルトキハ副組長之ヲ代理シ
組長副組長事故アルトキハ幹事ノ互
選ヲ以テ代理者ヲ定ム

第七條 本組合ニ特ニ功勞アリタル者
ハ幹事會ノ決議ヲ經テ總會ニ於テ相
談役ニ推薦スルコトヲ得

第六條 幹事ノ任期ハ一ケ年トス
第七條 幹事ニ當選シタル者ハ正當ノ
理由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第八條 幹事ノ缺員ヲ生シ事務ニ支障
アル場合ハ臨時總會ヲ開キ補缺選舉
ヲ行フ補缺幹事ノ任期ハ前任者ノ殘
任期間トス

第九條 幹事ハ無報酬トス但シ功勞ア
リタル者若クハ繁劇ノ事務ヲ處理シ
タル者ニ對シテハ幹事會ノ決議ヲ經
テ表彰若クハ謝禮ヲ爲スコトヲ得

第十條 役員ノ職務權限左ノ如シ

- 一 組長ハ本組合ヲ代表シ組合全般
ノ事務ヲ統轄ス
- 二 副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故
アルトキハ之ヲ代理ス
- 三 會計ハ會計ニ關スル事務ヲ掌理

第七條 組合員ハ總會ニ於テ發言及表決權ヲ有ス但シ會議ノ事項ニ關シ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其會議ニ列スルコトヲ得ス

第八條 會議ハ本規約ニ特別ノ規定アル場合ノ外出席員ノ過半數ヲ以テ其可否ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第九條 會議中議場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ議長之ヲ制止シ其制止ニ從ハサル者ハ之ニ退場ヲ命スルコトヲ得

第五章 會計

第一條 組合ノ經費ハ月費及加入金其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 緊急ノ場合ニ際シ臨時支出ヲ要スルトキハ幹事會ノ決議ヲ經テ支辨スルコトヲ得

第三條 組合ノ基金及收入金ハ幹事會ニ於テ定メタル銀行ニ寄託ス

第四條 組合ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第六章 取引規程

第一條 本規程ハ本組合員相互間及本組合員ヨリ他ノ組合員ニ係ル卸取引ヲ規律スルモノトス

第二條 註文ニ因ル取引ニ就テハ左ノ各號ニ依ル

一 掛賣ニ在リテハ毎月廿日ヲ以テ品代金及註文者ノ負擔ニ屬スル諸費用ヲ締切リ其月末ニ全額ヲ支拂フモノトス

二 發送ノ荷造費及運賃ハ註文者ノ負擔トス

三 代金引換又ハ荷爲替ニ因ル費用ハ註文者ノ負擔トス

四 註文者ハ濫リニ註文ノ取消又ハ註文品ノ返送ヲ爲スコトヲ得ス但シ現品ニ落丁綴リ違其他ノ瑕疵アリタルトキハ之カ引換又ハ修補ヲ請求スルコトヲ得

第三條 組合員ニ對シ取引上ノ債務ノ支拂ヲ延滞シ又ハ註文品ノ引取ヲ爲サス其他取引上ノ義務ヲ履行セサル者アルトキハ被害者ヨリ本組合ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第四條 組合員ト取引アル特約店ト取引スル場合ハ前取引者ノ了解ナクシテ取引スルコトヲ得ス

第七章 制裁

第一條 組合員ニシテ本規約ニ違背シタル者又ハ違約料ヲ納入セサル者月費滯納一ケ年ニ亘ル者及本組合ノ體面ヲ汚損シタル者ハ幹事會ノ決議ニヨリ左ノ制裁ヲ加フ

一 戒告

二 金壹百圓以下ノ違約料

三 除名

第二條 除名ニ處セラレタル者改悛ノ實アリト認メタルトキハ幹事會ノ決議ヲ經テ更ニ加入ヲ許スコトアルハ

本規約ハ昭和十二年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

東京書籍卸業組合評議員

組長 飯島竹次郎

副 伊東三郎

高村水之助 加藤守重

栗田 確也 關 信太郎

岩田 岩吉 風間 是宏

齋藤 熊三郎 吉田 正一

東部書籍卸業協會

所在地 東京市日本橋區吳服橋二ノ五 株式會社 林平書店方

第九章 従業員表彰規程

第八條 規約及規程ノ變更
第一條 本規約及特ニ總會ノ決議ヲ經タル規程ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第一條 本組合ハ從業者滿七ケ年以上勤續シ品行方正ニシテ業務ニ勉勵シタル者ヲ表彰ス但シ組合員ニシテ其加入後滿五ケ年ヲ經過セサル者ハ本規程ニ依ルコトヲ得ス

届出デハ雇傭主及組合員一名ノ連署ヲ以テ届出ツヘシ
期間ハ毎年九月一日ヨリ九月三十日迄トス
表彰式ハ毎年一月ノ總會ニ於テ舉行ス

東部書籍卸業協會規約

第一章 總則

第一條 本協會ハ東日本ノ地域内ニ營業所ヲ有スル書籍卸業者ヲ以テ組織ス

第二條 本協會ハ東部書籍卸業協會ト稱シ、事務所ヲ東京市ニ置ク

第三條 本協會ハ協會員ノ協同一致親睦ヲ篤シ、相互ノ利益ヲ擁護シ斯業

ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章 協會員

第四條 本協會ニ加入セントスル者ハ其營業所、商號、氏名年齢ヲ記シ、加入金百圓ヲ添ヘ紹介者タル協會員二人ノ連署ヲ以テ申込ムヘシ

第五條 本協會ハ加入申込者ニ對シ幹事會ニ於テコレヲ審査シ其可否ヲ決ス

附 則

東部書籍卸業協會

第六條 協會員ハ左記各號ノ場合ニ於テハ七日以内ニ之ヲ本協會ニ届出ツヘシ

- 一 營業所ノ移轉
- 二 氏名若クハ商號ノ變更
- 三 商號ノ併用、若クハ廢止
- 四 廢業

第七條 加入金ハ脱退其他如何ナル事情アリト雖之ヲ還付セス

第八條 協會員ハ會費トシテ毎年二十圓ヲ負擔ス

第九條 協會員間ニアリテハ現ニ協會員ノ使用スル商號ト同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ス、其ノ著シク相類似スルカ爲メニ取引上紛雜ヲ來ス虞アルモノニツキテモ亦同シトス

第十條 協會員タル資格ハ其ノ相續人若クハ法律上ノ家族ニ於テ營業ヲ繼續スルコトヲ得
但シ營業ヲ讓渡シ、又ハ組織ヲ變更シタルトキハ前營業名義者ノ權利義務ヲ負ヒタル者又承繼スルコトヲ得

第十一條 協會員ハ左ノ事由ニ依リ其ノ資格ヲ喪失ス

- 一 任意ノ脱退
- 二 廢業及營業ノ全部讓渡
- 三 死亡若クハ法人ノ解散
- 四 破産
- 五 除名

第十二條 協會員ハ販賣統制ノ爲メ東京出版協會員、大阪圖書出版業組合員、京都出版協會員、中等教科書協會員ノ發行シタル圖書ニ限り取扱フヲ原則トス但シ特殊出版物ハ此ノ限りニ非ス

第十三條 協會員ニ對シ商取引上不誠意ナル行爲ヲナシタル者アルトキハ被害者ヨリ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得、本協會ハ事實ヲ調査シタル後協會員間ノ取引ヲ中止スルハ勿論、コレヲ他ノ同業團體全部ニ申告シ支拂ノ義務ヲ取立テ爲サシム

第二十四條 協會ノ經費ハ會費、加入金、其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ
第二十五條 臨時支出ヲ要スルトキハ幹事會ノ決議ヲ經テ支辨スルコトヲ得

第六章 制裁

第二十六條 規約ニ違背シタル者ハ幹事會ノ決議ニヨリ左記各號ノ制裁ヲ加フ

- 一 戒告
 - 二 違約金
 - 三 除名
- 第二十七條 除名處分ヲ受ケタル者悔悟ノ狀アリト認メタルトキハ總會ノ決議ヲ經テ更ニ加入ヲ許スコトアルヘシ

第三章 役員

第十四條 本協會ハ協會員中ヨリ幹事十人ヲ選出シ、互選ヲ以テ會長副會長各一名ヲ選出ス

第十五條 幹事ノ選舉ハ總會ニ於テ無記名連記投票ニ依リ之ヲ行フ

第十六條 幹事ノ任期ハ一ケ年トス

第十七條 役員ノ職務權限ハ左ノ如ク定ム

- 一 協會長ハ本協會ヲ代表シ協會全體ノ事務ヲ統轄ス
- 二 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ會長事務ヲ代行ス
- 三 幹事ハ諸般ノ議案ヲ審議シ庶務ヲ實行ス

第十八條 幹事會ハ其決議ニ依リ必要ノ規程又ハ細則ヲ定ムルコトヲ得

第四章 會議

第十九條 會議ヲ分チテ左ノ三種トス

第二十八條 本協會ノ規約ハ總會ノ決議ニ依リニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第二十九條 本規約ノ變更ヲ議スヘキ總會ニアリテハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可否ヲ決ス

附則

第三十條 本規約ハ昭和十一年十月七日ヨリ之ヲ施行ス

東部書籍卸業協會幹事

- 協會長 株式會社林平書店
- 副會長 富貴堂
- 株式會社 淺見文林堂
- 株式會社 上田屋
- 同 宇都宮書店
- 大阪屋號書店
- 榊原文盛堂
- 照林堂

第五章 會計

第二十二條 總會ヲ開催スルトキハ開會七日以前協會長ヨリ議案日時、場所ヲ協會員ニ通知スヘシ

第二十三條 幹事會ハ隨時コレヲ開催ス

一 定時總會

二 臨時總會

三 幹事會

第二十條 定時總會ハ毎年一回、十月ニ之ヲ開ク

一 前年度庶務收支決算及財産目錄ノ報告

二 幹事ノ選舉

三 其他豫メ協會長ヨリ提出シタル事項

第二十一條 臨時總會ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員總數三分ノ二以上ノ同意アリタルトキ之ヲ開クコトヲ得

第二十二條 總會ヲ開催スルトキハ開會七日以前協會長ヨリ議案日時、場所ヲ協會員ニ通知スヘシ

第二十三條 幹事會ハ隨時コレヲ開催ス

第七章 規約變更

全國醫書組合

所在地 本郷區春木町三ノ三二(南江堂内)

全國醫書組合同規約

(昭和十三年六月改正)

第一章 總則

第一條 本組合ハ本邦(但シ臺灣、朝鮮、樺太ヲ除ク)ニ於テ醫書ノ出版又ハ販賣ヲ業トスル者ヲ以テ組織ス醫書ト稱スルハ醫科專屬ノ圖書全般他科學ニ屬スル圖書ト雖、醫、齒、藥、獸醫家並ニ醫、齒、藥、獸醫學生ニ必要ノモノハ總テ之ヲ包含ス

第二條 本組合ハ全國醫書組合ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第三條 本組合ハ組合員ノ親睦ヲ計リ利益ヲ擁護シ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章 組合員

第四條 本組合員ハ組合標札ヲ店頭ノ見易キ場所ニ掲クヘシ

第五條 本組合員ハ組合ノ維持費トシテ毎月金七拾錢ヲ負擔ス

第六條 本組合ニ加入申込ニハ左ノ資格ノ一ヲ要スルモノトス

一 三ヶ年以上書籍業ヲ經營シタル者

一 組合員ニ從業者トシテ七ヶ年以上勤續シタルモノニシテ營業主ノ同意アリタル者

第七條 本組合ニ加入セント欲スル者ハ第六條ノ資格ヲ有シタルモノニシテ、本組合所定ノ用紙ニ其營業所、商號ノ氏名、年齢、法人ニアリテハ

社名、代表者氏名ヲ記シ紹介者タル組合員二人ノ連署ヲ以テ加入金壹百圓ヲ添ヘ事務所ニ申込ムヘシ個人カ法人ニ變更シタル場合又ハ法人ノ性質ヲ變更シタル場合ハ新ニ加入手續ヲナスモノトス

支店、分店、出張所ハ各別ニ加入スヘキモノトス、但シ各店各所毎ニ代表者ヲ届出ツヘシ

第八條 本組合員ノ從業者ニシテ滿十ヶ年以上勤續シタルモノハ加入金ヲ半額トス

但シ營業主ノ連署シタル勤續年限證明書ヲ加入申込書ニ添付スヘシ

第九條 本組合ハ加入申込者ニ對シ役員會ニ於テ之カ可否ヲ決ス、可否決定ノ理由ニ關シテハ之レヲ發表セス

第十條 加入金ハ脱退其他如何ナル事情アリト雖之ヲ還付セス

第十一條 組合員ハ左ノ事由ニヨリテ其ノ資格ヲ喪失ス

組合長事故アルトキハ副組合長之ニ代リ副組合長事故アルトキハ常務委員ノ一人之レニ代ル

第四章 販賣及取引

第十二條 醫書ハ總テ一定賣價ヲ以テ販賣シ、總金額ノ如何ニ不拘變更スヘカラス

第十三條 本組合員ハ醫書ヲ發行シタルトキハ書名、著譯者、定價、卸價、送料、發行者(專賣品ニアリテハ發賣者)ヲ明記シ組合ニ届出ツヘシ

第十四條 組合ハ前條ノ通報アリタル時ハ之レヲ組合員ニ通知スヘシ

第十五條 既ニ發表シタル一定賣價及卸價ハ更ニ改正ノ通知ヲ經サル前其發行者又ハ發賣者ハ任意之レヲ變更スヘカラス

第十六條 取引シタル書籍ニシテ買

員五人

第十六條 役員ノ選舉ハ議長ノ指名シタル五名乃至七名ノ諮詢委員ヲ以テシ、組合長、副組合長ハ役員ノ互選ヲ以テ定ム

役員ニ缺員ヲ生シタル時ハ本務ニ支障無キ限り補缺選舉ヲ行ハス、但シ半數以上ノ缺員アル時ハ臨時總會ヲ開キ選舉ス、其任期ハ前任者ノ殘存期間トス

第十七條 役員ノ任期ハ二ヶ年トシ定期總會ニ於テ之ヲ選出ス

第十八條 役員ハ無報酬トス

第十九條 役員ハ規約上ノ處分權ヲ有ス

第二十條 役員ハ規約上ニ明文ナキ事項ト雖、役員會ノ決議ヲ以テ之レヲ處理スルコトヲ得

第二十一條 組合長ハ組合ニ關スル常務ヲ擔任シ、會計及財産保管ノ任ニ當リ副組合長及常務委員ハ之ヲ補助

一 任意ノ脱退

二 廢業

三 法人ノ解散

四 破産

五 除名

第六條 組合費六ヶ月以上滞納シタル時第十二條 組合員ノ繼承資格ハ其ノ相續人若クハ法律上ノ家族ニ於テ營業スル場合ニ限り之レヲ認ム

第十三條 組合員ハ氏名住所、代表者ノ變更、又ハ組合ヲ脱退セントスル時ハ直ニ事務所ニ届出ツヘシ、死去ノ場合ハ其遺族ヨリ届出ツルモノトス

第十四條 組合ハ違約處分又組合員ノ異動アリタル時ハ直ニ之レヲ組合員ニ通知スヘシ

第三章 役員

第十五條 本組合ハ左ノ役員ヲ置ク

組合長一人、副組合長一人、常務委

受後三週間以内ニ新版發行ノ場合ハ其殘本ハ引換テ請求スルコトヲ得、但シ汚損無キモノニ限ル

第二十七條 本組合外ノ書店ニ對スル醫書ノ割引率ハ組合員ニ對スル割引ノ半額ヲ超ユルヘカラス

第二十八條 醫書特價販賣セントスル時ハ十日以前ニ書名、特價及期日等ヲ事務所ニ届出テ同時ニ發行所ヨリ直接組合員ニ通知スヘシ

第二十九條 醫書ハ破損又ハ汚染ヲ生シ一見新本ノ體裁ヲ保チ難キモノノ外古本ト見做シ販賣スル事ヲ得ス

第三十條 本組合員ニシテ古本賣買營業者ハ其取扱フ所ノ醫書古本ハ新本ト陳列書架ヲ判然區別スヘシ

第三十一條 本組合員ニシテ支拂延滞者アリタルトキハ其被害者ハ左ノ要件ヲ詳記シ處分方ヲ本組合ニ請求スルコトヲ得

延滞金額
第三十二條 前條ノ請求アリタル場合ハ役員ハ之レヲ調査シ延滞ノ事實ヲ確メタルトキハ被請求者ニ對シ延滞金額ヲ指定日日間ニ支拂フヘキコトヲ催告スヘシ
第三十三條 本組合員外ノ書店ニシテ一定賣價ヲ亂シ販賣シタルトキハ其書店ニ對シ一切取引セサルモノトス組合ハ其商號氏名ヲ直ニ組合員ニ通知スヘシ
第三十四條 組合員ハ組合員中規約違背ノ行爲アル者ヲ發見シタルトキハ速ニ之レヲ事務所ニ通知スヘシ

第五章 會議

第三十五條 本組合ノ會議ハ左ノ四種トス
役員會、定期總會、臨時總會、仲裁會
第三十六條 役員會ハ組合事務ニ關

スル諸般ノ件ヲ議ス

第三十七條 定期總會ハ毎年壹回之レヲ開キ左ノ事項ヲ附議ス

- 一 前年度ノ庶務、收支決算等及財產目錄ノ報告
- 一 役員ノ選舉(但シ隔年)
- 一 前各項ノ外豫メ組合長ヨリ提案シタル事項

第三十八條 組合員ニシテ定期總會ニ提出希望ノ事項アル時ハ四月末日迄ニ其件ヲ組合長ニ申出ツヘシ

第三十九條 總會及仲裁會議ヲ召集セントスルトキハ開會十日前、組合長ハ會議ノ目的タル事項、日時、場所ヲ通知スヘシ、但急速ヲ要スル場合ハ通知期間ヲ短縮スルコトヲ得

總會ニ於テハ豫メ通知シタル事項ノ外、議スルヲ得ス

總會ニ出席シ難キ場合ハ委任狀ヲ以テ組合員ニ委任スルコトヲ得

第四十條 臨時總會ハ組合員貳拾人以上

上述名請求アリタル時、又ハ組合長之レヲ必要ト認メタル時開ク

第四十一條 役員會ハ役員半數以上、總會ハ組合員三分ノ一以上出席ヲ以テ成立ス(委任狀ヲ認ム)

第四十二條 會議ハ出席者半數以上ノ同意ニヨリ決ス、可否同數ナルトキハ議長之レヲ決ス

第四十三條 會議ノ議長ハ組合長之レニ當リ、組合長事故アルトキハ副組合長、副組合長事故アルトキハ常務委員ノ壹人之レニ當ル

第四十四條 議長ハ議場ヲ整理シ議事ヲ防害スル者アルトキハ之ヲ退場セシムルコトヲ得

第六章 仲裁

第四十五條 組合員間ニ營業上ニ關シ紛議ヲ生シタル場合ハ其ノ一方若クハ双方ヨリ本組合ニ其仲裁會議ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 仲裁會議ノ請求アリタルトキハ仲裁會議ヲ組織シ左記人員ヲ選出シ調停セシム役員中互選ヲ以テ選出シタルモノ三人

請求者ヨリ選出シタル組合員二人、被請求者ヨリ選出シタル組合員二人

第四十七條 仲裁會議ノ議長ハ前記役員中ヨリ互選ヲ以テ之レヲ定ム

仲裁會議ニ於テ特ニ經費ヲ要スル場合ハ實費ヲ徴收ス

第四十八條 仲裁會議ノ決定ニ對シテハ双方服従スヘキモノトス

第七章 制裁

第四十九條 規約違背處分ハ左ノ四種トシ事情ニヨリ併加シ行フコトアルヘシ

- 一 譴責
- 二 違約金 貳百圓以下
- 三 取引停止 三ヶ月以内
- 四 除名

第五十條 左ノ各項ニ該當スルモノハ除名ス

- 一 二回以上違約金若クハ取引停止處分ヲ受ケ尙ホ違背シタルトキ
- 二 延滞金ヲ皆済スヘキ通告ヲ受ケ其指定日時内ニ皆済セサルトキ
- 三 仲裁會議ノ決定ニ服従セサルトキ
- 四 違約金ノ徴收ニ應セサルトキ
- 五 本組合ノ體面ヲ汚損シタルトキ

第五十一條 除名處分ヲ受ケタル者悔悟ノ狀アリト認メタルトキハ處分後六ヶ月以上ヲ經テ加入ヲ許スコトヲ得

第五十二條 前條ノ加入ヲ許可スル場合ハ本組合員三名ノ連署ヲ要シ更ニ加入金ヲ徴收ス

第八章 規約變更

第五十三條 本組合ノ規約ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ變更スルコ

トナ得ス
 第五十四條 本規約ノ變更ヲ議スヘキ總會ニアリテハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可否ヲ決ス
 附 則
 第五十五條 本規約ハ昭和十三年六月七日ヨリ之ヲ施行ス

東京古書籍商組合

所在地 神田區小川町三ノ二二二
 電話 神田二六九五

東京古書籍商組合規約

第一章 總 則

第一條 本組合ハ東京古書籍商組合ト稱ス
 第二條 本組合ハ古書籍業者ヲ以テ組織ス
 第三條 本組合ハ組合員協力ニ依リテ

全國醫書組合常務委員
 會長 小立鉦四郎
 副 今井甚太郎
 淺井光之助 林 武次
 山口徳次郎 横山 大槌
 丸善株式會社

斯業ノ發達ヲ計リ營業上ノ弊害ヲ矯正シ組合員ノ利益ト親睦ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條 本組合ノ地域ハ東京府管内トス、但シ島嶼ヲ除ク
 第五條 本組合ハ事務所ヲ東京市神田區小川町三丁目二十二番地ニ置ク
 第六條 本組合ノ目的事業法ノ如シ

- 一 機關誌ノ發行
- 二 相談部ノ設置
- 三 斯業ニ關スル諸問題ノ研究
- 四 全國ノ古書籍商組合トノ相互連絡
- 五 從業者ノ保護獎勵
- 六 修養、共濟、保健、娛樂機關ノ設置
- 七 功勞者ノ表彰
- 八 組合員間ノ營業上ニ關スル紛議ノ調停
- 九 組合員ノ災害死亡ニ對スル慰問

第二章 加入

第七條 本組合ニ加入セントスル者ハ所定ノ申込書ニ氏名、履歷、商號、住所並ニ營業所ノ所在地ト店員ノ數ヲ明記シ、組合員三名（内二名ハ其區ノ役員）連署ヲ以テ營業許可書寫シ並ニ店舖所在地附近ノ略圖（露店ハ不要）ヲ添ヘ組合事務所ニ申込ム

ヘシ
 分店支店ハ各別ニ加入スヘシ
 第八條 本組合ハ加入申込ニ對シ調査ヲナシ役員會ニ於テ審議ノ上認否ヲ決ス、加入ヲ承認シタルトキハ組合員名簿ニ登錄シ加入者ニ通知ス

第三章 組 合 員

第九條 組合員ハ本組合ノ經費ヲ負擔スル義務アルモノトス
 第十條 組合員ニシテ書籍交換市會ヲ組織セントスルトキハ本組合ノ承認ヲ要ス
 第十一條 組合員ノ經營スル交換市會ニテハ本組合員外ノ者ト取引スルコトナ得ス
 第十二條 交換市會ニ關スル規定ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム
 第十三條 組合員ハ本組合ノ規約並ニ決議ヲ遵守スルモノトス
 第十四條 組合員ハ總會ニ於テ議案ヲ

審議シ且ツ建議ヲナスコトナ得、但シ建議ハ總會ノ三日前迄ニ書面ヲ以テ組合長ニ差出スヘシ
 第十五條 組合員ニシテ本組合ニ功勞アリタル者ハ役員會ノ決議ヲ經テ表彰スルコトアルヘシ
 第十六條 組合員ニシテ左ノ事項ニ該當スルモノハ組合員ノ資格ヲ失フ
 一 一ケ年以上月費ヲ怠リタル者
 二 破産ノ宣告ヲ受ケタル者
 但シ復權シタル者ハ改メテ加入シ得ルモノトス
 三 本組合ノ承認ヲ經スシテ店舗ヲ移轉シタル者
 四 組合地域外ニ移轉シタル者
 五 破廉恥罪ニ依リ處刑セラレタル者
 第十七條 脱退又ハ規約ニ依リ組合員ノ資格ヲ失ヒタル者ハ本組合財産ノ分配ヲ請求スルコトナ得ス
 第十八條 組合員ハ事務ノ妨ケナキ限

リ組合備付ノ帳簿ノ閲覧ヲ求ムルコトナ得
 第十九條 組合員ハ組合員間ニ於ケル營業上ノ紛議ニ關シ本組合ニ其調停ヲ求ムルコトナ得
 第二十條 組合員相互間ニ於テ取引上ノ義務ヲ履行セサルモノアルトキハ細則第七章ノ規定ニ依リ之ヲ處理ス
 第二十一條 組合員ハ本組合公認市場ノ相場及ヒ其ノ標準相場ヲ公表シ又ハ公表セシムルコトナ得ス
 第二十二條 組合員ハ書籍買入廣告ニ價格ヲ記載スルコトナ得ス、但シ本組合ノ承認ヲ得タルモノハ此限りニアラス
 本條及ヒ前條ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム
 第二十三條 組合員ノ刊行スル印刷物ニ組合員以外ノ者ノ書籍買入廣告ヲ掲載スルトキハ前條ニ準ス
 第二十四條 組合員ハ自己ニ關スル件ニ付キ組合ヨリ出頭ヲ求メタルトキ

ハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 組合員ニシテ出征スル者、災害ヲ受ケタル者、死亡シタル者アルトキハ共濟規定ニ從ヒ所定ノ見舞金又ハ弔慰金ヲ贈呈スルモノトス

第二十六條 組合員ハ本組合ニテ交付シタル標章ヲ店頭ニ掲出スヘシ

第二十七條 組合員ハ左記各項ノ場合ニ於テハ之ヲ組合ニ届出テ其ノ承認ヲ經ヘシ
一 名義ノ變更(警察署ノ指令ノ寫シヲ添ユルコト)
二 店舗ノ移轉(附近ノ略圖ヲ添ユルコト)

三 商號ノ變更又ハ併用

第二十八條 組合員名義ノ變更ハ法律上ノ家族ニ繼承スルトキニ限り之ヲ認ム

第二十九條 組合員ハ左ノ場合ニハ直チニ組合ニ届出ツヘシ

一 施行細則第三十二條ニ該當スル事項

二 廢業又ハ脱退セントスルトキ

第三十條 組合員ハ本組合員雇傭中ノ從業者ヲ其雇主ノ承諾ナクシテ雇入ルコトヲ得ス雇主ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十一條 組合員ニシテ店員ヲ雇傭シタルトキハ其氏名、本籍、生年月、及雇入ノ年月ヲ明記シ六ヶ月以内ニ届出ツヘシ

第三十二條 前條ノ届出チナシタル店員ヲ解雇シタルトキハ其旨直チニ届出ツヘシ

第四章 役員及役員選舉

第三十三條 本組合ハ組合員中ヨリ役員三十五名ヲ選出ス

選舉區域及定員ハ左ノ如ク定ム
第一區 麹町區 神田區 日本橋區 八名
京橋區

第二區 牛込區 四谷區 淀橋區

中野區 杉並區 世田谷區 八王子市南多摩郡 北多摩郡 西多摩郡 七名

第三區 麻布區 芝區 赤坂區 荏原區 澁谷區 品川區 目黒區 蒲田區 大森區 七名

第四區 本郷區 小石川區 豊島區 板橋區 王子區 瀧野川區 七名

第五區 下谷區 淺草區 本所區 深川區 城東區 向島區 荒川區 足立區 葛飾區 江戸川區 六名

第三十四條 役員ハ互選ナシテ組合長一名 副組合長二名 庶務一名 會計二名 評議員若干名ヲ定ム

組合長ハ本組合ヲ代表シ其ノ事務ヲ統轄ス

副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事

スルトキハ同一選舉區内ノ組合員十名以上連署ヲ以テ所定ノ期間中ニ其旨届出チナスヘシ
候補者ノ推薦ハ定員ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十六條 前條ノ推薦者ハ被推薦者ノ員數ニ拘ハラス他ノ組合員ヲ重ねテ推薦スルコトヲ得ス

第四十七條 第四十四條、第四十五條ノ候補者ハ第四十三條ノ期日後五日以内ニ本人ヨリ其ノ取消チナスコトヲ得

第四十八條 第四十四條、第四十五條ノ規定ニ依リ届出アリタル候補者其區ニ於ケル役員ノ定數ヲ超ヘサルトキハ其選舉區ニ於テハ投票チ行ハスシテ候補者ヲ當選者トス

第四十九條 役員ノ任期ハ二ケ年トシ再選チ妨ケス

第五十條 役員中缺員チ生シタルトキハ其選舉區ノ次點者ヲ以テ之ニ充ツ

投票スルコトヲ得ス

第四十條 左ノ投票ハ無効トス
一 所定ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
二 氏名ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉資格ナキモノ
四 候補者ノ届出ナキモノ

第四十一條 組合長ハ各區一名ノ選舉長ヲ定メ選舉長ハ選舉委員並ニ選舉立會人ヲ定ム

第四十二條 選舉長ハ選舉ノ日時及場所ヲ定メテ之ヲ行ヒ當選シタル役員ノ氏名ヲ遲滞ナク組合長ニ通知スヘシ

組合長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ通知スルモノトス

第四十三條 役員候補者届出ノ期日ハ月報又ハ文書ヲ以テ組合員ニ通告ス

第四十四條 役員候補者タラントスル者ハ第四十三條ノ期間中ニ其旨文書ヲ以テ組合事務所ニ届出ツヘシ

第四十五條 役員候補者ヲ推薦セント

故アルトキ之ヲ代理ス

評議員ハ組合長ノ諮問ニ應ジテ組合事項ヲ審議シ業務執行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

第三十五條 本組合ニ特ニ功勞アリタル者ハ役員會ノ決議ヲ以テ相談役ニ推薦スルコトヲ得

相談役ハ終身トシ職務權限ハ役員ニ同ジ

第三十六條 本組合ニ顧問ヲ置クコトヲ得

第三十七條 左記ノ者ハ役員タルコトヲ得ス
一 組合加入後三ケ年ヲ經サル者
二 違約處分ヲ受ケ二ケ年ヲ經サル者

第三十八條 役員ノ選舉ハ各區ニ於テ選舉會ヲ開キ無記名連記投票チ行ヒ候補者中得票多キモノヲ當選者トス

得票同數ナルトキハ年長者順トス

第三十九條 役員ノ選舉ハ代人チ以テ

補缺役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

但シ任期ノ三分ノ一ヲ經過シタルトキハ補任セサルモノトス

第五十一條 一選舉區域ノ役員ニシテ三分ノ一以上ノ缺員ヲ生シタルトキハ其區ニ於テ補缺選舉ヲ行フ

第五十二條 役員ハ故ナク役員會及委員會ニ三ヶ月以上缺席シタルトキハ役員ノ資格ヲ失フ

第五十三條 本組合ノ役員ハ名譽職トス但シ職務ヲ用フ爲費用ヲ要シタルトキハ其實費ヲ支辨ス

第五章 會議

第五十四條 會議ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 定期總會
- 二 臨時總會
- 三 役員會

第五十五條 定期總會ハ毎年一月之ヲ開ク臨時總會ハ組合長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ會議ニ付スヘキ事項ヲ示シ請求アリタルトキ之ヲ開ク

前項ノ請求ニ對シ十日以内ニ組合長總會招集ノ手續ヲ採ラサルトキハ請求者之ヲ招集スルコトヲ得

第五十六條 役員會ハ毎月一回之ヲ開ク

但シ組合長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時役員會ヲ開クコトヲ得

第五十七條 各會議ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

總會

- 一 規約變更ニ關スル件
- 二 經費豫算並ニ組合費賦課ニ關スル件
- 三 其他組合全般ニ亙ル重要事項

一 總會ニ附議スル議案ノ審査

二 總會ニ報告スヘキ組合收支ノ決算及業務成績

三 規約ヲ施行スルニ必要ナル諸規定ノ制定及變更

四 官廳ニ對シ營業上ニ關スル建議又ハ官廳ヨリ受ケタル諮問ニ關スル件

五 違約者處分又ハ仲裁調停ニ關スル件

六 組合加入ノ承認其他組合長ニ於テ必要ト認ムル件

第五十八條 總會會議ハ五日以前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ通知スルモノトス、但シ緊急已ムヲ得サル場合ハ此限リニアラス

第五十九條 會議ノ議長ハ組合長之ニ當ル

第六十條 會議ノ事項ニ關シ特別ノ利害關係アル者ハ表決ノ數ニ加ハルヲ得ス

第六十一條 會議ハ本規約ニ別段ノ定アル場合ノ外出席者ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六章 會計

第六十二條 組合ノ經費ハ月費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第六十三條 本組合ノ會計年度ハ毎年十二月一日ニ始マリ翌年十一月三十日ニ終ルモノトス

第六十四條 緊急ノ場合ニ際シ豫算外ノ支出ヲ要スルトキハ役員會ノ決議ヲ經テ支辨スルコトヲ得

第六十五條 經費決算ハ年度經過後一ヶ月以内ニ之ヲ完了シ決算報告書ヲ作成シ業務成績ト共ニ監督官廳ニ報告シ且ツ組合員ニ公示ス

第七章 違約處分

第六十六條 本組合員ニシテ規約ニ違

反シタル者アルトキハ役員會ノ決議ヲ經テ左ノ違約處分ヲ行ヒ月報ヲ以テ之ヲ發表ス

第一項 規約第十條、第十一條、第十三條、第二十一條、第二十二條、第二十三條、第三十條ノ規定ニ違反シタルトキハ組合長ヨリ戒告ヲ發シ肯セサル者ハ遣責ニ處ス

第二項 規約第十一條、第二十一條、第二十二條、第二十三條、第三十條、第七十三條ノ規定ニ違反シテ本組合ノ遣責ヲ受ケタル者改悛ノ意ヲ表セス遣責ノ原因又ハ理由ヲ除去セサルトキハ拾圓以上百圓以下ノ過怠金ニ處ス

第三項 規約第十條、第十三條、第二十二條、第二十三條、第三十條ノ規定ニ違反シテ遣責ヲ受ケタル者其行爲ヲ改メスシテ違反ヲ重ネタルトキ及ヒ本條第二項ノ過怠金

チ組合ニ納入セサル者ハ除名ス第六十七條 除名處分ヲ受ケタル者ニシテ改悛ノ實アリト認メタルトキハ一ヶ年ヲ經テ組合員三名以上ノ保證ノ下ニ改メテ加入ヲ許スコトアルヘシ第六十八條 本章ノ處分ハ組合長之ヲ行ヒ文書ヲ以テ違約者ニ通知ス

第八章 店員

第六十九條 本規定ニ於テ店員ト稱スルハ組合員ノ雇傭スル從業者ヲ云フ第七十條 組合員ハ毎月一日以上ノ休暇ヲ店員ニ與フルモノトス

第七十一條 本組合ハ店員獎勵ノ趣旨ニ依リ滿七ヶ年以上勤続シタル者ニ對シテハ賞狀ヲ贈與シ其功ヲ表彰ス

第七十二條 組合員ノ店員ニ左記ニ該當スル不正行爲アリシ爲之ヲ解雇シタルトキハ其者ノ氏名、年齢、及理由ヲ附シ本組合ニ申告スヘシ

一 破廉恥的行爲アリタルトキ
二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第七十三條 前條ノ場合ニ於テハ本組合ハ之ヲ調査ノ上事實ト認メタルトキハ之ヲ組合員ニ通知ス
組合員ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ六ケ月間其者ヲ雇傭スルコトヲ得ス
但シ期間内ト雖モ申告者ヨリ解除ノ申込アリタルトキハ此限ニアラス
本條ニ依リ要シタル費用ハ申告者之ヲ負擔スルモノトス

第九章 規約變更

第七十四條 本規約ノ變更ハ總會ニ於テ組合員總數ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ之ヲ決議シ府知事ノ認可ヲ受ケルモノトス
但シ定數ニ違セサルトキハ假決議ヲナスコトヲ得 此場合ニ於テハ組合員ニ其假決議ノ趣旨ヲ通知シ更ニ第一

二回ノ總會ヲ召集スルコトヲ要ス、
第二回ノ總會ニ於テハ出席組合員ノ過半数ヲ以テ假決議ノ諾否ヲ決ス

組合規約施行細則

第一條 本細則ハ組合規約ヲ施行スル爲規定ス

第一章 加入金及組合費

第二條 本組合規約第七條ニ依リ組合ニ加入セントスル者ハ加入金參拾圓ヲ添ヘ申込ムモノトス

第三條 本組合ノ勤績表彰者ニハ前條ノ加入金ヲ免除ス 但シ退店後一ケ年、開業後三ヶ月以内ニ加入申込ヲササル者又ハ一旦脱退シタル者ハ此限ニアラス
第四條 加入並ニ移轉ハ左記條項ニ該當セサルトキハ之ヲ承認セス
一、移轉並ニ加入申込者ノ店舖ハ組

合員ノ店舖ヨリ百五十メートル以上ノ距離ヲ置クコト
二 本組合勤績表彰者ノ加入ハ第一項ノ距離ヲ百メートル以上隔ツルコト
三 本組合加入後三ケ年ヲ經過シタル組合員ノ移轉ハ他ノ組合員ノ店舖ヨリ七十五メートル以上隔ツルコト
但シ本條ニ牴觸スルモ最モ近接セル組合員二名(一名ノ場合ハ一名)ノ承諾アルトキハ此限ニアラス

第五條 組合員ヨリ其店舖ヲ讓受ケテ加入又ハ移轉スル者及店舖ヲ有セサル者ノ加入ニハ第四條ヲ適用セス
第六條 新ニ組合員ヲラントスル者ハ現ニ組合員ノ使用スル同一商號ヲ使用スルコトヲ得ス
但シ先用者ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニアラス
第七條 組合員ノ負擔スヘキ月費ヲ左

ノ五種トス
一 店舖ヲ有セサル者又ハ店舖ヲ有スルモ店員ヲ使用セサル者 金參拾錢
二 店員二名迄ヲ使用スル者 金五拾錢
三 店員三名以上ヲ使用スル者 金八拾錢
四 店員五名以上ヲ使用スル者 金壹圓貳拾錢
五 店員拾名以上ヲ使用スル者 金貳圓

但シ店員ノ數ハ年度始メノ現在ニ依ル
第八條 會費ノ賦課及集金方法ハ役員會之ヲ定ム

第二章 徽章佩用

第九條 組合員ハ同業者ノ集會又ハ市會ヘ入場ノ際ハ必ラス徽章ヲ佩用スルモノトス

第十條 徽章ハ絕對ニ他人ニ貸與又ハ讓渡スルコトヲ得ス

第十一條 徽章紛失ノ際ハ其區ノ役員ノ證明ヲ得テ實費ヲ納メ再交付ヲ求ムルコトヲ得
第十二條 脱退又ハ廢業ノ際ハ直ニ徽章ヲ組合ニ返納スヘシ

第三章 交換市會

第十三條 交換市會トハ主トシテ古書籍ヲ賣買スル市會ニテ定期又ハ臨時ニ開催スルモノヲ云フ

第十四條 交換市會ハ本組合ノ承認ヲ得シテ開催スルコトヲ得ス

第十五條 交換市會ハ同一區内又ハ隣接區内ニ既設市會アルトキハ同日ニ開催スルコトヲ得ス 但シ其既設市會ノ承諾書ヲ得タルトキハ此限ニアラス
第十六條 交換市會ハ定期臨時ヲ問ハズ組合員ニ非サル者ヲ會員トナスコ

トヲ得ス
第十七條 組合員ニシテ交換市會ヲ開設セントスルトキハ所轄署ノ許可ヲ受クル以前ニ左記條項ニ基キ文書ヲ以テ本組合ニ承認ノ申請ヲナスモノトス
一 市會ノ名稱、開催ノ場所、日時ヲ明記スルコト
二 市會ノ規約並ニ會員全部ノ氏名及代表者ノ氏名ヲ届出ツルコト
三 施行細則第十五條ニ該當スルトキハ其承諾書ヲ要ス
四 申請ト同時ニ調査費金拾圓也ナル本組合ニ納入スルコト
但シ不承認ノ場合ト雖モ之ヲ返還セス

第十八條 交換市會承認ノ申請アルトキハ本組合ハ當該委員ニ於テ之ヲ調査シ役員會ニ於テ審議ノ上之ヲ決ス
第十九條 前條ニ依リ承認ト決シタルトキハ假承諾書ヲ交付ス

第二十條 假承認書ヲ受ケタル交換市會ハ所轄警察署ノ許可書ノ寫シニ承認料金貳拾圓也ヲ添ヘ直ニ本組合ニ届出ツヘシ本組合ハ之ヲ受理シテ承認書ヲ交付ス

第二十一條 交換市會ニシテ組合規約第十一條ニ違反シタルトキハ其全會員ニ組合規約第六十六條ヲ適用ス

第二十二條 交換市會ハ名稱ノ變更、規約ノ改正、代表者並ニ會員ノ異動、休會又ハ解散シタルトキハ直チニ本組合ニ届出ツヘシ

第二十三條 交換市會ノ場所、日時ヲ變更セントスルトキハ本組合ノ承認ヲ要ス

第二十四條 前條ノ變更力細則第十五條ニ牴觸スル場合ハ但書キノ承諾書アルニ非サレハ承認セサルモノトス

第二十五條 交換市會ニシテ三ヶ月以上休會シタルトキハ解散シタルモノトス

但シ第四項ハ本組合ノ地域外ニ於ケル營業所ノ罹災ニハ適用セズ

第三十三條 組合員ニシテ入替又ハ出征シタルトキハ歸還マテ組合費ヲ免除ス

第三十四條 左ニ該當スルモノハ第三十二條ヲ適用セズ
一 組合月費六ヶ月以上滞納シアル者
二 無届移轉場所ニ於ケル水火災
三 事實發生後三ヶ月以上ヲ經タルモノ

第三十五條 共済部豫算ニ剩餘金ヲ生シタルトキハ共済部基金トシテ別途ニ之ヲ積立ツルモノトス

東京古書籍商組合規約

第二十六條 組合員ハ本組合ノ承認シタル交換市會以外ノ市會ニ於テ賣買ヲ行フコトヲ得ス

第二十七條 他府縣ノ同業者ニシテ本組合ノ承認シタル交換市會ニ於テ賣買ヲ行フ者ハ本組合員ノ紹介ヲ要ス

第二十八條 組合員ニシテ臨時交換市會ヲ開催セントスルトキハ三日以前ニ本組合ニ届出ツルモノトス

第二十九條 組合公認市場ノ相場ハ本組合ノ刊行物ニ限リ之ヲ發表スルコトヲ得ス

第四章 相場公表

第三十八條 共済部委員ハ組合規約第二十九條第一項ノ申告アリタルトキハ速カニ現狀ヲ調査シ、委員會ノ決議ヲ經テ共済金ヲ贈ルモノトス

第三十九條 組合員ハ共済部委員會ノ決議ニ對シ異議ノ申立ヲナスコトヲ得ス

第六章 表彰

第四十條 本組合ノ役員ニ七年以上在任シタル者ニハ記念品ヲ贈呈シテ其功ヲ表彰ス

第四十一條 組合規約第七十一條ノ資格ヲ有スル者アルトキハ其雇主ハ十月一日ヨリ同月末日迄ニ店員ノ原籍、氏名、年齢、雇傭年月日等ヲ所定ノ用紙ニ記載シ、履歷書ヲ添ヘ組合員二名ノ保證ヲ以テ本組合ニ届出

第三十條 組合員ニシテ組合規約第二十二條ノ承認ヲ得ントスルトキハ其全文及期間方法ヲ記載シタル書類ニ通テ組合ニ届出ツヘシ

第三十一條 前條ノ届出アリタルトキハ之ヲ受理シタル日ヨリ五日以内ニ當該委員之ヲ處理ス

第五章 共済部

第三十二條 本組合規約第六條第六項、第九項及第二十五條ニ依リ左ニ該當スル申告アリタルトキハ左記金額ヲ贈リ慶弔慰問ス

- 一 組合員ノ死亡 金參拾圓
- 二 組合員ノ配偶者、父母、十五歳以上ノ相續人ノ死亡 金拾圓
- 但シ其組合員ノ居室ニ於テ葬儀ヲ營ムモノニ限ル
- 三 組合員ノ出征 金拾圓

第四十二條 本組合ハ前條ノ届出ニ對シ役員會ノ審議ヲ以テ之ヲ決ス

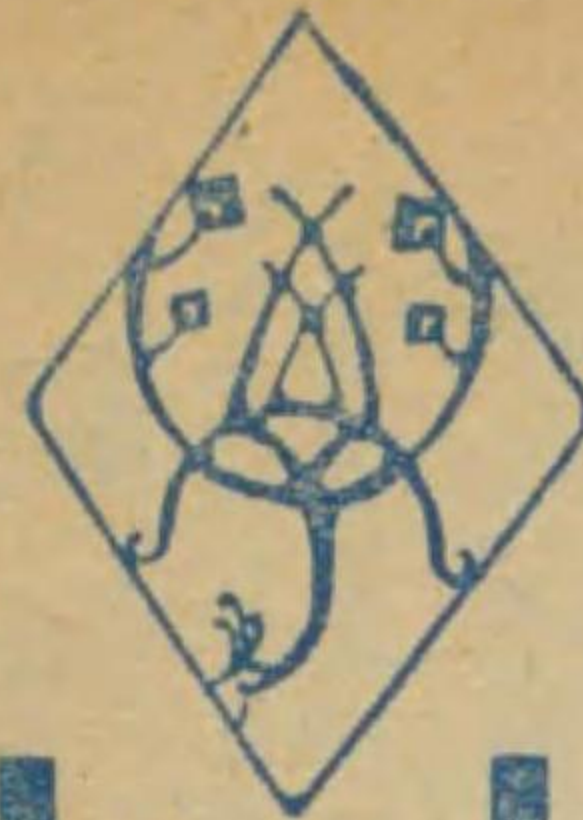
第四十四條 店員ノ勤続年限本章ノ規定ニ該當スルモ雇主本組合へ加入後三ヶ年ニ滿タサルトキハ表彰ノ規定ヲ適用セズ

第四十五條 褒賞狀ハ毎年定期總會ニ於テ之ヲ授與ス

第四十六條 店員ノ勤続年限算定ハ左ノ各項ニ依ル
一 年限ノ算定ハ雇傭年月日ヨリ起算シ其年度ノ十月末日迄ヲ通算ス
二 年齢十二歳未滿ニテ雇傭セラレタル者ハ滿十二歳ヨリ起算ス
三 店員勤続中兵役ニ服シタル者ハ服役年限ヲ通算ス

第七章 相談部及調停

第四十七條 相談部ハ組合員ノ營業上其他難事ニ遭遇セル場合申出ヲ候ツ



!! 書習學るせ實充の力神
!! るあで書の良い最るふ與

豫習に、復習に、受験に参考に最適の書!!

便學 覽習 理科辭典	便學 覽習 國史辭典	便學 覽習 地理辭典	便學 覽習 日用辭典	便學 覽習 知識の寶庫
近辭の理 の典手引 科にしに 學をい 會てい 得本も せ書役 し一立 む冊つ に便 て利 最な	御要神 歴代な 表の事 を柄 彙年一 録表切 すやを 系載 圖等 の有 益	列様地 した十 地音般 理順に 學よく 習日本 辭必要 典な地 事理 柄と を配	外纂國 來語と 新凡 語最 辭二 典萬 附語 の 字讀 引方 と 附解 録釋	小成小 學全學 科の要 點を 巧みに 集 めて ポ ケ ッ ト 型 美 裝
四 ポ ケ ッ ト 型 美 裝 金 二 十 五 錢	四 ポ ケ ッ ト 型 美 裝 金 二 十 五 錢	四 ポ ケ ッ ト 型 美 裝 金 二 十 五 錢	三 ポ ケ ッ ト 型 美 裝 金 二 十 五 錢	四 ポ ケ ッ ト 型 美 裝 金 二 十 五 錢

ト ン セ ー バ 百 率 果 効 習 自

精たし即到活生の童兒
に兒愛そこれこ

學小 國史繪卷年表	尋常 高等 小學國史繪圖	參 考 受 驗 各科の研究	模 範 大全科學習書
國史繪卷年表の是非必要なる國史繪卷年表に	兒童の直感に訴へる國史附圖豪華版	主要七科目(修・讀・綴・地・國・理・算)の研究書に與へらるる唯一の高級參考書	小學教科書に準據し、詳細懇切なる解説を施した理想的模範參考書であつて、よく自學自習の効果を得しむ。
尋五 金二十八錢	尋五 金四十五錢	尋四 金七十錢	尋一より各尋四まで 各金四十錢 各金六十錢

小學參考書は學習社!!

學習社の參考書は——
小學兒童の糧として、その聲價全國に普く諸學校の指定は年々加速的に激増しつつあります。これ一つに我が社の犠牲的出版良心の賜であります。



よ輯編るな朗明鮮新

本社 東京・神田・神保町一ノ一
支店 大阪・西區・阿波座下通二ノ六
株式會社 學習社
振替口座東京七三八七七番
振替口座大阪三〇九二五番

萬葉集講座 全六卷

菊判 各冊二圓 送料 廿二錢

佐佐木信綱 三博士
藤村 作 責任監修
吉澤 義 則

▼第一卷作者研究篇▼第二卷研究方法篇▼第三卷言語研究篇▼第四卷史的研究篇▼第五卷萬葉美論篇▼第六卷編纂研究篇

論語講座 全六卷

菊判 クロース函入り 定價各冊二圓 送料十四錢

高田眞治先生
諸橋轍次先生 責任編輯
山口察常先生

▼第一卷論語解釋(前)▼第二卷論語解釋(後)▼第三卷論語文獻・註釋書▼第四卷論語人物考▼第五卷孔子思想・傳記及年譜▼第六卷儒教の史的概観

孔子傳

大東文化
學院教授 岡村利平著
四六判洋布裝
定價一圓二角
送料十四錢

著者は汎く讀者を涉獵し、孔子を自家樂館中のものとして、先づ孔子を生んた社會の情勢を述べ、孔子の思想によつて來る所を詳かにし、勤勞の一生を叙し、附するに弟子傳教の蹟を以てした。叙述は平易明快、趣味と實益に富み、孔子傳中最高的ものたることを信する。

老子の研究

法學博士 鶴澤總明著
菊判 八〇〇頁
定價五圓
送料三圓二錢

數十年、老子研究に没頭せられ、斯道最高の權威たる博士がその精到無比なる老子文獻の大集成と、明確な批判、一として餘すなき種々の文獻資料を網羅して打撈せられたる支那學研究の一大記念碑である。正に老子研究の世界的名著であり「道」無等の難解晦澁なる思想を氷解し、今日の思想的混迷を指導せんとするもの。東和思想の究明は本書に依つて確定せられたと云ふべきである。

國府犀東著

漢詩鑑賞

四六判洋布裝
定價一圓二角
送料十四錢

關する處支那及本土の古今の名詩三百篇、一々難語・訓讀注意事項を掲げて註解し、併せて大意をも詳述した。就中尤も特色とする處は、一篇の句法成立に就きて類型・異同・出典等を引例して懇切解説せる點であつて、單に鑑賞を説くのみならず、「漢詩作法入門」の書ともなり得べきものである。

支那語講座 全五卷

二七六

定價各一圓二十錢 送料十五錢

- 第一卷 發音・會話 東京外語教授 杉 武夫
- 第二卷 文法・作文 前大阪商大教授 杉 武夫
- 第三卷 讀本 東京外語教授 神谷 衡平
- 第四卷 時文 大阪商大教授 有馬 健之助
- 第五卷 書簡文・論文 早稻田大學講師 渡 俊治

東洋醫藥叢刊 全十六卷

定價各冊五圓 送料三十三錢

- 貝原益軒撰 大和本草 二冊 理博 故 木村博 昭釋義
- 小野蘭山撰 本草綱目醫藥 四冊 理博 故 木村博 昭釋義
- 張機撰 傷寒論金匱要略 二冊 理博 故 木村博 昭釋義
- 黃帝岐伯撰 素問 三冊 理博 故 木村博 昭釋義
- 丹波康賴撰 醫心方 五冊 理博 故 木村博 昭釋義

日本漢詩

齊藤 响著
四六判二八〇頁
定價一圓四角
送料十四錢

本書の内容をなすテーマはまた何人によつても正當に採り上げられてゐない王朝時代の漢詩は今日の一般の教養からは全く閑却されてゐる。我々の遠い祖先が形式に於て一種獨特の美を創造した。普通に考へられてゐるやうな單なる文字の羅列でもなければ、また單なる外國文字の模倣剽竊でもなく、我が民族の裡に潜む詩情が、如何にして漢詩の表現をつたかゞ云ふのが本書の解明せんとするテーマである。斯道に誇るべき快著と信する

寬 克彦著

皇國精神講話

定價二圓四角
送料二圓

國家の研究

定價三圓五十錢
送料二圓

日本體操

定價一圓五十錢
送料十錢

三千年の歴史に輝く日本精神文化が歐米諸國に於ても熱心に研究さるゝ今日日本精神本來の理論的哲學的基礎に立脚せる本書を逸する勿れ。

石丸梧平著

喜び生きる人生

四六判函入り
定價一圓三十錢
送料十四錢

人生の目的は喜び生きることである。正しい人生觀を創造し苦惱に満つる涙を一洗せよ。本書は人生の目的を明快に示し、目的達成の方法を自由自在に説いたもの。諸家の絶讃を博し、忽ち十五版を重ねた快著。

第一部 人生とは何ぞや
第二部 喜び生きる方法論
第三部 人生苦の整理
第四部 戀愛論
二七七

支那南畫大成 全廿二卷

特價各六圓五十錢・送料各三十錢
全廿二冊一時拂金百卅六圓に割引

蘭竹 菊附四君子 大版山水
梅花・水仙 大版
花卉・樹石 長卷一、二
花卉・蔬果 清十一家山水集錦
花卉・翎毛・蟲魚 清十六家山水集錦
人物・動物 吳魯平・趙之謙 花卉集錦
山水扇面 補遺
山水軸一、二 題跋集上、下

支那墨蹟大成 全十二卷 四六四倍判
特價各六圓五十錢・送料各三十錢
全十二冊一時拂金七十四圓に割引

手卷一(六朝・唐) 冊頁三(尺幅)
手卷二(唐・宋) 條幅
手卷三(宋・元) 對聯・屏條
手卷四(明) 扇面・橫幅・扇額
冊頁一(連頁) 補遺一
冊頁二(短頁) 補遺二

帝國兵書刊行會

陸軍步兵中佐 澁川鑑一郎編	步兵須知	六〇
陸軍騎兵少佐 坂貞次編	騎兵須知	七〇
陸軍砲兵中佐 塚越照編	野砲兵須知	七〇
陸軍砲兵中佐 塚越照編	騎砲兵須知	七〇
陸軍輜重兵少佐 河谷庄吉編	輜重兵須知	七〇
陸軍工兵少佐 松林義之編	工兵須知	七〇
陸軍輜重兵少佐 河谷庄吉編	特務兵須知	五〇
陸軍軍醫少佐 高宮精編	衛生兵須知	七〇
兵書刊行會編	勅諭勅語集	一〇

金甲社紙芝居刊行會

小學校入學と受験準備書 昭和十四年版(二十版)
改訂版 全五冊函入 定價一圓三十錢
幼稚園入學の準備 昭和十四年版(三版)

幼稚園メンタルテスト
四六倍版附圖ツキ 定價九十錢

幼稚園テスト
濱田廣介先生監輯(全十輯)

幼稚園紙芝居 第二期
定價各冊 金壹圓卅錢
送料十四錢

幼稚園
日曜學校
低學年用

ピーター兔 七匹の山羊
おむすびころりん ハンスの寶
軍用犬のてがら 三匹の熊
からす勘兵衛 赤んぼばあさん

名碑と臨書

漢碑集(三碑)	全一冊五十錢	智永書	楷書千字文	一冊十錢
北魏集(十六碑)	二冊三十錢	同	上田桑鳩先生	一冊十錢
唐太宗全集(三帖)	全一冊八十錢	同	大字麻姑仙壇記	一冊十錢
王羲之全集(十帖)	四冊六十錢	同	田代秋鶴先生	一冊十錢
歐陽詢全集(八帖)	全一冊五十錢	同	九成宮體泉銘	一冊十錢
虞世南全集(四帖)	全一冊四十錢	同	藤本竹香先生	一冊十錢
褚遂良全集(八帖)	全一冊五十錢	同	孟法師碑	一冊十錢
顏真卿全集(十四帖)	五冊八十錢	同	桑原翠邦先生	一冊十錢
蘇東坡集(六帖)	全一冊六十錢	同	伊都内親王頌文	一冊十錢
趙子昂集(九帖)	二冊三十錢	同	鈴木翠軒先生	一冊十錢
關亭集(十三種)	全一冊五十錢	同	行書千字文	一冊十錢
假名名跡集成全十二卷	全文原寸 四六二倍	同	上田桑鳩先生	一冊十錢
貫之、桂萬葉・寸松庵	一冊八十錢	同	蘭亭叙・半截碑	一冊十錢
道風、繼色紙・秋萩帖外	二冊二十錢	同	桑原翠邦先生	一冊十錢
佐理、筋切上	各一冊八十錢	同	草書千字文	一冊十錢
本願寺卅六人集抄	二冊五十錢	同	上田桑鳩先生	一冊十錢
行成、神和漢朗詠集上下	各一冊二十錢	同	田代秋鶴先生	一冊十錢
行成、關戸本古今集	二冊	同	簡本十七帖	一冊十錢
俊賴、元永本古今集	二冊	同	孫過庭書	一冊十錢
定信、金澤本萬葉集	二冊八十錢	同	同	一冊十錢
俊成、昭和切古今集上下	各二冊	同	同	一冊十錢

一町保神區田神市京東 番六七五六六京東替振
社會式株籍書同共 所賣發

番四四八一京東替振 町喰馬區橋本日京東
番〇四八一花浪話電 社文興

家事及裁縫社編纂

斯界の好伴侶である

裁縫教員必携

尋常裁縫科指導細案

定價一圓三十錢 送料拾錢

高小裁縫科指導細案

定價一圓一十八錢 送料四十錢

東京市牛込區矢來町二十二番地

家事及裁縫社

振替東京七三二八番

現代家事及裁縫科の施設經營 定價二圓五十錢 送料十四錢
 文檢家事裁縫試驗問題集 定價一圓二十錢 送料十錢
 婦人子供服専門講座 全六卷 送料共六圓

現代手藝教育 定價一圓 送料四錢
 服裝文化 定價各七十錢 送料六錢
 月刊 家事及裁縫 每月一日發行 送料共至七錢五厘

育生社・弘道閣・圖書目錄！

石橋著 農業經營の諸問題 二五〇頁 四六判 送料一〇〇
 村八著 遺傳の研究 三〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 岡山著 木工術 三五〇頁 菊判上製 送料一四〇
 秀吉著 竹工・機物・玩具 指物・彫刻・塗裝 二五〇頁 菊判上製 送料一四〇
 見坊著 農家副業大典 六百頁 四六判上製 送料一四〇
 太田著 茶樹栽培と製茶 一七〇頁 四六判上製 送料一四〇
 日吉著 家の光農業實驗 第一輯 定價各六五 送料各六五
 家光著 家の光農業實驗 第二輯 定價各六五 送料各六五
 松井著 科學と趣味 金魚の研究 四五〇頁 菊判上製 送料一四〇
 松井著 金魚の愛玩と飼育法 二八〇頁 四六判上製 送料一〇〇
 山崎著 山崎延吉全集(全七卷) 四千頁 菊判上製 送料一五三
 延吉著 近代日本農政史論 三〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 松谷著 二宮尊徳翁全集 全六卷 三千頁 菊判上製 送料一五〇
 解二宮尊徳翁全集 全六卷 三千頁 菊判上製 送料一五〇
 土屋著 日本資本主義史論集 三八〇頁 菊判上製 送料二二〇
 喬雄著 日本資本主義史論集 二八〇頁 菊判上製 送料二二〇

服部共 日本マニユファクチュア史論 二八〇頁 菊判上製 送料一四〇
 石濱著 特殊金融機關史論 四〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 尾佐著 日本憲政史論集 三九〇頁 菊判上製 送料一四〇
 尾佐著 日本憲政史論集 三五〇頁 菊判上製 送料一四〇
 森谷著 アジア的生產様式論 二五〇頁 菊判上製 送料一四〇
 克己著 徭役勞働制の崩壊過程 五〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 關島共 徭役勞働制の崩壊過程 四二〇頁 四六判上製 送料一四〇
 古島著 列強の戰時經濟政策 二〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 プラシ著 ナチスの戰爭論上 三〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 フランケン著 ナチスの戰爭論上 三〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 神田著 煉乳及粉乳 三三〇頁 菊判上製 送料一四〇
 八郎著 煉乳及粉乳 三三〇頁 菊判上製 送料一四〇
 神田著 乳と乳製品の榮養學 三三〇頁 菊判上製 送料一四〇
 八郎著 乳と乳製品の榮養學 三三〇頁 菊判上製 送料一四〇
 三島著 毛皮 三三〇頁 菊判上製 送料一四〇
 康七著 毛皮 三三〇頁 菊判上製 送料一四〇
 松平著 緬羊と其の利用 四〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 卓平著 緬羊と其の利用 四〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 尾佐著 日本憲法制定史要 三〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 竹猛著 日本憲法制定史要 三〇〇頁 菊判上製 送料一四〇
 東京・神田・錦町三ノ二〇番 振替東京一三〇五七五番

育生社

石原・純・恒・恭・三木・清

廿世紀思想

組織的なる廿世紀的教養の全的把握
日本思想界の全權威による哲理の平明化

全一巻内容

第一卷 理想主義	第二卷 實用主義	第三卷 科學主義	第四卷 社會主義	第五卷 宗教主義	第六卷 政治主義	第七卷 經濟主義	第八卷 法律主義	第九卷 社會主義	第十卷 教育主義
概論 杉村廣隆 メメル 土井廣隆 ベンダー 渡邊一夫	概論 新明正道 ニイイ 大塚安次郎 ガイ 清水龍太郎	概論 林 達夫 アレリイ、アラン 河盛好藏	概論 廣瀬 隆 ルジャイ エフ、雪國吉 概論 片山 健彦	概論 谷川 誠三 ソレル 本田 代治 トムソン 加藤 一	概論 藤田 泰吉 イラス 伊藤 武彦 概論 伊藤 武彦	概論 三木 清 三枝 健吉 イレンス、ハクスレイ	概論 若原 健 ニミット 黒田 龍彦 ロゼンベルク、ジュン	概論 石原 純 相対性理論 石原 純 進化論 小島 丹	概論 廣瀬 隆 政治・經濟・法律・社會・歴史

見よ、廿世紀知性の總展示・河出書房が凱歌版

全十一巻
入頁總限
美裝四六
裝綴充木
行發方採
誌本每月一
刊行月四
和月十三
四月三
緒の號定
五〇錢
一〇錢

東京 振替 河出書房
番二〇八〇一
區橋本市東京
地番一目丁三通

日本教育への反省

東京文理科大學教授 榎崎淺太郎先生著 好評重版!

自由主義教育や個人主義教育が現時の日本教育を擔ひ得ずして後退せる時、榎崎博士はこゝにその深き蘊蓄と高き教育的情熱とを傾倒し新に日本教育の聖道を示された。なほ本書の巻頭には「祭祀と事業」と題する平沼首相の堂々十數頁に亘る長篇論文の贊助寄稿がある。

要次目

- 一、性格陶冶 ◆日本教育の指導原理としての作業教育の神髓 ◆日本精神の體認に關する私の覺書 ◆日本に於ける歴史教育の基調 ◆我が尊嚴なる國體の眞に有難きことを體得せしむるには如何なる方法によるを最も適當とするかの一調査と私案 ◆我が國で行はれてゐる個性的諸意義を述べて教育者諸氏の一讀を煩はす ◆我が國に於て現時適用すべき教育的個性調査法構成の重要な諸條件 ◆中學校に於ける性格調査の第一歩と性格教育の第一歩
- 二、實踐力鍛鍊 ◆硬教育か軟教育かの重大問題に對する一實驗的研究 ◆小學兒童一日の各時に於ける精神作業力と教科の時間割 ◆國語教授效果の測定より觀たる現代の國語教育 ◆長野大分兩縣中等學校生徒の英語能力の調査より見たる教育行政上重要な注意
- 三、大學教育 ◆大學組織一般に於ける一大缺陷と我等の文理科大學の一特色 ◆大學教育の問題 ◆最近に於ける獨逸大學改造の理念を思ひて日本の大學改善に及ぶ
- 四、教育者 ◆新に教育家たらんとする若き人々へ ◆教壇に立つ數分前の教師の心構へ

菊本定價送
列文四料
上五圓三
製二圓三
入函〇十三
錢錢

東京 振替 店書堂美成
番九一七
區橋本市東京
地番一目丁三通

授教校學範師等女子京東

著 藏 耕 藤 近

昭和十一年五月十日修正二十九版發行

日用物理學講義

本書の特色 日本生活を基調として、あらゆる物理現象を理論的に、明確にしかも平易に解説した事である。

本書の價值 文檢受験者にとつて、参考書の選擇は成・不成の鍵であるが本書の如きは参考として絶對的價值ありと言つても過言ではない。

教師用参考書 小學校・中學校・女學校・實業學校・師範學校等に物理學教授上の適切な参考書として必要な事は多言を要せざる所である。

昭和十二年四月五日修正增補十八版發行

日用化學講義

一、家庭の日常生活に起る化學現象を詳説し、實例によつて、化學の一般的理論を説明し知識の活用にとめた。

一、多數の實驗法を詳説し知識の根底を養ふやうつとめた。

一、家事・家政の科學的方面に興味を持たるゝ一般の讀者、初等、中等學校の化學教授者並に専門學校・高等女學校高等科・師範學校專攻科の教科書・参考書として最も理想的な化學である。

全貳冊 菊版總布上製
定價 各金參圓五拾錢
郵稅 各金拾四錢

全壹冊 菊版總布上製
定價 金參圓八拾錢
郵稅 金拾四錢

店書館風光 區田神市京東 番七八〇三田神長電 番七二二三京東座口替振

書良の望待界育教

君が代と萬歳

前文部省圖書監修官 和田信二郎 著

一本書は小學校を初め諸種の中等學校及圖書館には缺くべからざる良書である。諸學校に於ける實際教育者は勿論社會教育講演者諸士にとつても必讀の好参考書である。

一國歌「君が代」の研究はまだ完備の域に達してゐないが、本書は宮内省、海軍省、陸軍省に所蔵せられる當時の文書に據つて詳密なる研究調査を重ねた。

一本書の叙述は平易ではあるが、其の研究態度は通俗に陥らず飽迄も學術的良心に據り典據は總べて之を明示し、研究論斷の態度を明かにし、同時に研究者のために根本資料を提供して餘すところがない。

一本書は諸家珍藏の「君が代」の出典を網羅し、寫真版を以て一々之を示し、又作歌、作曲に就いての研究に於ては從來不明であつた作曲完成の日を確め、同時に文部省の國歌資料として作られ未發表の明治頌四編の内今回その一篇を發見したるは一大收穫である。

一「萬歳」の研究では、その起原を詳説し、海軍に於ける祝辭の沿革を述べ、尙二重橋の語義に就いても意見を發表してゐる。

裝幀・菊判總布上製
頁數・總頁數三五六頁
定價・金壹圓八拾錢
送料・金拾四錢

店書館風光 區田神市京東 番七八〇三田神長電 番七二二三京東座口替振

石野の代數 眞解法

四六判・五五〇頁・定價一圓六十錢・送料十四錢

★著生先郎五勝野石★
 全卷新構想に成る
 受驗界待望の名著

四六判・五〇〇頁・定價一圓五十錢・送料十四錢

石野の幾何 眞解法

石野勝五郎先生の令名は今更喋々の要はない。あの透徹した、精密周到なる講義、一絲亂れず、簡にして要を得、而も烈々たる信念と氣魄とを以て満天下學生に呼びかけるあたり、受驗界の王者たる亦宜なるかなである。

本書は先生の言にもある如く系統立ち、且つ徹底したる代數、幾何の知識を授け、よつて以て貴重なる受驗生諸君のエネルギーを最有効に使用せしめんが爲に著はされたものである。加之、最近入試問題等の傾向に關する指導、並びに重要公式定理表等を加へたるは錦上更に花を添へたるものとして賞嘆の的である。

受驗徹底研究叢書

- 國史合格答案の確把 送定六〇六〇
- 假定法の徹底的研究と入試問題 送定四〇六〇
- VERVALの徹底的研究と入試問題 送定八〇六〇
- 前置詞の徹底的研究と入試問題 送定五〇六〇
- 受驗英和公式の研究 送定六〇六〇
- 受驗和英公式の研究 送定六〇六〇
- 代數學の徹底的整理 送定六〇六〇
- 國文要語の研究 (以下續々刊行) 送定四〇六〇

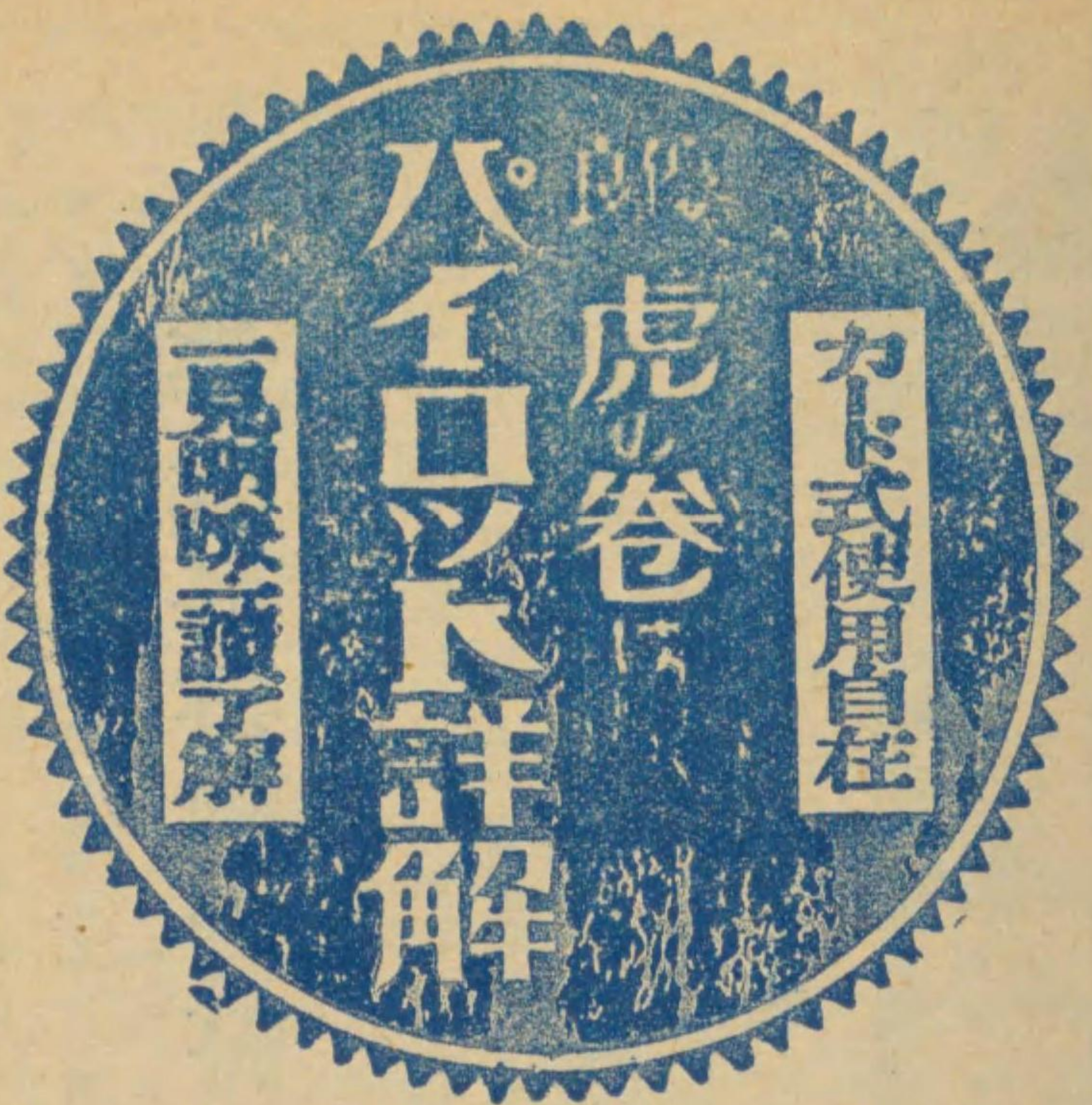
既刊合格確把握

- 堀川三四郎著 定價二、〇〇・送一〇
- 自習受驗新編英文解釋法 送定一〇〇〇
- 藤井 富俊著 定價一、五〇・送一〇
- 國文基礎知識と解釋の研究 送定一、〇〇・送一〇
- 林 昌平著 定價一、六〇・送一〇
- 代數學重要事項整理と問題選集 送定一、五〇・送一〇
- 神戶 榮著 定價一、五〇・送一〇
- 自習英文法作文教本上級用

二九四

東京市神田區 司書院 振替東京七〇七番
 電話三二一三番

◆ますます躍進のパイロット社詳解◆



◆學生參考書界唯一無二の寵兒!◆

類あつて比なき吾がパイロット詳解は今や名實共に日本一と推賞せられて居ります。

リーダズ	國語
英文作文	漢文
英文作文法	數學
英文法	商算簿記
商業英語	地理歴史

各種詳解約五百種出來いたして居ります。評判よき御店には評判よき詳解を御常備下さいます様御願いたします。

二九五

東京市神田區 パイロット社 振替東京一〇一〇番
 電話三二一三番

事變下日本の要望に應へる

大日本戰史

全六卷 定價金五圓
 千二十二錢
 菊判五百頁餘・附圖挿繪多數

陸軍大將
 陸軍中將
 文學博士
 史料編纂官

林井上 銚十郎

柳善之助

柳善之助 監修

第一卷・第二卷
 第三卷・第四卷
 次回配本 第三卷

配本濟

何時でも申込
 受けつけます

執筆者名

史料編纂官 岩橋小彌太
 陸軍少將 伊田常三郎
 文學博士 井野邊茂雄
 陸軍中將 井上一次
 史料編纂官 芳見朔巳
 陸軍中將 林彌三吉
 陸軍少將 林龍真
 史料編纂官 龍太田義三
 陸軍少將 太田義三

史料編纂所 岡田章次
 文學博士 渡邊世祐
 陸軍少將 勝尾信彦
 史料編纂官 高橋隆三
 史料編纂官 高柳光壽
 陸軍中將 武田秀一
 陸軍少將 竹内榮喜
 文學博士 辻善之助
 文學博士 中村孝也

京都帝國大學 中村直勝
 助史編輯會 中村榮孝
 朝鮮史編輯官 永島福太郎
 東京帝國大學 村田正志
 史料編纂所 魚澄惣五郎
 大阪府女子專 栗田元次
 門學校教授 桑田忠親
 大廣島文理科 藤井甚太郎
 史料編纂所 相田二郎
 維新史料編纂官 相田二郎

發行所 三教書院

東京市神田區保町二丁目三十番地
 電話九段一〇八番 振替東京四八〇番

內容見本進呈

中等教科書豫習書

國語 漢文 英語

類發行

東京市麴町區富士見町二ノ八

株式會社 東京辭書出版社

振替東京三二〇六八
 電話九段(33)四一六八
 一〇八

◆ 友師の好絶、に務執、に學勉 ◆

廣辭林
新訂版

文學博士 金澤庄三郎編
四六判二〇〇頁 三・四〇 送料三三
専ら國語辭典としての使命を果し得るやう、語原は精査、解説は明確、挿話は豊富、經對他の追隨を許さぬ完璧の内容を収めてゐる。

小辭林

文學博士 金澤庄三郎編
携帯型一〇〇頁 二・三〇 送料〇六
机上用の廣辭林に對して、携帯用の辭林として書かれたのがこの小辭林である。日常使用する新時代の用語が豊富に収録されてゐる。

用字用語必携

文學博士 吉澤 義則編
携帯型三七〇頁 〇・六〇 送料〇六
假名遣・送假名・同訓異義・漢字正俗・文法・字劃等用語上の難問は忽ち解決す！新舊對照新小學國語讀本使用漢字解説を附した。

明解漢和辭典

文學博士 宇野 哲人編
携帯型二〇〇頁 二・二〇 送料〇六
慣用音或は通用音により、五十音の順を追つて直ちに文字の檢索が出来る。現代文明に最も適合したポケット判小型漢和辭典である。

◆ 書辭薦推の校學等中國全 ◆

新撰漢和辭典

文學博士 宇野哲人・長澤規矩也編
新四六判一二〇〇頁 二・四〇 送料一四
學生の學習に必要にして十分な辭書。教科書中の熟語・詩句等全部はいつてゐるのほこの辭書だけだ。どの部首からも容易く引ける。

クラウン英和辭典

三省堂編輯所編
クラウン判一五〇〇頁 三・五〇 送料二二
館迄懇切に指導しつゝ、語の眞意を傳へ百科的に解説圖示し、語彙・用例を斷然豊富に、英和・和英を綜合的に編輯した中等學生用權威英和

學生英和辭典

三省堂編輯所編
クラウン判五八〇頁 一・七〇 送料一四
英語は基礎が大切だ。初年生には語譯のみの辭書では分り難い、語の解釋・文法・圖解等による理解を根本義とした本辭典をぜひ！

明解英和辭典

三省堂編輯所編
携帯型七九四頁 一・六〇 送料〇六
國語は口語體、文例は懇切、發音は片假名と萬國音標文字を併用して、どこまでも初學者獨學者に便利にした。活字も大きく見易い。

東京市神田區一丁目 三省堂
振替東京一三五五 大阪區阿波座下通
〇〇三一八 振替大阪

東京市神田區一丁目 三省堂
振替東京一三五五 大阪區阿波座下通
〇〇三一八 振替大阪

◆ 辭書界に聳立する最高峰 ◆

最新
コンサイス英和
辭典

新
コンサイス和英
辭典

コンサイス獨和
辭典

コンサイス佛和
辭典

東京文理大 教授 石川林四郎編
携帶型一八四頁 三・〇〇 送料〇九
新たに石川教授が全部に互つて編纂し直され
世界音聲學界の最高權威たる倫敦大學のダニ
エル・デロウズ教授が發音指導された新版

東京文理大 教授 石川林四郎編
携帶型九七二頁 二・八〇 送料〇六
一語一句適量を施し濃刺たるカレント・イン
ダリツシュのみを用ふ。コンサイス英和をお
持ちなら姉妹書の和英もぜひ御愛用下さい。

文學博士 山岸光宣編
携帶型一六八頁 三・九〇 送料〇九
内容の豊富、専門語辭典としての正確、携帶
の至便、印刷の鮮麗等はコンサイス獨和の最
大特色にして獨語學界に壓倒的好評を博す。

陸軍大學校 教授 丸山順太郎編
携帶型一〇五頁 四・六〇 送料〇九
型は携帶に便利なコンサイス、内容は大辭典
を凌駕する充實さ。而も新しい語彙や新しい
意味を精選收載、正に随一無二の權威佛和。

三〇〇

東京市神田保一町 京東 振替 一三五一五五

三省堂

大阪西區阿波座下通 振替 八六一〇〇

◆ 書架の異彩、生活の知識の顧問 ◆

新修百科辭典
増補版 全一卷

婦人家庭百科辭典
全一卷

學習百科辭典
全一卷

三省堂百科辭書編輯部編
菊判二二〇頁 典雅美本
特價八・〇〇 送料三八
七萬餘項目に互る内容に夫々嚴密なる検討を
加へて改訂増補し、斬新の項目一千を新たに
追補せる興味の新版。時局下各家庭に薦む。

三省堂百科辭書編輯部編
菊判一七七二頁 典雅美本
特價七・〇〇 送料三八
全女性の爲に出現した最初の百科辭典。家庭、
婦人に關する萬有の知識を包蔵した必備の寶
典。語數參萬、圖版七十一面、挿畫七千餘個。

三省堂百科辭書編輯部編
菊判一六〇八頁 挿畫滿載
特價三・五〇 送料二二
學童・生徒の自習用、家庭に於ける指導用と
して全科に役立つ參考辭典。圖版七十六葉、
挿畫・寫眞・カット四千五百餘、振力ナ附。

三〇一

東京市神田保一町 京東 振替 一三五一五五

三省堂

大阪西區阿波座下通 振替 八六一〇〇

新刊 理化學研究所 山本洋一著 全二卷 (四六倍判上製洋布裝函入) (上卷) 四〇頁 (下卷) 四三頁

金屬の蝕腐及防蝕

定價 (上卷) 八圓 (下卷) 七圓 五〇〇錢
送料(各卷)三〇錢 (内容見本進呈)

本書は金屬工學上最も重要問題たる金屬腐蝕並に防蝕に就て著者の研究業績を披瀝したもので、先づ金屬腐蝕現象を以て用状態と、腐蝕反應の二方面より分類し、腐蝕の様式を定義すると共に腐蝕的性質を講じ、更に腐蝕試験法に就ては金屬腐蝕程度の種類々の決定方法を叙べ、更に防蝕法に就ても亦完璧を盡す。(一編緒論、二編金屬腐蝕の基礎的化學反應、三編金屬腐蝕汎論、四編金屬材料の腐蝕的性質、五編金屬材料腐蝕試験法、六編金屬製品腐蝕防止法)

特 殊 鋼 村上・玉置 共著 價 5.50 送料 14
村石・武田

金屬材料及其熱處理 三島徳七著 價 3.50 送料 14

工 作 機 械 沼 正治著 價 3.00 送料 14

機械設計及製圖 田中・二反田・山本著 價 2.80 送料 14

ガラスの化學 杉江重誠著 價 2.50 送料 14

合成液體燃料 常岡俊三著 價 2.80 送料 14

合 成 香 料 小野嘉七・木村清三著 價 1.60 送料 14

木材の糖化及利用 六所文三・鎌塚明著 價 2.00 送料 14

合 成 燐 光 體 箱守新一郎著 價 2.00 送料 14

工業化學測定法 松井元太郎・神原周著 價 2.50 送料 14

發兌 東京市神田區駿河臺三丁目九 振替口座東京 46074 番

資 共 立 社

真 空 管 小林正次著 價 2.50 送料 14

真 空 管 回 路 千葉茂太郎著 價 2.20 送料 14

高 真 空 工 學 須賀太郎著 價 1.50 送料 14

光電装置及其工業應用 山内・小林・大澤共著 價 1.50 送料 14

陰極線オッシログラフ 笠井 完著 價 1.00 送料 14

照 明 用 放 電 管 山内二郎著 價 1.50 送料 14

放 電 現 象 附 放 電 管 による 諸 測定 藤田文太郎著 價 1.50 送料 14

X線管並にX線装管 田中正道著 價 1.20 送料 14

電 子 物 理 學 杉浦義勝著 價 3.80 送料 14

原子核物理實驗(電子) 中川重雄著 價 1.50 送料 14

新刊 藤田文太郎・本多賢輔 共譯
有賀新一郎・西ヶ谷輝夫

電子工學の基礎

本書はウキリアム・G・ダウの原著に成るもので、電子工學の基礎的な研究諸事項より出發して、廣汎なる應用に迄演繹したもので、第一編電子、第二編電子及原子の輻射に分ち斯學の基礎を平明に詳述したもので、研究者並技術者の必讀書。

菊判五九〇頁 定價六圓八〇錢 送料二二錢

新刊 工 滿鐵鐵道研究所 武田行松著

解説無線工學

序編に於ては總説的解説を叙べ、振動回路に於ては自由振動及強制振動を、更に熱電子管に於ては熱電子現象を説き、増幅に於ては真空管の増幅作用、負荷の接続方式を述べ、更に發振、整流、變調と復調、電波と空中線、送受信一般を叙ぶ。

菊判四〇〇頁 定價三圓三〇錢 送料一四錢

發兌 東京市神田區駿河臺三丁目九 振替口座東京 46074 番 資 共 立 社

★★ 室由之先生活著 ★★

(45版)

採點急所を
指摘せよ

(66版)

代數の突破

★數學はどれだけ出来たら合格するか？

本書は各例題其他機會ある毎に出題校試験官の發表された成績とその年の受験人員等を掲げてあるから「この問題はこれだけ出来れば合格する」「天下の受験生は大體これ位は出来る」等を知り得て受験生諸君の實力標準の決定に最も好適である。

★試験官は我等の答案を如何に見るか？

これは受験準備中の諸君が解決したい大問題である。本書は各例題に「採點急所」欄を設けて、出題校試験の發表せる採點の感想、解答上の注意を記し、「この事を書き落すと減點する」「問題の解答等を知らせてゐるから受験準備中の諸君には全く親切且つ能率的である。」

★入學試験を突破する力は數學である！

本書は三百有餘の例題、百有餘の最新問題に解決の主力點を明示し、一千數百題の演習問題の略解を與へて數學突破の偉大な主力根柢確立、應用力涵養、答案發表練習を養はしめるのである。

幾何の突破

三角の突破

版六忽 價定
(錢二十料送) 錢拾貳圓壹價定
頁四七二判六四

四六判六八〇頁
最新活字
紙質優良・印刷鮮明
定價金壹圓九拾錢
送料金十八錢

東京市神田區 芳文堂 振替口座 五九六五

全國書籍業組合員統計表

區名	出版業	販賣業	計
麴町區	二四	二〇	四四
神田區	一三〇	一〇九	二三九
日本橋區	一五	一三	二八
京橋區	元	六	六
芝區	六	三	九
麻布區	六	三	九
合計	二〇九	一八二	三九一

區名	出版業	販賣業	計
赤坂區	三	五	八
四谷區	六	七	一三
牛込區	八	九	一七
小石川區	七	七	一四
本郷區	七	七	一四
下谷區	七	七	一四
淺草區	三	三	六
本所區	〇	三	三
本川區	一	一	二
深川區	一	一	二
品川區	二	二	四
目黒區	一	一	二
荏原區	一	一	二
大森區	一	一	二
蒲田區	三	三	六
世田谷區	三	三	六
澁谷區	三	三	六
澁谷區	三	三	六
合計	一〇六	一〇五	二一〇

東京書籍商組合員業別分布表

昭和十四年一月調査の東京書籍商組合員は三千二百八十三人にして前年同期の三千二百九十二人に比すれば九人を減じ、是れを三十五區に分ち更に出版販賣、出版、販賣に業別に區分すれば左表の如くである。これを前年度に比較すれば出版販賣三名、出版十八名を減じ販賣十二名の増加を見たり。

合計	江戶川區	葛飾區	城東區	向島區	足立區	板橋區	王子區	荒川區	瀧野川區	豐島區	杉並區	中野區
三〇〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	二	〇	一	八	七	二
七八	一	〇	〇	〇	〇	三	三	二	五	六	九	三
三三五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三三三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

全國書籍業團體一覽

(聯合會)

(昭和十四年一月現在)

全(名) 業(稱) 聯(組) 會(長) 目(所) 黑(在) 甚(地) 七(東) 東京市神田區駿河臺一丁目二番地

東京書籍商組合	目黑甚七	東京市神田區駿河臺一丁目二番地
八王子市三多摩書籍商組合	島村保雄	八王子市八日町
京都市中京區御池通河原東入丸屋町四一三	木村五郎	京都市中京區御池通河原東入丸屋町四一三
大坂市西區南堀江通一丁目三八	石田松太郎	大坂市西區南堀江通一丁目三八
神奈川縣商組合	松信大助	橫濱市蓬萊町二丁目三〇
兵庫縣商組合	柏佐一郎	神戶市神戶區榮町五丁目五七番屋敷
長崎縣商組合	太田久三郎	長崎市東濱町一一、好文堂內
新潟縣商組合	馬場由太郎	三條市一ノ木戸一、九四七、野鳥書店內
埼玉縣商組合	菅間定治郎	川越市南町
群馬縣商組合	高橋清七	前橋市曲輪町二
千葉縣商組合	茂木林藏	千葉市院內町一一八
茨城縣商組合	川又銀藏	水戸市泉町二丁目一〇三三、川又方
栃木縣商組合	相馬繁三郎	宇都宮市鐵砲町三二三三四
奈良縣商組合	木原進	奈良縣添上郡帶解町

三重縣商組合	安屋喜內	津市京口町一、二一一別所書店內
愛知縣商組合	川瀬條吉	名古屋市中區長者町四丁目九、川瀬書店內
名古屋商組合	司忠	名古屋市中區支店內
靜岡縣商組合	菅沼甚藏	靜岡市稻川町一二一
山梨縣商組合	大塚源太郎	甲府市豎町三〇、柳澤方
滋賀縣商組合	加藤康治郎	滋賀縣神崎郡能登川驛前
岐阜縣商組合	淺野榮治郎	岐阜市北八ッ寺町一
信濃縣商組合	西澤賢吾	長野市大門町三八、西澤書店內
宮城縣商組合	藤原孝平	仙臺市大町四丁目一七七
福島縣商組合	小池勘次郎	福島市大町五六
岩手縣商組合	玉山慶次郎	盛岡市肴町四
青森縣商組合	今泉道次郎	弘前市土手町三〇、今泉本店內
山形縣商組合	五十嵐大右衛門	山形市七日町五一六
秋田縣商組合	石川信助	秋田市大町二丁目一七

福井縣商組合	山上治三郎	福井市寶永上町一二八
石川縣商組合	忠谷直二	金澤市石浦町七七
富山縣商組合	中田清兵衛	富山縣東四十物町三五
鳥取縣商組合	山本鐵太郎	鳥取市片原二丁目三六
島根縣商組合	今井兼文	松江市殿町一五〇
廣島縣商組合	岡原佐太郎	岡山市內山下町三五、一
山口縣商組合	白銀禮治	廣島市商工會議所內
和歌山縣商組合	宇治德太郎	和歌山市十三番丁
德島縣商組合	黑崎精二	德島市西新町五ノ四八九
香川縣商組合	物部覺平	高松市西ノ丸町一
愛媛縣商組合	足立守寬	松山市湊町三丁目四八
高知縣商組合	淺井茂猪	高知市京町
福岡縣商組合	菊竹大藏	片桐開成社內
福岡縣商組合	菊竹大藏	久留米市米屋町三

眞堂 豊島池袋五ノ三六一
 信堂 本所東駒形四ノ三
 進堂 神田美土代町二ノ一
 成社 芝二本榎西町三
 橋堂 神田表神保町一〇
 誠堂 大森堤方町六九
 誠堂 下谷坂本町三ノ三
 泉堂 神田神保町一ノ七
 二堂 京橋入舟町三ノ一九
 方堂 下谷上車坂町一
 方堂 蒲田女塚町六〇九
 歩堂 品川北品川三ノ三一九
 葉堂 牛込新小川町一ノ二
 葉堂 深川白河町一ノ六
 粒堂 澁谷代々木富谷町四三三
 力堂 大森池上本町三三二
 一書 中野大和町三一六
 一書 本郷彌生町三
 井書 神田神保町一ノ九
 井書 神田神保町一ノ九
 垣書 大森池上徳持町四一九
 垣書 葛飾本田中原町三四
 垣書 澁谷羽澤町五七
 見書 牛込早稲田鶴巻町四三六
 泉堂 蒲田今泉町一八二

今村紙店 足立本木町三ノ三六五
 今村紙店 足立本木町三ノ一九八
 今つる書店 澁橋柏木五ノ一四四
 以文堂 品川大井金子町六四六
 以文堂 王子王子町五三六
 以文堂 王子十條六〇
 色部勇林堂 神田錦町一ノ二
 岩井塾 小石川戸崎町一二
 岩岡塾 芝濱松町二ノ二
 岩切書店 本郷弓町二ノ四
 岩城書店 赤坂新町三ノ三一
 岩佐書店 牛込山吹町二六〇
 岩田書店 荒川三河島四ノ三九
 岩波書店 杉並清水町七八
 岩丸書店 神田神保町二ノ三
 岩本農園出版部 中野上高田一ノ一九一
 世田谷松原町三ノ八六五

宇野出版社 神田三崎町二ノ三四
 牛島屋 本所小梅町三ノ一五
 上田書店 大森馬込東二ノ二六
 上田泰文堂 澁橋戸塚町一ノ一三
 上田屋書店 神田神保町一ノ一
 上野書店 小石川白山御殿町四一
 上原エクレシア 澁谷代々木上原町三三四
 潮田博文堂 本所龜澤町一ノ三一
 白倉書店 中野大和町一四九
 内田書店 向島寺島町五ノ六五
 内田書店 豊島長崎南町三ノ三六五
 内田書店 板橋上板橋七ノ四三
 内田書店 板橋練馬町一九三三
 内田老鶴園 日本橋大傳馬町一ノ四
 内山模製製版社 本郷元町一ノ三
 海之日本社 杉並永福町三九三
 海野書店 板橋大谷口町七四四
 右文社 神田表神保町三
 右文社 牛込市ヶ谷富久町六〇
 右文社 本郷千駄木町二七九
 梅若堂文具店 向島隅田町一ノ三四六
 梅田康文堂書店 芝西久保廣町三五
 梅原書店 麴町鐵道省內賣店
 梅村書店 蒲田新宿三六〇

浦島堂 淺草公園仲見世東側四八
 瓜生濟生館 本郷本郷六ノ五
 雲水閣 世田谷經堂町五五
 芸艸堂支店 本郷湯島一ノ一
 運輸社代理部 芝新橋六ノ三
 え・ゑ
 エビス出版社 日本橋通一ノ野村ビル内
 エスカ力堂 淺草千束町一ノ一四〇
 エスベラント研究社 麴町九段三ノ二
 エロス堂 淺草千束町二ノ二五四
 エンピツ屋 葛飾本田町四
 永久堂 澁橋下落合一ノ四九一
 永文堂 葛飾小谷野町三二〇
 永樂堂 麻布市兵衛町三ノ三七
 永樂賣店 麴町大手町一ノ六
 永樂賣店 杉並上萩窪七〇九
 永樂賣店 大森入新井一ノ三八
 永樂賣店 世田谷玉川等々力町山登
 永樂賣店 二ノ六五五
 榮松堂支店 日本橋人形町二ノ六
 榮昭堂 日本橋蠣殻町四ノ一〇
 榮進堂 小石川竹早一〇八
 榮泉堂 杉並高圓寺六ノ六七四
 榮文堂分店 杉並萩窪三ノ一四
 榮文堂分店 下谷豊住町三六

榮文堂 芝三田四國町二ノ一
 英語俱樂部 麴町九段三ノ三九段ビル
 英語研究會 本郷動坂町九四
 英語研究會 澁谷榮通二ノ一三
 英語研究會 神田錦町三ノ二〇
 英語研究會 神田錦町二ノ七
 英語研究會 芝二本榎町二ノ一四
 英語研究會 澁谷千駄ヶ谷一ノ三三
 英文法通論發行所 麻布龍土町一八
 映文堂書店 世田谷玉川奥澤町三ノ九七四
 益文堂 麴町富士見町三ノ三
 江川書店 神田錦町二ノ二
 江川三角堂 世田谷赤堤町一ノ二〇五
 江川川書房 足立下沼田九四二
 江川川書房 江戸東小松川二ノ三八七三
 江川川書房 淺草千束町三ノ九
 江川川書房 目黒上目黒六ノ一五七〇
 江川川書房 品川大崎本町三ノ五八
 江川川書房 澁橋下落合一ノ一六八
 越後山屋 豊島日出町一ノ一六
 越前山屋 大森久ヶ原町三九五
 越前山屋 牛込榎町三〇
 越前山屋 杉並堀ノ内二一四
 榎本文華堂 日本橋蠣殻町三ノ八
 榎本文華堂 板橋上板橋町三ノ六三二

荏原堂書店 荏原中延町四四〇
 海老原商店 總町竹竿町一
 海老原商店 東京外國語學校內賣店
 繪卷屋 江戸川東小松川四ノ一
 繪卷屋 瀧野川西ヶ原町五五一
 演藝畫報社 本郷駒込動坂町一〇
 演藝畫報社 淺草石濱町二ノ一五
 演藝畫報社 葛飾下小松町九一二
 延文堂 本所堅川二ノ二二
 遠藤文房具店 芝白金今里町五五
 A B C
 オ・ア・ミ書店 豊島西巢鴨三ノ九三一
 オ・ト・モビル社 京橋京橋一ノ二千代田證券ビル
 オ・ムラ書店 神田錦町三ノ一
 オ・ムラ書店 神田多町一ノ九
 オ・ムラ書店 本郷湯島三組町五九
 オ・ムラ書店 城東大島町二ノ四一〇
 オ・ムラ書店 向島吾嬬町西六ノ二
 オ・ムラ書店 杉並萩窪三ノ一五
 オ・ムラ書店 本所向島須崎町二五〇
 オ・ムラ書店 中野千代田町五九
 オ・ムラ書店 豊島西巢鴨三ノ九三〇
 オ・ムラ書店 澁橋東大久保一ノ四三
 オ・ムラ書店 品川南品川三ノ一五五
 大石書店 牛込戸山町九

銀座三味堂 京橋銀座八ノ二
銀扇堂書店 中野本町通一ノ一〇
銀杏舎 神田表神保町二
吟葉社 澁谷惠比壽通一ノ四
杏雲堂書店 大森大森五ノ五六

草下書店 本所向島二ノ一一
草間書房 世田谷代田二ノ二〇五三
九段書房 芝金杉四ノ二〇
久野書店 神田神保町三ノ一七
久保井書店 牛込早稲田鶴卷町四三
久保田書店 蒲田蒲田驛前
久留田書店 大森馬込町東三ノ七一
窪川書店 中野前原町四〇
熊谷書店 瀧野川西ヶ原町五九五
倉持書店 小石川白山前町五六
藏方書店 豐島西巢鴨二ノ三三
栗田書店 本郷本郷五ノ二八
栗田書店 蒲田安方町三一五
栗田書店 神田神保町一ノ三九
栗田書店 神田神保町一ノ三九
栗田書店 大森大森七ノ三一〇五

仰光堂 豐島集鴨二ノ二三
仰光堂 豐島集鴨五ノ一〇二六
月務協會 日黒月光町一七一
刑務協會 麴町西日比谷一司法省橋内
京濱堂書店 蒲田西六郷一ノ三七
藝文書院 神田小川町三ノ八
元文堂 品川西大崎一ノ三九〇
元泉堂 本郷元町一ノ九
原理日本社 世田谷若林町二七八
源泉堂 本郷駒込神明町四四一
言海書房 小石川大塚仲町四一
言誠社 本郷動坂町九四
言誠社 神田神保町一ノ三
言誠社 牛込辨天町六
言誠社 本郷西片町一〇
言誠社 芝白金臺町二ノ二〇
言誠社 目黒下目黒二ノ三三四
言誠社 麴町富士見町一ノ五
言誠社 豐島長崎東町三ノ四八
言誠社 赤坂青山北町三ノ六八
言誠社 瀧野川田端町東邊四〇〇
言誠社 豐島西巢鴨三ノ七三九
現代文化社 下谷西町三
現代文化社 京橋銀座西八ノ五日吉ビル内

栗田書店 荒川町屋三ノ一五一二
栗田書店 麴町富士見町一ノ四
栗田書店 澁谷羽澤三五
栗田書店 王子赤羽町一ノ一〇四
栗田書店 淺草象湯町一〇
栗田書店 四谷本村町九
栗田書店 麴町麴町六ノ五
栗田書店 牛込若松町一五〇
栗田書店 麴町九段一ノ五
栗田書店 王子上十條町一四六五
栗田書店 京橋銀座西八ノ四小澤ビル
栗田書店 澁谷柏木三ノ三〇内藤彦之介方
栗田書店 神田錦町一ノ一三
栗田書店 荏原下神明町五三
栗田書店 麴町丸ノ内三ノ六
栗田書店 本郷元町二ノ二一
栗田書店 神田猿樂町二ノ九
栗田書店 澁谷角等一ノ八〇〇
栗田書店 神田小川町三ノ二四
栗田書店 牛込早稲田鶴卷町四四六
栗田書店 日本橋通三ノ八
栗田書店 京橋銀座西八ノ九

警友告社 麴町九段四ノ八
警友告社 牛込横寺町五八
警友告社 神田表猿樂町二三
警友告社 京橋入舟町三ノ五
警友告社 日本橋通三ノ八
警友告社 下谷上根岸町四四
警友告社 神田一ツ橋二ノ九教育會館内
警友告社 牛込辨天町二八
警友告社 澁谷練馬町三三
警友告社 日本ソノスタ教育内
警友告社 赤坂青山南町四ノ三
警友告社 澁谷羽澤町五三
警友告社 京橋銀座四ノ二
警友告社 王子豐島町八〇九
警友告社 小石川表町一〇五
警友告社 中野大和町五三
警友告社 深川高橋一ノ三
警友告社 芝三田二ノ二
警友告社 芝三田四國町五
警友告社 芝三田二ノ一
警友告社 神田錦町一ノ三
警友告社 神田唐ヶ崎町五九二
警友告社 目黒唐ヶ崎町一ノ三
警友告社 麴町丸ノ内三ノ一八昭和ビル内
警友告社 日本橋茅場町一ノ一八
警友告社 麴町丸ノ内ビル三〇六區
警友告社 日本橋兜町一ノ七九ノビル三

建設書院 神田神保町三ノ六
建設書院 京橋西八丁堀三ノ六
建設書院 品川南品川六ノ四九
建設書院 牛込揚場町八
建設書院 向島寺島町四ノ八三
建設書院 牛込矢來町七九
建設書院 神田美土代町一ノ九
建設書院 品川五反田二ノ三三六
建設書院 大森田園調布一ノ二四
建設書院 杉並高圓寺一ノ四五四
建設書院 澁谷代々木初臺町四六
建設書院 澁谷代々木初臺町四六
建設書院 小石川林町五七
建設書院 澁谷千駄ヶ谷五八五六
建設書院 淺草壽町一ノ九
建設書院 本郷弓町一ノ八
建設書院 小石川駕籠町一二
建設書院 豐島池袋五ノ二〇四
建設書院 芝二本榎二ノ一二
建設書院 小石川宮下町一四
建設書院 神田小川町三ノ一〇
建設書院 淺草田原町一ノ一四
建設書院 深川猿江町一ノ一三

小喜多商店 杉並荻窪三ノ二二三
小喜多商店 本郷根津清水町一〇
小喜多商店 目黒鷹番町一六九
小喜多商店 中野小瀧町二四
小喜多商店 日本橋室町三ノ三
小喜多商店 本郷駒込追分町六
小喜多商店 淺草淺草橋一ノ一
小喜多商店 蒲田東六郷三ノ四
小喜多商店 杉並下高井戸一ノ一三三
小喜多商店 淺草柳橋二ノ一一
小喜多商店 本郷根津八重垣町三六
小喜多商店 牛込市ヶ谷藥王寺町六
小喜多商店 大森入新井町六ノ四二
小喜多商店 目黒唐ヶ崎町五九二
小喜多商店 豐島池袋二東鐵道習所内
小喜多商店 本所東兩國四ノ二
小喜多商店 牛込大宮前六ノ四〇三
小喜多商店 牛込北町二四
小喜多商店 向島吾嬬町西五ノ一〇〇
小喜多商店 足立本木町二ノ一九四〇
小喜多商店 荒川三河島町六ノ三三
小喜多商店 豐島巢鴨七ノ一六四三
小喜多商店 大森北千束町七七六
小喜多商店 品川西大崎三ノ四九五

工業教育會	本郷眞砂町一〇	光東智大社	豐島長崎東町三ノ二五	弘文文莊	本郷西片町一〇
工業雜誌社	京橋銀座七ノ三朝日ビル内	光南館書店	豐島池袋七ノ二一九四	弘成信堂	神田神保町一ノ一
工業調查協會	牛込矢來町二九	光風館	向島寺島町一ノ一六七	弘明堂書店	神田多町二ノ二
工業圖書株式會社	神田旅籠町三ノ四	光文館	杉並大宮前六ノ三〇九	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
工業百科大圖發行會	神田美土代町一	光文館	神田神保町一ノ五	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
工務畫報社	麴町丸ノ内三ノ六	光明文館	小石川雜司ヶ谷七五	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
江東書院	神田神保町二ノ五	光明文館	世田谷祖師谷二ノ三四	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
江東書院	本所練町二ノ一	光明文館	四谷傳馬町一ノ三七	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
江東書院	江戶川小岩町四ノ一八三九	光明文館	本郷駒込追分町五	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公生堂書店	杉並萩窪四ノ四	光明文館	神田神保町一ノ三	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	神田神保町一ノ五九	光明文館	赤坂檜町一〇	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	澁谷代々木上原町一〇四五	光明文館	向島吾嬬町東五ノ一	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	世田谷羽根木町一八四	光明文館	神田小川町三ノ二〇	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	赤坂仲ノ町二九	光明文館	小石川駕籠町七	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	澁橋下落合四ノ二〇〇	光明文館	目黒上目黒八ノ六六一	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	世田谷松原町二ノ六四	光明文館	本郷森川町九三	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	荒川南千住町一ノ六五	光明文館	小石川林町九二	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	神田三崎町二ノ三〇	光明文館	神田神保町二ノ二〇	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	城東南砂町二ノ八五八	光明文館	荏原中延町五一六	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	神田美土代町二	光明文館	神田神保町二ノ三	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	小石川大塚窪町一七	光明文館	神田神保町二ノ四〇	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	日本橋本町四ノ一二	光明文館	神田三崎町一ノ八	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	小石川大塚窪町三	光明文館	神田錦町三ノ二四	弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
公文支店	品川大井立會町五七五	光明文館		弘成堂書店	神田錦町一ノ二七
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	
光成世昭進月榮英有民書院		弘文道館		弘成堂書店	

甲文支店	世田谷三軒茶屋町五〇	耕進社	豐島集鴨五ノ一六二	廣集堂	花原小山八八
甲文支店	世田谷玉川用賀町二ノ二九三	耕進社	中野城山町一四	廣集堂	麴町紀尾井町六
甲文支店	本郷駒込神明町八三	耕進社	葛飾金町一ノ七五九	廣集堂	神田神保町一ノ九
甲文支店	品川大井伊藤町六〇	耕進社	麴町下六番町四八	廣集堂	神田神保町一ノ九
甲文支店	蒲田荻中町六八〇	耕進社	小石川高田豐川町三〇	廣集堂	本郷駒込林町三〇九
甲文支店	本郷駒込林町二四五	耕進社	世田谷上馬町三ノ一〇〇八	廣集堂	京橋京橋一ノ八
甲文支店	目黒上目黒五ノ三三三	耕進社	麴町丸ノ内三菱二一號	廣集堂	豐島池袋二ノ九三八
甲文支店	澁谷代々木富谷町一四四七	耕進社	麴町九段一ノ一二	廣集堂	神田神保町一ノ九
甲文支店	澁橋柏木一ノ一四二	耕進社	澁橋柏木一ノ五八	廣集堂	蒲田新宿町六〇〇
甲文支店	京橋寶町一ノ八	耕進社	麴町一番町六ノ二	廣集堂	瀧野川西ヶ原町七四
甲文支店	豐島高田本町二ノ二五二	耕進社	本所向島須崎町一六一	廣集堂	葛飾細田九三一
甲文支店	世田谷烏山町六二四	耕進社	蒲田御園町一ノ二六	廣集堂	淺草高砂町一五六二
甲文支店	神田一ツ橋二ノ三	耕進社	大森調布鶴ノ木町八一	廣集堂	淺草柳橋二ノ一五
甲文支店	王子志茂町一ノ八〇七	耕進社	牛込早稲田鶴卷町二〇七	廣集堂	京橋築地二ノ二ノ六
甲文支店	神田錦町二ノ九	耕進社	世田谷下馬町三ノ七七八	廣集堂	深川新大橋三ノ一六
甲文支店	淺草淺草橋二ノ五	耕進社	世田谷下馬町三ノ七三〇	廣集堂	神田三崎町一ノ二
甲文支店	神田西神田一ノ一	耕進社	牛込矢來町八	廣集堂	京橋新富町三ノ一七
甲文支店	日本橋馬喰町二ノ二	耕進社	江戶川小岩町四ノ一八三九	廣集堂	神田小川町三ノ五ノ二
甲文支店	下谷徒士町二ノ四九	耕進社	麴町内幸町一ノ七幸ビル内	廣集堂	麴町内幸町一ノ三
甲文支店	麻布六本木町一	耕進社	麴町飯田町二ノ三	廣集堂	澁谷代々木富ヶ谷一四六
甲文支店	杉並馬橋三ノ三二三	耕進社	本郷千駄木町二八四	廣集堂	麴町富士見町二ノ八
甲文支店	中野大和町二六五	耕進社	芝新橋五ノ四	廣集堂	京橋京橋三ノ一第一相五館内
甲文支店	牛込市ヶ谷臺町一〇	耕進社	麴町外堀田町一	廣集堂	牛込東五軒町一
甲文支店	日本橋通三ノ五	耕進社	内務省土木局港灣課内	廣集堂	澁谷八幡通一ノ一八
甲文支店	小石川茗荷谷町五二	耕進社	澁谷中通一ノ二二	廣集堂	麻布北新門前町三
甲文支店		耕進社		廣集堂	
甲文支店		耕進社		廣集堂	
甲文支店		耕進社		廣集堂	
甲文支店		耕進社		廣集堂	
甲文支店		耕進社		廣集堂	
甲文支店		耕進社		廣集堂	
甲文支店		耕進社		廣集堂	
甲文支店		耕進社		廣集堂	
甲文支店		耕進社		廣集堂	
甲文支店		耕進社		廣集堂	

國寶刊行會	麴町平河町二ノ一一	五念屋	下谷龍泉寺町二六	佐久間商店	豐島西巢鴨二ノ三三
國民教育新聞社	麴町平河町二ノ一一	五明堂	本郷本富士町二	佐久間書店	向島吾嬬町東五ノ六五
國民出版社	小石川關口水道町四六	吾實俱樂部	京橋銀座西七ノ一	佐久良堂	本所向島須崎町二四五
國民時論社	麴町元園町二ノ一〇	子供の教養社	瀧野川瀧野川町一九四	佐藤書商	本郷駒込千駄木町五〇
國民新聞社	京橋銀座西七ノ二	子供の日本社	瀧野川瀧野川町一九四	佐藤書店	杉並堀ノ内二ノ四四〇
國民精神社	目黒東町五四	滑稽堂	中野大和町二六九	佐藤書店	杉並和泉町一二〇
國民圖書株式會社	麴町内幸町一ノ六	御殿山堂	日本橋室町二ノ二	佐藤書店	足立本木町二四七二
國民文化研究會	本郷西片町一〇	近藤出版部	品川北品川四ノ七八	佐藤書店	足立千住仲町六一
國民文庫刊行會	神田小川町一ノ六	金春書房	神田東神田一八	佐野書屋	品川大井南濱川町二六六
國民法制學會	淀橋柏木一ノ一四一	壽春書堂	牛込赤城下町七一	佐野書屋	芝白金臺町一ノ三二
國民評論社	芝琴平町三七喜多ビル	近藤出版部	小石川高田豐川町一一	左門書屋	品川大井南濱川町二六六
國民林堂	品川下大崎町三八三	金春書房	豐島區西巢鴨二ノ二九四	齋藤三信堂書店	豐島池袋二ノ一〇八九
克誠堂	本郷本富士町二	齋藤書商		齋藤書店	品川南濱川町一六三四
古賀書店	神田神保町二ノ五	齋藤書店		齋藤書店	京橋木挽町一ノ一四
古今書院	神田駿河臺二ノ一〇	齋藤書店		齋藤書店	江戶川逆井二ノ三六六
黑龍會出版部	豐島區西巢鴨二ノ一〇	齋藤書店		齋藤書店	向島寺島町三ノ四四
五橋堂支店	城東龜戸町五ノ一四	齋藤書店		齋藤書店	小石川戸崎町八
五九堂	向島吾嬬町三六三	齋藤書店		齋藤書店	澁橋柏木町四ノ四五八
五車堂	深川毛利町一六	齋藤書店		齋藤書店	四谷南伊賀町五六
五聖閣出版局	麴町丸ノ内三ノ八仲六號館	齋藤書店		齋藤書店	荒川町屋二ノ四〇一
	神田須田町一ノ五	齋藤書店		齋藤書店	在郷軍人互助國防會
		齋藤書店		齋藤書店	財政經濟時報社
		齋藤書店		齋藤書店	日本橋吳服橋一井田ビル
		齋藤書店		齋藤書店	座右寶刊行會
		齋藤書店		齋藤書店	日本橋江戶橋二ノ八松屋ビル内

榮堂	大森入新井六ノ八二	櫻田文具店	芝新橋三ノ一六	三教書院	神田神保町二ノ一三
坂井書屋	芝白金三光町三八七	櫻川書店	小石川大塚町五六	三元書店	神田銀治町一ノ一
坂井書店	品川大井町四六七	笹岡書店	下谷上根岸町一二四	興書堂	神田三崎町二ノ一一
坂入書店支店	淺草永住町一二五	笹岡書店	京橋越前堀三ノ九	光書社	本所江東橋一ノ三
坂口共榮堂	葛飾新宿町一ノ三六	澤崎書店	瀧野川田端町一〇四三	光書店	神田神保町一ノ七
坂田更生堂	日本橋箱崎町二ノ六	澤田信陽堂	澁橋西大久保二ノ三九	甲書堂	豐島西巢鴨三ノ七二四
坂本商書	向島寺島町八ノ一二二	澤田屋美原支店	大森新井宿一ノ三六〇	才書堂	神田神保町二ノ一五
坂本商書	本郷森川町九〇	澤野榮松堂	大森一八七	才書堂	杉並高圓寺三ノ三四五
坂本商書	麴町九段一ノ一二	澤村商書	城東龜戸町三ノ一一	昭書堂	足立千住旭町一三
坂本商書	深川富岡町一ノ三一	榮一書堂	葛飾青戸町二ノ七三	昭書堂	荒川日暮里町二ノ三六
坂本商書	荏原小山町二一九	榮堂書店	豐島池袋八六六	昭書堂	本所橫網町八
酒井一貫堂	本所既橋通三ノ二七	榮堂書店	牛込北町二〇	勝書堂	王子稻付西町六ノ六
酒井十字屋	神田神保町一ノ七	榮堂書店	荏原中延町一二六	勝書堂	神田美土代町二ノ一
酒井書店	本郷駒込淺嘉町五〇	益出版社	神田須田町一ノ一〇	秀書堂	品川東大崎三ノ二四六
酒井書店	品川西大崎三ノ四七七	益出版社	麴町富士見町四ノ八	秀書堂	京橋橫町二ノ五ノ二
神原文盛堂	日本橋本町四ノ二	益出版社	神田美土代町一健文社方	秀書堂	神田神保町一ノ一
相模屋	四谷東信濃町一一	學益社	神田神保町一ノ五二	信書社	神田神保町一ノ一
相模屋	下谷南稻荷町四四	學益社	小石川表町一〇	信書社	中野朝日丘二五
相模書房	日本橋通三ノ四日本橋ビル内	學益社	京橋京橋二ノ七	信書社	世田谷大原町三〇六
櫻井書店	四谷麴町一二ノ二四	角屋書店	芝高輪南町四六	信書社	神田神保町一ノ四三
櫻井書店	豐島西巢鴨一ノ三五七	角屋書店	牛込早稲田南町三二	信書社	芝濱松町二ノ一七
櫻井商書	城東北砂町二ノ二四〇	角屋書店	麻布北日夕窪町一一	信書社	神田神保町一ノ五二
櫻川堂	芝新橋七ノ一〇	角屋書店	京橋銀座西五ノ二	信書社	淺草淺草橋二ノ五
櫻木書房	四谷西信濃町一	角屋書店	芝二本榎西町二	信書社	

